Nikon

デジタル一眼レフカメラ

使用説明書

Jp

この使用説明書について

この使用説明書では、以下のような方法で、知りたいことを簡単に探し出すことができます。

目的別かんたん検索から → P. iv～ix

機能名がわからなくても、使いたいことや知りたいことをかんたんに探し出すことができます。

目次から → P. x～xvii

撮影、再生、メニューなど、項目別に探し出すことができます。

すぐに撮影する方のためにから → P. 21～22

簡単な撮影の手順を紹介します。

索引から → P. 416～422

さまざまな項目が五十音順に一覧にまとめられているので、機能名や用語がわかっているときに便利です。

警告メッセージから → P. 388～395

ファインダーや液晶モニターに表示されている主な警告メッセージを説明しています。

故障かな？と思ったらから → P. 381～387

カメラの動作がおかしいときに、原因を調べるのに役立ちます。

⚠安全上のご注意

安全にカメラを使用していただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをご使用になる前に必ずお読みください。詳しくはP.xviii～xxiiiをご覧ください。

「見て聞くマニュアル」デジチューター

インターネット上でD300の操作方法を、動画や作例写真を交えながら説明しています。下記アドレスのホームページをご覧ください。

http://www.nikondigitutor.com/

カメラと付属品を確認する

ご使用になる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。

※コンパクトフラッシュカード（CFカード）やマイクロドライブは別売です。

- ❏ D300カメラ本体（P.3）
- ❏ ボディーキャップ（P.34、367）
- ❏ 液晶モニターカバー BM-8（P.19）
- ❏ アイピースキャップDK-5（P.20）
- ❏ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e（端子カバー付）（P.30、32）
- ❏ クイックチャージャー MH-18a（電源コード付）（P.30）
- ❏ USBケーブルUC-E4（P.224、P.232）
- ❏ ビデオケーブルEG-D100（P.242）
- ❏ ストラップAN-D300（P.19）

- ❏ 保証書
- ❏ 使用説明書（本書）
- ❏ Quick Guide（クイックガイド）
- ❏ ソフトウェアインストールガイド
- ❏ Software Suite（ソフトウェア スイート）CD-ROM
- ❏ 登録のご案内

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

 カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

 カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

表記について

- コンパクトフラッシュカード（CF カード）およびマイクロドライブをメモリーカードと表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。

商標説明

- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は米国SanDisk 社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime は米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- Microdrive はHitachi Global Storage Technologies の登録商標です。
- PictBridge ロゴは商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

目的別かんたん検索

使いたいことや知りたいことから、説明が記載されているページをかんたんに調べられます。

特長的な機能について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
より高画質なRAW画像で撮影したい	14ビットRAW	P.59
液晶モニターを見ながら撮影したい	ライブビュー	P.79
撮影する画像の仕上がり具合を簡単に設定して撮影したい	ピクチャーコントロール	P.148
白とびや黒つぶれの少ない画像を撮影したい	アクティブD-ライティング	P.168
不規則な動きをする被写体に自動的にピントを合わせ続けたい	3D-トラッキング	P.270
ピントが合う位置をレンズごとや一括で微調節したい	AF微調節	P.327
撮像素子上のローパスフィルターに付いたゴミやほこりを掃除したい	イメージセンサークリーニング	P.371

カメラの設定について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
はっきり見えるようにファインダーを調節したい	視度調節	P.43
液晶モニターがすぐに消えないようにしたい	液晶モニターのパワーオフ時間	P.280
ファインダー内のシャッタースピードと絞り値がすぐに消えないようにしたい	半押しタイマー	P.46、279

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
内蔵時計の時刻を合わせたい	ワールドタイム	P.36、316
内蔵時計を現地時刻に合わせたい	ワールドタイム	P.36、316
メニュー表示時や再生時の液晶モニターの明るさを調整したい	液晶モニターの明るさ	P.313
カメラの設定を初期状態に戻したい	ツーボタンリセット	P.184
撮影メニューの設定を初期状態に戻したい	撮影メニューのリセット	P.257
カスタムメニューの設定を初期状態に戻したい	カスタムメニューのリセット	P.266
セルフタイマーの時間を変更したい	セルフタイマー時間	P.280
撮影時にピピッという電子音が鳴らないようにしたい	電子音設定	P.281
露出インジケーターの＋/－方向を変えたい	インジケーター表示の＋/－方向	P.311
メニューに表示される言語を変えたい	言語（Language）	P.316
各メニューで設定した内容を、他のD300でも同じ設定にしたい	カメラ設定の保存と読み込み	P.325

カメラの操作について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
カメラでメニューの内容を知りたい	ヘルプ機能	P.29
メニューの操作方法を知りたい	メニューの操作方法	P.24
ファインダー内表示や表示パネルの表示の内容を知りたい	ファインダー、表示パネル、情報画面	P.8、10、12
情報画面表示の内容を知りたい		
液晶モニターや表示パネルの警告表示の内容を知りたい	警告メッセージ	P.388
バッテリーの残量を確認したい	バッテリー残量の表示	P.44

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
バッテリーの状態を正確に知りたい	電池チェック	P.322
画像ファイル番号が、メモリーカードを換えても連番になるようにしたい。ファイル番号をリセットして1から始めたい	連番モード	P.283
カメラを掃除したい	カメラとレンズのお手入れ	P.370

撮影について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
使用中のメモリーカードであと何コマ撮影できるのか知りたい	メモリーカードの残量を確認する	P.45
大きくプリントするための画像を撮影したい	画質モード、画像サイズ	P.56、60
撮影できるコマ数を増やしたい	画質モード、画像サイズ	P.56、60
オートフォーカスの設定を変更したい	フォーカスに関する設定	P.61
単写（1コマ撮影）と連写（連続撮影）を切り換えたい	レリーズモード	P.74
連続撮影速度を最速にしたい	連続撮影速度	P.76、282
セルフタイマーを使って撮影したい	セルフタイマー	P.91
ISO感度を変えたい	ISO感度	P.96
自分が設定した感度で適正露出が得られないときに自動的にISO感度を上げたい	感度自動制御	P.98
動きの速い被写体を写し止めたり、川の流れなどの流動感を出したい	露出モード**S**（シャッター優先オート）	P.108
背景をぼかして被写体を浮かび上がらせたり、手前から奥まで鮮明に写したい	露出モード**A**（絞り優先オート）	P.109

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
シャッタースピードと絞りを自分で設定したい	露出モード**M**（マニュアル）	P.111
画像を明るく、または暗く撮影したい	露出補正	P.116
花火や天体写真、自動車のライトの流れを撮影したい	長時間露出	P.113
同じ被写体の露出を変えながら撮影したり、フラッシュの光量を変えながら撮影したい	AEブラケティング、フラッシュブラケティング	P.119、298
ホワイトバランスを変えて何コマか同時に撮影したい	ホワイトバランスブラケティング	P.123、298
ホワイトバランスを変えたい	ホワイトバランス	P.128
フラッシュの設定を変更したい	フラッシュモード	P.176
暗い場所でフラッシュを光らせたい	フラッシュを使った撮影方法	P.173
瞳が赤くならないようにしたい	赤目軽減発光	P.176
複数のコマを重ねて1枚の画像を撮りたい	多重露出	P.186
適正露出の基準を変えたい	基準露出レベルの調節	P.277
シャッターボタンを押したときの、カメラのブレを最小限に抑えたい	露出ディレーモード	P.285
1/250秒より速いシャッタースピードでフラッシュ撮影したい	フラッシュ撮影同調速度	P.288

再生について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
撮影した画像をカメラで見たい	画像をカメラで再生する	P.206
撮影した画像の情報を詳しく知りたい	画像情報の表示	P.208
再生時に画像の一部がチカチカと点滅するのを直したい	ハイライト表示	P.209、250

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
いらない画像を1コマずつ消したい	画像を削除する	P.222
いらない画像をまとめて消したい	削除	P.248
画像を拡大して、ピントの具合を確認したい	拡大表示	P.220
大切な画像なので、誤って削除しないようにしたい	プロテクト	P.221
画像を表示できないようにしたい	非表示設定	P.249
撮影した画像の中の非常に明るい部分（ハイライト部）を確認したい	再生画面設定（ハイライト）	P.250
撮影した画像でピント合わせに使用したフォーカスポイントを確認したい	再生画面設定（フォーカスポイント）	P.250
撮影直後に画像を自動的に表示してほしい	撮影直後の画像確認	P.251
画像をスライドショーにしてカメラで見たい	スライドショー	P.252

画像編集について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
暗くなってしまった部分を明るく修正したい	D-ライティング	P.334
フラッシュで瞳が赤くなってしまった画像を修正したい	赤目補正	P.335
画像から必要な部分だけを切り抜きたい	トリミング	P.336
撮影した画像をモノクロやセピア色に変えたい	モノトーン	P.337
撮影した画像の色を変えたい	フィルター効果	P.338
RAW画像をカメラでJPEG画像に変換したい	カラーカスタマイズ	P.338
2コマの画像を1コマに合成したい	画像合成	P.339

出力関連について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
画像をテレビで見たい	画像をテレビで見る	P.242
画像をハイビジョン（高画質）テレビで見たい	HDMI	P.244
パソコンに画像を転送したい	画像をパソコンに転送する	P.224
画像を印刷したい	画像をプリンターで印刷する	P.230
カメラとプリンターを直接接続して印刷したい	ダイレクトプリント	P.231
日付を入れて印刷したい	日付プリント	P.234
プリントサービス店にプリントを依頼したい	プリント指定（DPOF）	P.240

アクセサリーについて

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
別売のスピードライト（フラッシュ）を使いたい	使用できるスピードライト	P.357
使用できるレンズを知りたい	使用できるレンズ	P.350
このカメラで使用できるACアダプター、リモートコード、ファインダー用アクセサリーを知りたい	使用できるアクセサリー	P.364
使用できるメモリーカードを知りたい	推奨メモリーカード	P.369
使用できるパソコン用ソフトウェアを知りたい	使用できるアクセサリー	P.367

目 次

ホワイトバランスに関する設定 127

画像処理に関する設定 147

フラッシュ撮影に関する設定 171

撮影の便利な機能 183

画像の再生 205

パソコン、プリンター、テレビとの接続 223

メニューガイド 245

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告（カメラとレンズについて）

分解禁止	**分解したり修理・改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
バッテリーを取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかにバッテリーを取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。 バッテリーを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
使用禁止	**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと** 失明や視力障害の原因となります。
発光禁止	**車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

⚠ 警告（カメラとレンズについて）

⚠ 警告	**ストラップが首に巻き付かないようにすること** 特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと。 首に巻き付いて窒息の原因となります。
使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
⚠ 警告	**指定のバッテリーまたは専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

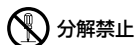
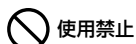
⚠ 注意（カメラとレンズについて）

⚠ 感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
⚠ 保管注意	**製品は幼児の手の届かないところに置くこと** ケガの原因になることがあります。
⚠ 使用注意	**逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらすこと** 太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。
⚠ 保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
⚠ 移動注意	**三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。
⚠ 使用注意	**飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。病院で使う際も、病院の指示に従ってください。
禁止 プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（バッテリーやACアダプター）を外すこと** バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

⚠ 注意（カメラとレンズについて）

発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因となることがあります。
禁止	**本機器やACアダプターは布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪影響を与え、火災の原因となることがあります。
禁止	**同梱のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼす場合があります。

⚠ 危険（専用リチウムイオン充電池について）

禁止	**バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**バッテリーをショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eに対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱の原因となります。 Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3eは、D300に対応しています。
危険	**バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

警告（専用リチウムイオン充電池について）

 保管注意

バッテリーは幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

 水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること

液もれ、発熱の原因となります。

 警告

バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
ニコンサービス機関やリサイクル協力店へご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

 警告

バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因になります。

注意（専用リチウムイオン充電池について）

バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。

警告（クイックチャージャーについて）

 分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

 接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

 すぐに修理依頼を

電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

⚠ 警告（クイックチャージャーについて）

プラグを抜く すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
禁止	**電源コードを傷つけたり加工したりしないこと** **また、重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないこと** 電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。
感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因になることがあります。

⚠ 注意（クイックチャージャーについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置注意	**製品は幼児の手の届かないところに置くこと** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録が行えます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

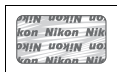
http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合せでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。
  http://www.nikon-image.com/jpn/support/manual/
  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットマニュアルの画像（P.136）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くでお使いになると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

ご使用になる前に

ここでは、カメラを使う前にあらかじめ知っておいていただきたいことや、カメラ本体の各部名称を説明します。

はじめに

ニコンデジタル一眼レフカメラをお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。ご使用の前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

アクセサリーについてのご注意

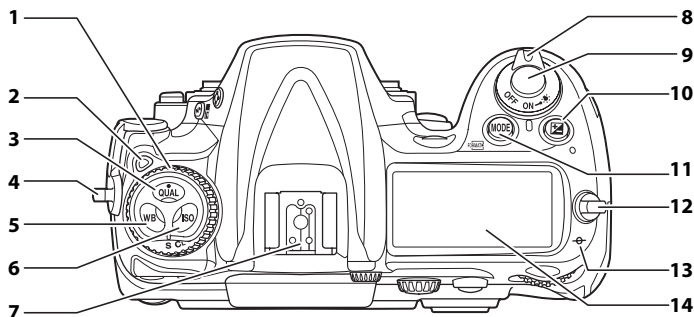
このカメラには、ニコン製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

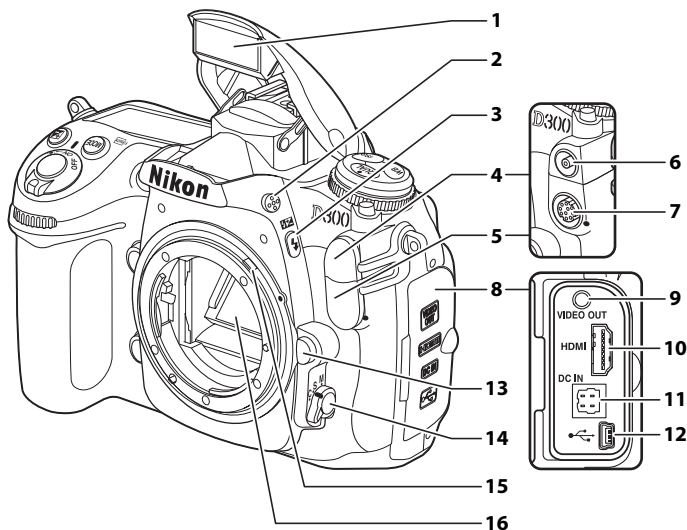
カメラなどの点検サービスについて

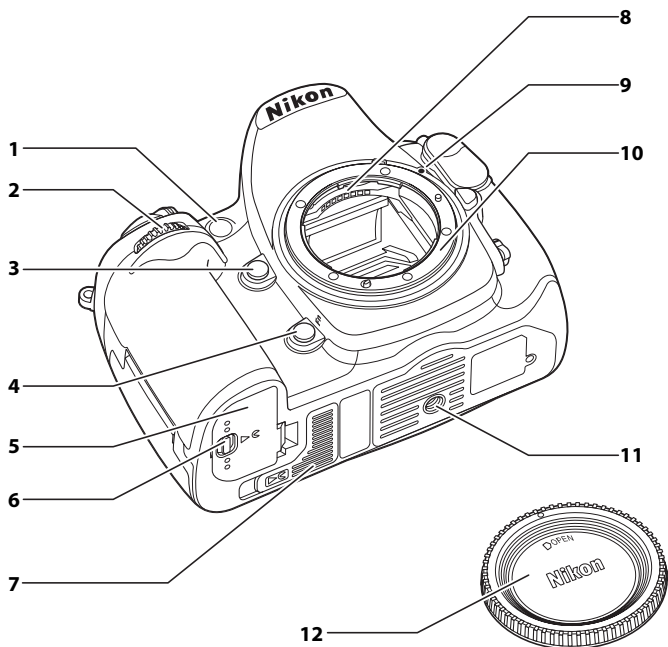
カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

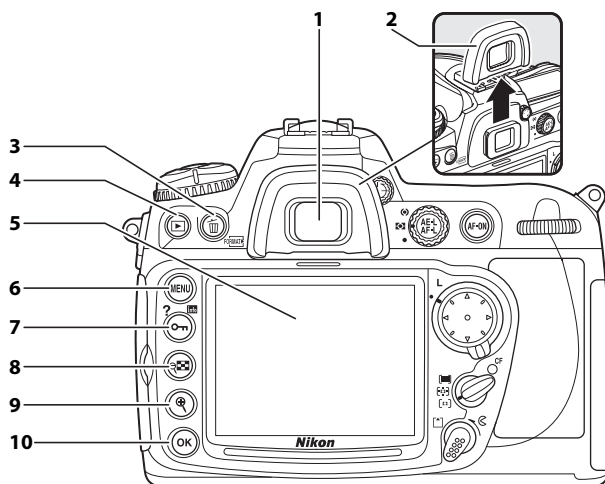
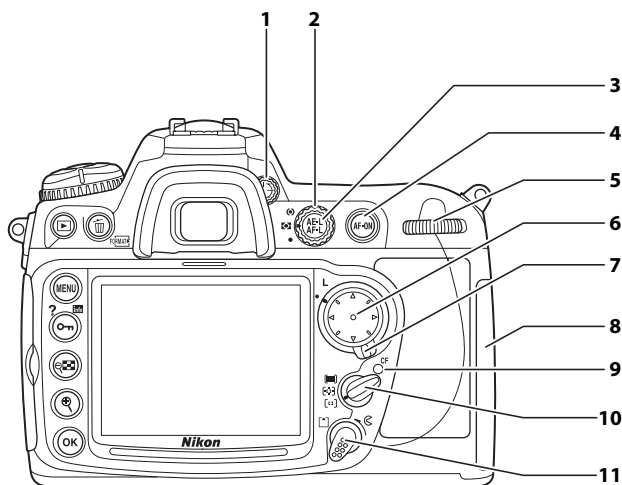
- 特に業務用にご使用の場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズや別売スピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

各部の名称と機能

カメラ本体

1	レリーズモードダイヤル ... 75
2	レリーズモードダイヤル ロックボタン 75
3	**QUAL** 画質モード/ 画像サイズボタン ....57、60 ツーボタンリセットボタン 184
4	ストラップ取り付け部 (吊り金具) 19
5	**WB** ホワイトバランスボタン ....129、134、135
6	**ISO** ISO感度ボタン............96
7	フラッシュ取り付け部 (アクセサリーシュー)...... 363
8	電源スイッチ........................... 44
9	シャッターボタン........ 51、52
10	露出補正ボタン............ 116 ツーボタンリセットボタン 184
11	**MODE** 露出モードボタン.... 105 FORMAT フォーマットボタン....... 41
12	ストラップ取り付け部 (吊り金具) 19
13	距離基準マーク............. 72
14	表示パネル.................................... 8

カメラ本体（つづき）

1	内蔵フラッシュ 173
2	フラッシュロック解除ボタン 173
3	ϟ フラッシュモードボタン 173
	調光補正ボタン 178
4	シンクロターミナルカバー 363
5	10ピンターミナルカバー .... 201、368
6	シンクロターミナル............ 363
7	10ピンターミナル... 201、368

8	端子カバー ....226、242
9	ビデオ出力端子 242
10	HDMI端子 244
11	DC入力端子 .... 364 （別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5を接続します）
12	USB端子 ....226、232
13	レンズ取り外しボタン........35
14	フォーカスモードセレクトダイヤル .... 62、71
15	露出計連動レバー................ 408
16	ミラー .... 79、93、374

1	AF補助光ランプ................273
	セルフタイマーランプ........92
	赤目軽減ランプ.................176
2	サブコマンドダイヤル........14
3	プレビューボタン ..105、306
4	**Fn** ファンクションボタン
	.............119、123、181、303
5	バッテリー室カバー 32
6	バッテリー室開閉ノブ........32
7	MB-D10用接点カバー......364
8	レンズ信号接点
9	レンズ着脱指標 34
10	レンズマウント 72
11	三脚ネジ穴
12	ボディーキャップ 367

カメラ本体（つづき）

1	ファインダー接眼窓 43
2	接眼目当てDK-23....................20
3	🗑 削除ボタン........... 54、222
	FORMAT フォーマットボタン....41
4	▶ 再生ボタン......... 53、206
5	液晶モニター ....53、79、206
6	MENU メニューボタン ..24、245
7	O‒π プロテクトボタン ... 221
	? ヘルプボタン 29
	info 情報表示ボタン.............12
8	縮小/サムネイルボタン 218
9	拡大ボタン 220
10	OK OKボタン 28

1	視度調節ダイヤル.................. 43
2	測光モードダイヤル.......... 103
3	AE-L AF-L AE/AFロックボタン .... 68、306
4	AF-ON AF作動ボタン.. 63、86
5	メインコマンドダイヤル ... 14
6	マルチセレクター................. 26
7	フォーカスポイントロックレバー 66
8	メモリーカードカバー........ 39
9	メモリーカードアクセスランプ............................... 40、52
10	AFエリアモードセレクトダイヤル.................................. 64
11	メモリーカードカバー開閉ノブ..................................... 39

表示パネル（説明のため、全ての表示を点灯させています）

1 ホワイトバランス
色温度表示 135

2 シャッタースピード ..108、111
露出補正値 116
調光補正値 178
ISO感度 96
ホワイトバランス微調整量
.... 134
ホワイトバランス色温度 ... 135
ホワイトバランス
プリセットマニュアル
データ番号 145
オートブラケティングコマ数
.... 119
WBブラケティングコマ数
.... 123
インターバル回数 194
非CPUレンズ焦点距離 200

3 フラッシュシンクロマーク
.... 288

4 プログラムシフトマーク
.... 107

5 露出モード 104

6 画像サイズ 60

7 画質モード 57

8 オートエリアAF設定マーク
....64
AFエリアモード表示 65
3D-トラッキング設定マーク
.....................................64、270

9 ホワイトバランス微調整
設定マーク 134

10 ホワイトバランスモード. 129

11 記録可能コマ数 45
連続撮影可能コマ数 77
PCカメラモード表示 224
ホワイトバランス
プリセットマニュアルデータ
取得モード表示 139
手動設定レンズNo. 200

12 1000コマ以上補助表示 45

13 バッテリー残量表示 44

14 フラッシュモード 173

15 電子音マーク 281

16 絞り値........................ 109、111
絞り込み段数 .... 110、353
オートブラケティング補正値 120
WBブラケティング補正値 124
インターバルコマ数......... 194
非CPUレンズ開放絞り値 200
PC接続中マーク................ 227

17 絞り込み段数マーク ....110、353

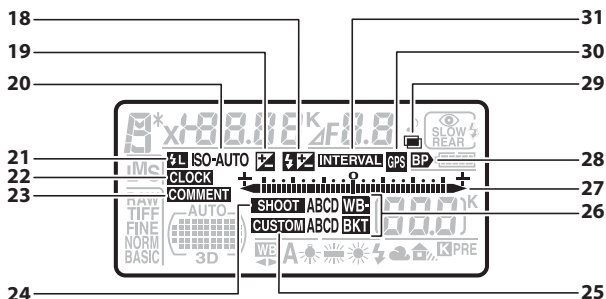
18 調光補正マーク 178

19 露出補正マーク 116

20 ISO感度マーク 96
感度自動制御設定マーク 98

21 FVロックマーク.................. 181

22 時刻未設定マーク..... 38、389

23 画像コメント入力設定マーク 317

24 撮影メニュー設定表示..... 255

25 カスタムメニュー設定表示 266

26 オートブラケティングマーク 119
WBブラケティングマーク 123

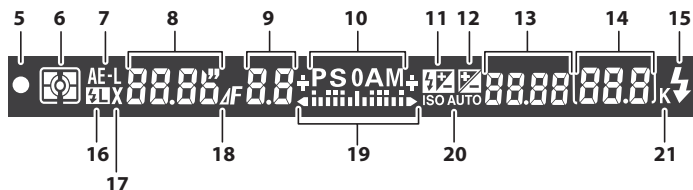
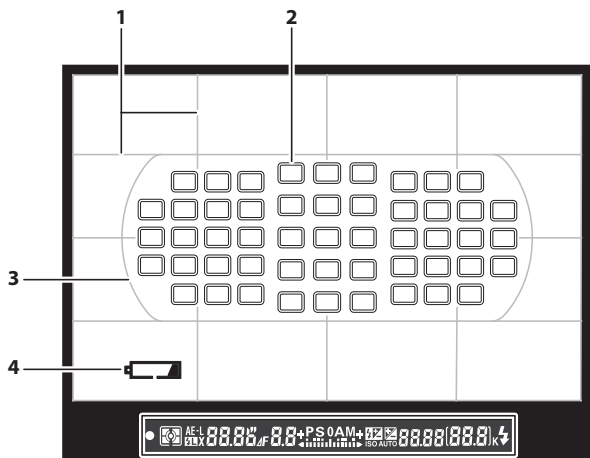
27 露出インジケーター.........113
露出補正インジケーター 116
オートブラケティングインジケーター 119
WBブラケティングインジケーター 123
PC接続中インジケーター...227

28 MB-D10のバッテリー使用マーク 364

29 多重露出マーク 188

30 GPS通信マーク.................. 202

31 インターバルタイマー設定マーク 194

ファインダー（説明のため、全ての表示を点灯させています）

1	構図用格子線......................281 （カスタムメニュー d2［**格子線表示**］を［**する**］に設定している場合のみ表示されます）
2	フォーカスポイント表示 ....67、272
3	AFエリアフレーム..... 43、84
4	バッテリー残量表示...44、282 （カスタムメニュー d3［**ファインダー内警告表示**］で非表示にできます）
5	ピント表示.................. 51、72
6	測光モード.........................102
7	AEロックマーク................114
8	シャッタースピード .... 108、111
9	絞り値..................... 109、111 絞り込み段数.....................353
10	露出モード.........................104
11	調光補正マーク.................178
12	露出補正マーク.................116
13	ISO感度.................................96
14	記録可能コマ数....................45 連続撮影可能コマ数............77 ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ取得モード表示................ 139 露出補正値........................ 116 調光補正値........................ 178 PC接続中マーク............... 227
15	レディーライト 173
16	FVロックマーク................ 181
17	フラッシュシンクロマーク 288
18	絞り込み段数マーク 353
19	露出インジケーター......... 113 露出補正インジケーター 116
20	感度自動制御設定マーク 98
21	1000コマ以上補助表示 45

ファインダーについてのご注意

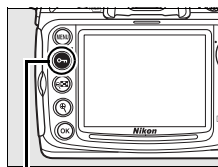
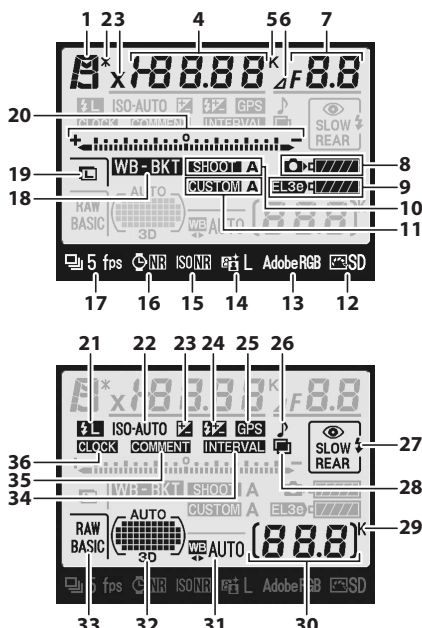
カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなりますが、故障ではありません。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

高温、低温下での液晶表示について

表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

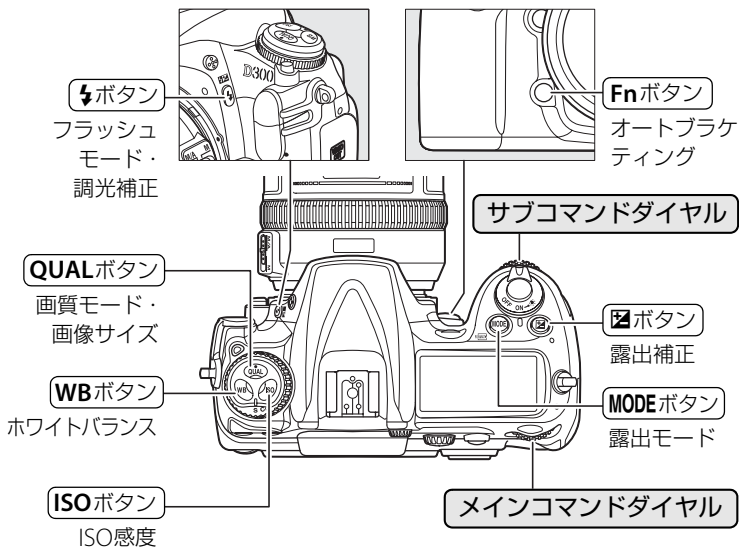
情報画面（説明のため、全ての表示を点灯させています）

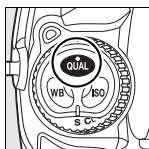
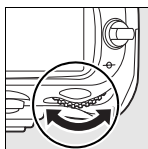
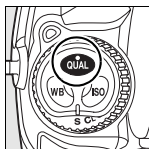
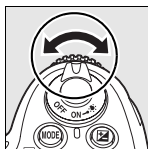
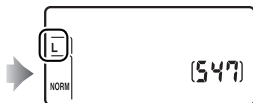
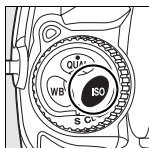
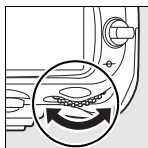
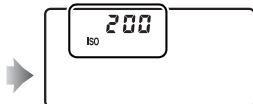
infoボタン

infoボタンを押すと、液晶モニターに次のような「情報画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数、AFエリアモードなどを液晶モニターで確認するときに便利です。

- 次の場合は、液晶モニターが消灯します。
  - シャッターボタンを半押しする
  - 再度infoボタンを押す
  - 操作を行わないまま約20秒（初期設定）経過する

関連ページ

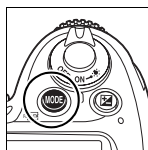
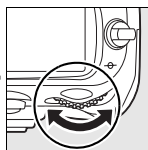
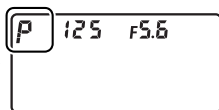
液晶モニターの点灯時間を変更する → c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（P.280）
情報画面の表示を手動で白黒反転する → d7［**情報画面の表示設定**］（P.284）

コマンドダイヤル

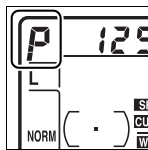
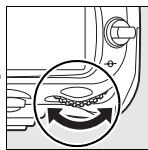
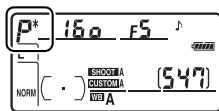
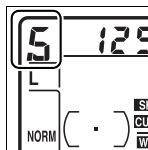
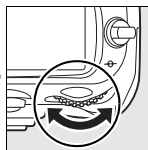
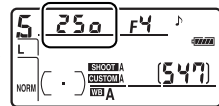
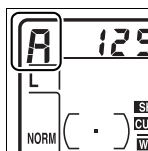
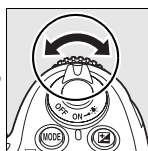
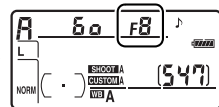
コマンドダイヤル（メインコマンドダイヤル・サブコマンドダイヤル）を回すと、各ボタンとの組み合わせでいろいろな機能が簡単に設定できます。

画像の記録に関する設定

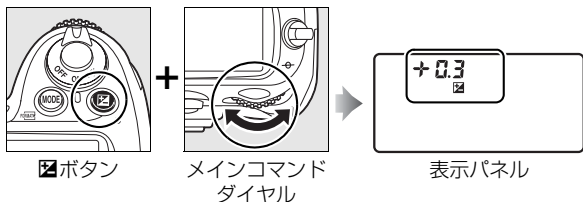
各ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して設定します。

ISO感度に関する設定

各ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して設定します。

▌露出に関する設定

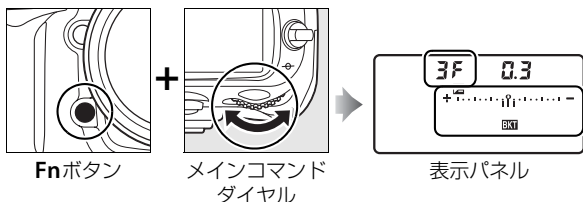
各ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して設定します。

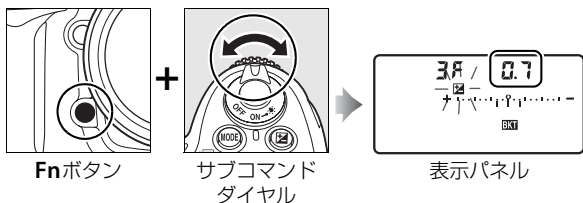
露出モードの設定（P.104）

MODEボタン　＋　メインコマンドダイヤル　→　表示パネル

- 各露出モードに設定後、コマンドダイヤルを回すと次のような機能を設定できます。

プログラムシフト（Pのとき：P.107）

露出モードP　＋　メインコマンドダイヤル　→　表示パネル

シャッタースピードの設定（SまたはMのとき：P.108、111）

露出モードSまたはM　＋　メインコマンドダイヤル　→　表示パネル

絞り値の設定（AまたはMのとき：P.109、111）

露出モードAまたはM　＋　サブコマンドダイヤル　→　表示パネル

露出補正量の設定（P.116）

ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

オートブラケティングの設定/解除/撮影コマ数の設定（P.119、122）

Fnボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

オートブラケティングの補正ステップの設定（P.120）

Fnボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

コマンドダイヤル併用時のファンクションボタンの機能

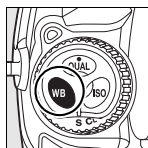
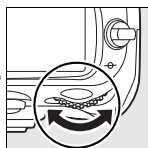
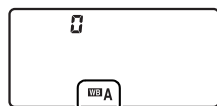
Fn ボタンのコマンドダイヤル併用時の操作を［**シャッター・絞り値1段選択**］や［**手動設定済みレンズの選択**］、［**ダイナミックAFエリア**］に変更できます（カスタムメニュー f4［**ファンクションボタンの機能**］）（P.303）。

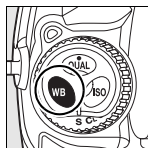
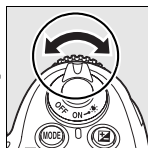
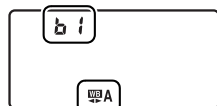
プレビューボタン、AE/AFロックボタン

プレビューボタンやAE/AFロックボタンも、ファンクションボタンと同じようにコマンドダイヤル併用時の機能を設定できます（カスタムメニュー f5［**プレビューボタンの機能**］、f6［**AE/AFロックボタンの機能**］）（P.306）。

ホワイトバランスに関する設定

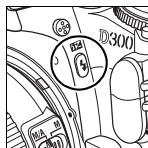
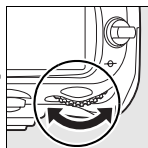
各ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して設定します。

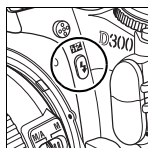
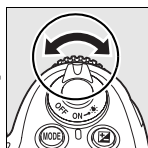
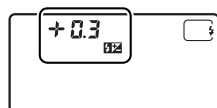
ホワイトバランスモードの設定（P.129）

WBボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

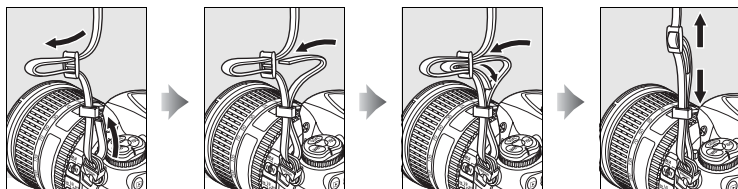
ホワイトバランスの微調整/色温度選択/プリセットマニュアルデータ選択（P.134、135、145）

WBボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

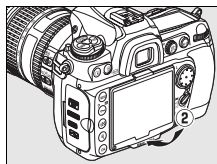
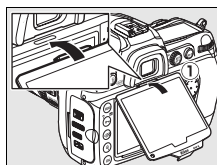
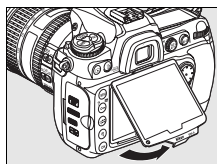
フラッシュ撮影に関する設定

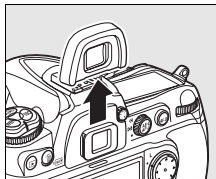
各ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して設定します。

フラッシュモードの設定（P.173）

ϟボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

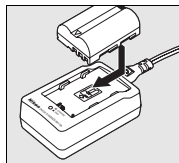
調光補正量の設定（P.178）

ϟボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

ストラップ AN-D300の取り付け方

液晶モニターカバー BM-8の取り付け、取り外し方

液晶モニターカバーを取り付けるには、液晶モニターの上にある溝にカバーの上部をはめ込み（①）、カバーの透明な部分が液晶モニターと重なるように置き、カチッと音がするまで上から軽く押してください。（②）。

カバーを取り外すときは、カメラをしっかりと支え、右図のようにカバーの下からゆっくりと外してください。

接眼目当てDK-23の取り外し方

セルフタイマー撮影（P.91）やインターバルタイマー撮影（P.191）に使用する付属のアイピースキャップDK-5や、各種ファインダー用アクセサリー（P.365）を取り付けるには、接眼目当てを取り外す必要があります。接眼目当てを取り外すには、カメラをしっかりと支え、接眼目当てを上方向に引き抜いてください。

すぐに撮影する方のために

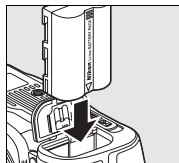
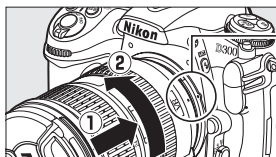
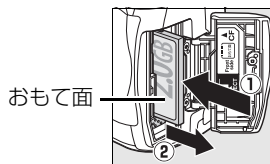
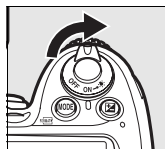
次の手順で操作すると、すぐに撮影ができます。

1　バッテリーを充電する（P.30）

2　バッテリーをカメラに入れる（P.32）

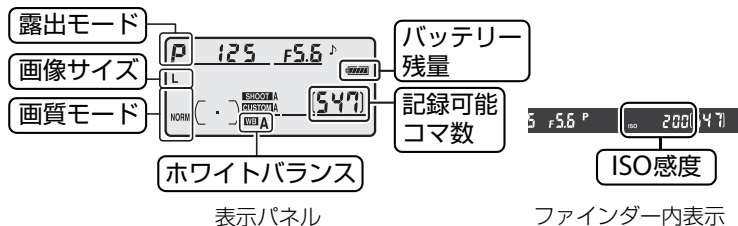
3　レンズを取り付ける（P.34）

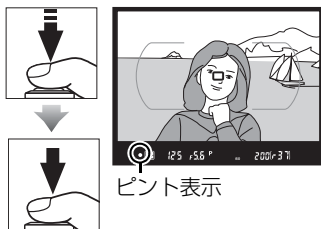
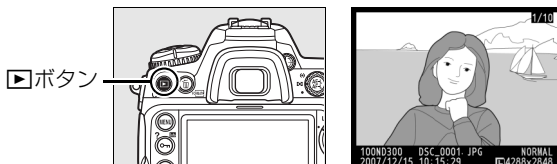
着脱指標

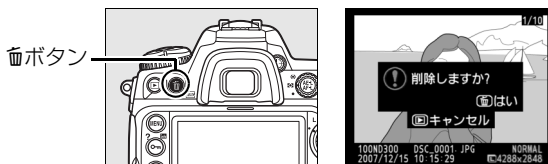
4　メモリーカードを入れる（P.39）

おもて面

5　カメラの電源をONにする（P.44）

日時を設定するには、P.36をご覧ください。

ファインダーを見やすくするには、P.43をご覧ください。

6 カメラの設定状態を確認する（P.44、47）

7 フォーカスモードセレクトダイヤルをS（シングルAFサーボ）にする（P.49、62）

8 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する（P.51、52）

9 撮影した画像を確認する（P.53）

10 不要な画像を削除する（P.54）

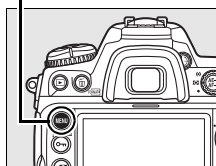
- 🗑ボタンを2回押して表示中の画像を削除します。

基本操作

ここではメニューの操作方法や撮影前の準備、基本的な撮影と再生を説明します。

メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

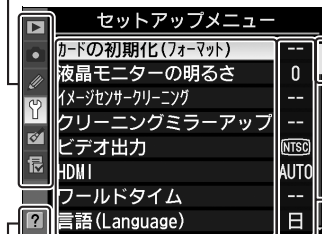
メニューを表示するには

MENUボタンを押すと、液晶モニターに下のようなメニューを表示します。

タブ

6種類のメニュー（次ページ参照）を示すアイコン（絵文字）があります。それぞれのアイコンのタブを選ぶと、そのメニューが表示されます

項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

セットアップメニュー

カードの初期化（フォーマット）	--
液晶モニターの明るさ	0
イメージセンサークリーニング	--
クリーニングミラーアップ	--
ビデオ出力	NTSC
HDMI	AUTO
ワールドタイム	--
言語（Language）	日

各項目の設定をアイコンで表示します

?

ヘルプがある場合に表示します（P.29）
このアイコンを表示しているときにO‐n（?）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します

メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

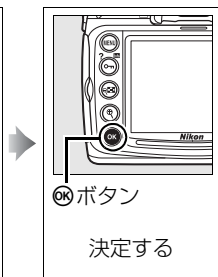
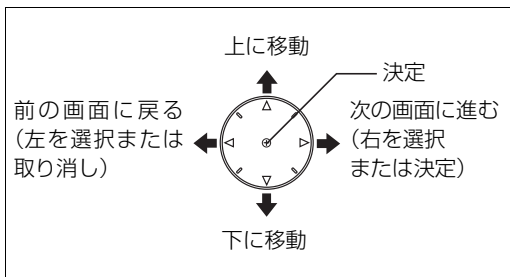
メニューの種類

どのメニューが表示されているかは、画面左端のタブで確認できます。

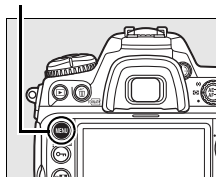
メニュー	内容
再生メニュー（P.246）	撮影した画像に対する操作や、再生についての設定などを行います。
撮影メニュー（P.254）	撮影についての設定を行います。
カスタムメニュー（P.264）	カメラの各種設定を、好みに合わせて変更します。
セットアップメニュー（P.312）	メモリーカードの初期化（フォーマット）や、カメラの基本的な設定などを行います。
画像編集メニュー（P.329）	撮影した画像を編集（加工と補正）します。
マイメニュー（P.344）	よく使うメニューの項目を登録しておくことができます。

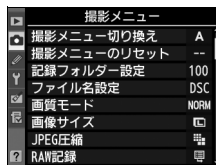
メニュー項目の設定

■操作に使うボタン

メニューの操作には、マルチセレクターと㊄ボタンを使います。

■メニュー項目の設定方法

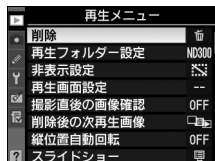
1 メニュー画面を表示する

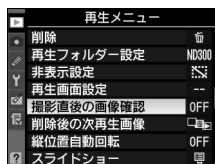
- MENUボタンを押します。

2 メニューのタブを選ぶ

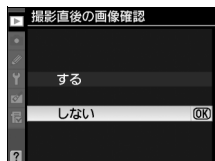
- ◀を押すと、タブのアイコンを黄色く表示します。

3 メニューを切り換える

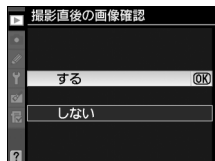
• ▲または▼を押して、メニューを切り換えます。

4 選んだメニューに入る

• ▶を押して、選んだメニューに入ります。

5 メニュー項目を選ぶ

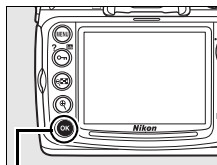
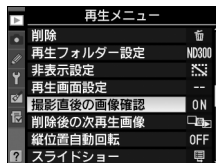
• ▲または▼で項目を選びます。

6 設定内容を表示する

• ▶を押して設定内容を表示します。

7 設定内容を選ぶ

• ▲または▼で設定内容を選びます。

8 決定する

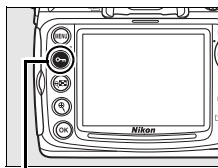
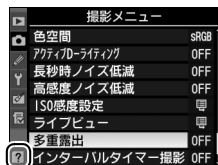
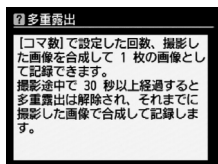
- ⓞボタンを押して設定内容を決定します。
- メニュー操作をキャンセルするには、MENUボタンを押してください。

ⓞボタン

再生メニュー
削除
再生フォルダー設定 ND300
非表示設定
再生画面設定 --
撮影直後の画像確認 ON
削除後の次再生画像
縦位置自動回転 OFF
スライドショー

- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- ⓞボタンの代わりにマルチセレクターの▶や**中央**を押しても決定できますが、画像の削除やメモリーカードの初期化などの重要な設定項目については、ⓞボタンしか使えないことがあります。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し（P.52）してください。液晶モニターが消灯し、撮影できる状態になります。

ヘルプを使う

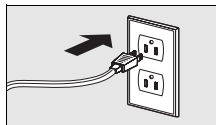
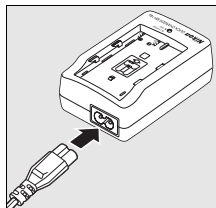
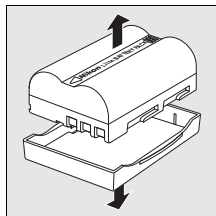
メニュー画面の左下にヘルプマーク?が表示されているときは、O-n（?）ボタンを押している間、その項目の説明（ヘルプ）を見ることができます。

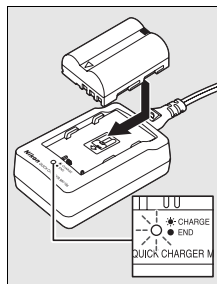
- 説明が2ページ以上ある場合は、O-n（?）ボタンを押しながらマルチセレクターの▼を押して、次のページを表示してください。
- O-n（?）ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。

O-nボタン

撮影前の準備

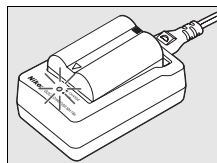
バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3eは、ご購入直後にはフル充電されていません。ご使用前に付属のクイックチャージャーMH-18aでフル充電してください。使い切ったバッテリー1個を充電するには約2時間15分かかります。

1 クイックチャージャーをコンセントにつなぐ

- クイックチャージャーと電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

2 バッテリーの端子カバーを取り外す

3 バッテリーを充電する

- バッテリーをクイックチャージャーの中にかかれている図に合わせて取り付けます。
- 「CHARGE」ランプが点滅し、充電が始まります。

4 充電が完了する

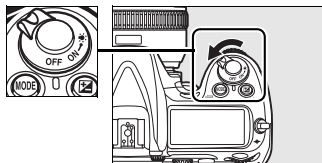
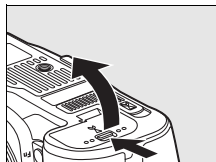
- 「CHARGE」ランプが点滅から点灯に変わったら、充電は完了です。バッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

付属の電源コードについてのご注意

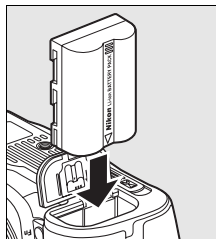
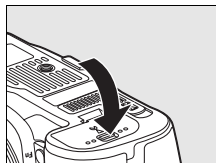
付属の電源コードは、クイックチャージャーMH-18a以外の機器に接続しないでください。この電源コードは、日本国内専用（AC100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、ニコンオンラインショップ（http://shop.nikon-image.com/）でもお求めいただけます。

バッテリーをカメラに入れる

1 カメラの電源をOFFにする

- バッテリーを入れたり、取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

電源スイッチ

2 カメラ底面のバッテリー室カバーを開ける

3 充電したバッテリーを入れる

- 右図のように、正しい向きで入れてください。

4 バッテリー室カバーを閉じる

■バッテリーを取り出すときは

バッテリーをカメラから取り出す前に、**必ず電源がOFFになっていることを確認してください。**取り外したバッテリーには、ショートを防止するため、必ず付属の端子カバーを取り付けてください。

バッテリーとクイックチャージャーの使用上のご注意

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（P.xviii ～ xxiii）、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」（P.377～380）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。充電は室温（5～35℃）で行ってください。バッテリーの性能を充分に発揮するために、約20℃以上で充電することをおすすめします。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの［**電池チェック**］（P.322）で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、充分に充電したバッテリーでも、充電を行ったときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示をすることがあります。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。
- バッテリーをカメラやクイックチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーを取り付けてください。
- クイックチャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- クイックチャージャー MH-18aに対応していないバッテリーは、使用しないでください。

使用できないバッテリーについて

D300 には、Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3およびEN-EL3a（D100/D70 シリーズ/D50 用バッテリー）や、CR2 ホルダー MS-D70 は使用できません。

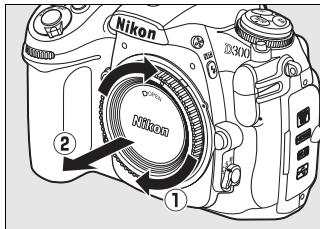
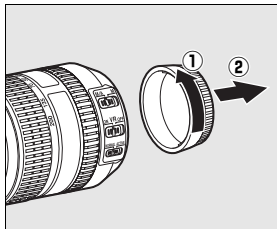
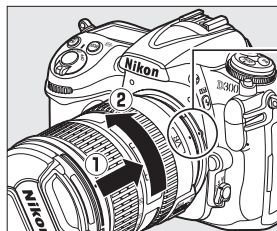
Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e について

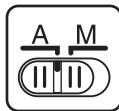
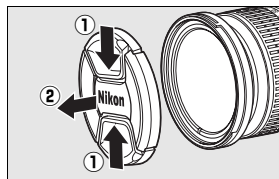
付属のLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3e は、カメラと通信を行い、バッテリーの残量などをカメラに正確に伝えることができます。これによって表示パネルでバッテリー残量を6段階で確認することができる（P.44）ほか、セットアップメニューの［**電池チェック**］でより詳しいバッテリー残量や、直前の充電からの合計撮影回数、バッテリーの劣化度を表示することができます。

レンズを取り付ける

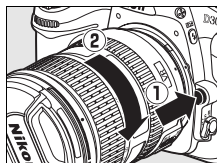
カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。

1 レンズの裏ぶたとボディーキャップを外す

- カメラの電源がOFFになっていることを確認してから、レンズの裏ぶたとボディーキャップを外します。

2 レンズを取り付ける

着脱指標

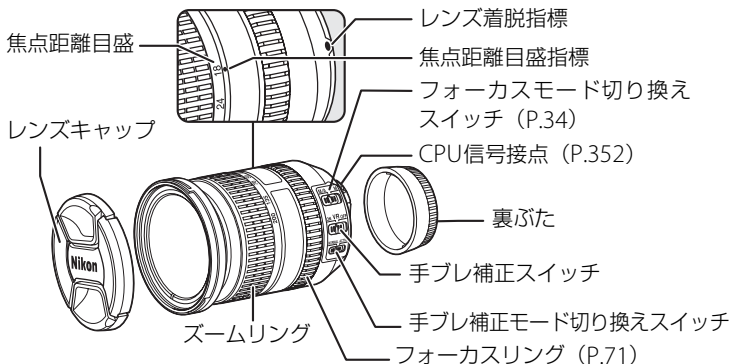
- レンズの着脱指標とカメラの着脱指標を合わせながらレンズを差込み、矢印の方向にカチッと音がするまでレンズを回します。このとき、レンズ取り外しボタンは押さないでください。
- A-M切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチのあるレンズを使用する場合は、**A**（オートフォーカス）または**M**/**A**（マニュアル優先オートフォーカス）に合わせてください。

3 レンズキャップを外す

▌レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、ボディーキャップと裏ぶたをカメラとレンズにそれぞれ取り付けてください。

絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

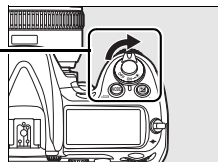
絞りリングのあるCPUレンズ（P.352）を取り付ける場合は、最小絞り（最大値）にして、ロックしてください。詳しくは、レンズの使用説明書をご覧ください。

レンズについて

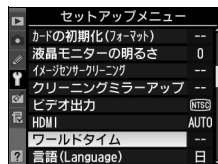
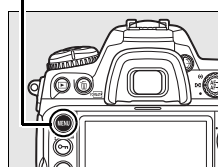
この使用説明書では、AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18-200mm f/3.5-5.6G IF-EDのレンズを用いて、説明しています。各部名称は次の通りです。

日付と時刻を設定する

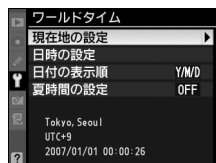
カメラの内蔵時計を合わせます。画像に正しい日時を記録するために、ご使用の前に次の手順で場所と日時を設定してください。

1 カメラの電源をONにする

電源スイッチ

2 ［ワールドタイム］を選ぶ

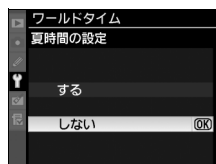
- **MENU**ボタンを押して、セットアップメニューの［**ワールドタイム**］を選びます。
- ご購入後、初めて電源をONにして**MENU**ボタンを押したときは、セットアップメニュー画面で[**ワールドタイム**]が選ばれています。
- メニューの操作方法については、「メニューの操作方法」をご覧ください(P.24)。

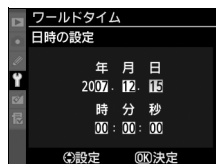
MENUボタン

3 現在地を設定する

- ［ワールドタイム］画面で［**現在地の設定**］を選びます。
- ［現在地の設定］画面で表示される地図上で、現在地が黄色くハイライトされるようにしてから、㊎ボタンを押してください。
- 世界地図の上に選択中のタイムゾーンに含まれる主な都市名や、UTC（世界協定時）との時差が表示されます。

4 夏時間を設定する

- ［ワールドタイム］画面で［**夏時間の設定**］を選びます。
- 現在地で夏時間（サマータイム）制を実施しているときは、［**する**］に、実施していないと

きは［**しない**］にして、㊎ボタンを押してください。

- ［**する**］にすると、［**しない**］のときよりも時刻が1時間進みます。

5 日付と時刻を合わせる

- ［ワールドタイム］画面で［**日時の設定**］を選びます。
- ［**日時の設定**］画面で現在地の日時に合わせて、㊎ボタンを押してください。

6 日付の表示順を選ぶ

- ［ワールドタイム］画面で［**日付の表示順**］を選びます。
- 液晶モニターに表示する日付の年、月、日の表示順を選んで㊉ボタンを押します。

7 メニュー操作を終了する

- シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、メニュー操作を終了して、撮影できる状態になります。

時計用電池について

カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5（P.364）を接続すると、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約3カ月の間時計を動かすことができます。表示パネルにCLOCKが点滅した場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定を行ってください。

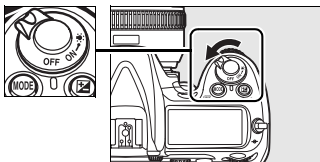
カメラ内蔵の時計について

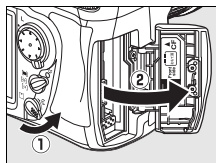
カメラの内蔵時計は、一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

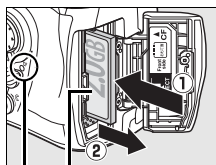
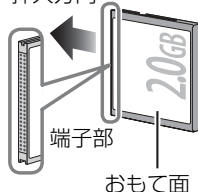
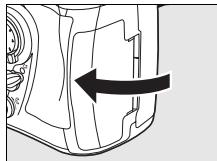
メモリーカードを入れる

このカメラは、撮影した画像をメモリーカードに記録します。メモリーカードは付属していないため、別途お買い求めください（P.369）。

1 カメラの電源をOFFにする

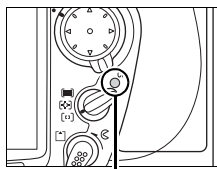
- メモリーカードを入れたり取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 メモリーカードカバーを開ける

- メモリーカードカバー開閉ノブを↶方向に回すと（①）、メモリーカードカバーが開きます（②）。

3 メモリーカードを入れる

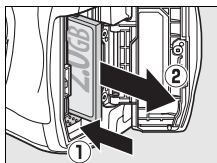
- メモリーカードは、右図のように正しい向きでメモリーカードスロットの中に入れます。
- **向きを間違えて挿入すると、カメラおよびメモリーカードが破損するおそれがあります。正しい方向で挿入しているか、再度ご確認ください。**
- メモリーカードのおもて面を液晶モニター側に向け、奥まで確実に押し込んでください（❶）。正常に挿入されるとメモリーカードアクセスランプ（緑色）が数秒間点灯し、メモリーカードイジェクトレバーが出てきます（❷）。

4 メモリーカードカバーを閉める

■メモリーカードを取り出すときは

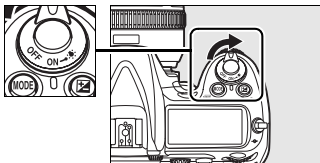
1 カメラの電源をOFFにする

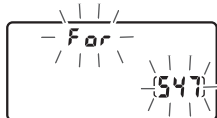
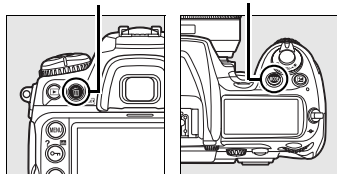
- メモリーカードアクセスランプが消灯していることを確認し、電源をOFFにします。

メモリーカードアクセスランプ

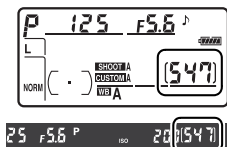
2 メモリーカードカバーを開け、カードを取り出す

- メモリーカードイジェクトレバーを奥に押し込むと（①）、メモリーカードが出てきます（②）。
- メモリーカードとメモリーカードイジェクトレバーを同時に押さないでください。カメラとメモリーカードを破損する恐れがあります。

メモリーカードを初期化（フォーマット）する

他の機器で使ったメモリーカードをこのカメラで初めて使うときは、必ず初期化してからお使いください。メモリーカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。必要な画像がある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください（P.224）。

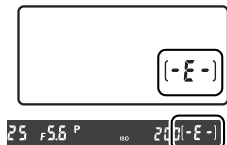
1 カメラの電源をONにする

2 2つのFORMATボタンを同時に押す

- 赤色のFORMATマークがついたMODEボタンと削除ボタンを同時に2秒以上押します。
- 表示パネルとファインダー内表示にFor（フォーマット）という文字が点滅します。
- 初期化をキャンセルするには、FORMATボタン（MODEボタンと削除ボタン）以外のボタンを押してください。

3　もう一度2つのFORMATボタンを同時に押す

- 初期化が始まります。初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。
- 初期化が完了すると、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部にこれから撮影できるコマ数が表示されます。

メモリーカード取り扱い上のご注意

- カメラをご使用後、メモリーカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- 未使用のメモリーカードや、パソコンなどでカメラ以外のデータを保存・削除したメモリーカードは、必ずカメラで初期化してから使用してください。
- メモリーカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やメモリーカードの故障の原因となります。
  - –メモリーカードの着脱をしないでください
  - –カメラの電源をOFFにしないでください
  - –バッテリーを取り出さないでください
  - –ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- メモリーカードに無理な力を加えないでください。破損の恐れがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。

メモリーカードが入っていないときの表示について

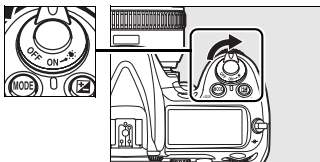
メモリーカードが入っていないときは、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に[-E-]マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、表示パネルの[-E-]マークは点灯します。

関連ページ

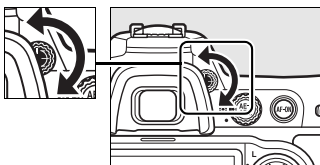
メニュー操作でカードを初期化する → ［**カードの初期化（フォーマット）**］(P.313)

ファインダーを見やすくする（視度調節）

撮影する前に、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

1 レンズキャップを取り外し、カメラの電源をONにする

電源スイッチ

2 視度調節ダイヤルを回して調節する

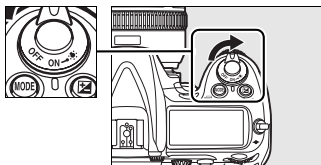
- ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回し、フォーカスポイントまたはAFエリアフレームの枠が最もはっきり見えるように調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

視度調節について

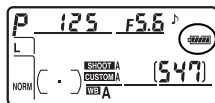
視度調節してもファインダー内がはっきり見えない場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします（P.365）。

バッテリーとメモリーカードの残量を確認する

撮影を始める前に、バッテリーの残量と記録可能コマ数を確認してください。

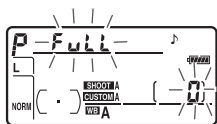
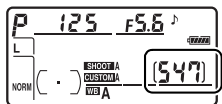
1 カメラの電源をONにする

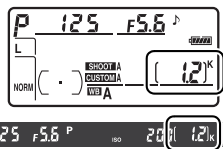
- 表示パネルとファインダー内の表示が点灯します。

2 バッテリーの残量を確認する

- 表示パネルまたはファインダー内のバッテリー残量表示を確認します。

表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備してください。
（点滅）	（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

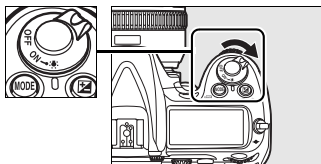
- ACアダプターEH-5aまたはEH-5（別売）を使用した場合、バッテリーの残量は表示されません。

3 メモリーカードの残量を確認する

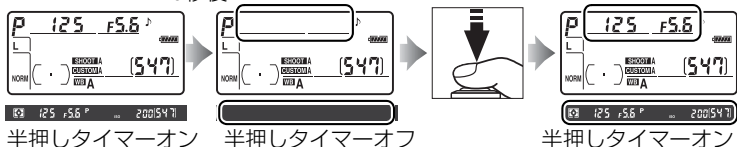
- 表示パネルで記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）を確認します。
- 記録可能コマ数がゼロの場合、表示パネルとファインダー内表示のシャッタースピード表示部にFull（FuL）が、記録可能コマ数表示部に0が点滅します。

記録可能コマ数が1000コマ以上の場合

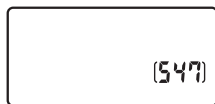
記録可能コマ数が1000 コマ以上あるときは「K」マークが点灯します。「K」は1000倍を意味しており、たとえば1260コマ撮影できるときは、右のように表示されます。

表示パネルの照明（イルミネーター）について

電源スイッチを☀マークまで回すと、表示パネルが照明されます。電源スイッチを放すと、イルミネーターは6秒間（初期設定）点灯し続けます。ただし、シャッターをきると消灯します。

電源スイッチ

半押しタイマーについて

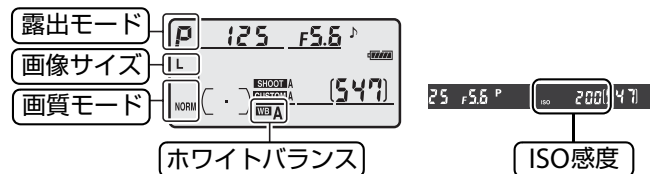
このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを半押しする（軽く押す）とオンになり、何も操作が行われないまま約6秒（初期設定）経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。再度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］（P.279）で変更できます。

半押しタイマーオン　半押しタイマーオフ　半押しタイマーオン

電源OFFの時の表示について

バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、表示パネルの記録可能コマ数が点灯します。メモリーカードの種類によっては、電源がOFFのときにメモリーカードを挿入しても、まれに記録可能コマ数が点灯しないことがあります。この場合、カメラの電源をONにすると点灯します。

表示パネル

カメラの設定状態を確認する

ご購入時のカメラの各機能の初期設定状態を確認します。

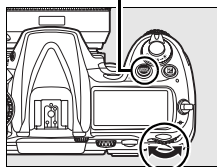
1 カメラの初期状態を確認する

表示パネル

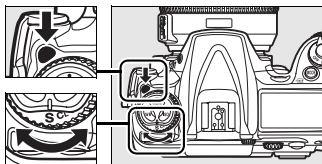
ファインダー内表示

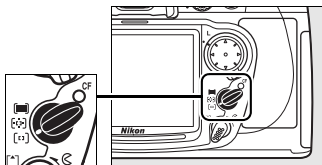
- ご購入時にカメラは次のように設定されています。

機能	設定	内容	ページ
画質モード	NORMAL	通常のスナップ写真などの撮影に適しています。画像データを約1/8に圧縮して記録します（サイズ優先時）。	P.56
画像サイズ	サイズL	画像は4288×2848ピクセルの画素数で記録されます。	P.60
ISO感度	200	ISO 200で撮影します。	P.96
ホワイトバランス	AUTO（オート）	照明光の種類に応じて、カメラが自動的にホワイトバランスを調節します。	P.128
露出モード	P（プログラムオート）	撮影状況に応じて露出が適正になるようにシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。	P.104
フォーカスポイント	中央（シングルポイントAF）	フォーカスポイント ファインダーに上のように表示されます。シャッターボタンを半押しすると、中央のフォーカスポイントと重なる被写体にピントが合います。	P.66

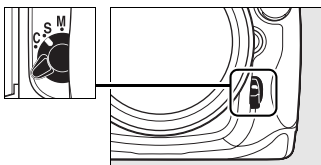
2 露出モードを*P*（プログラムオート）に設定する

- MODEボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して*P*に設定すると、露出が適正になるようにシャッタースピードと絞り値を自動的に決定するプログラムオートになります。
  - ご購入時には*P*に設定されています。

3 レリーズモードダイヤルをS（1コマ撮影）に設定する

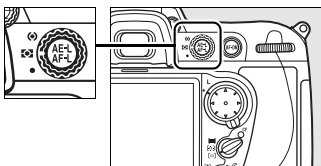
- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを**S**に設定すると、シャッターを押すたびに1コマずつ撮影できます。
  - ご購入時には**S**に設定されています。

4 AFエリアモードセレクトダイヤルを[::]（シングルポイントAF）に設定する

- AFエリアモードセレクトダイヤルを[::]に設定すると、自分が選んだフォーカスポイントでピントを合わせることができます。
  - ご購入時には[::]で中央のフォーカスポイントに設定されています。

5 フォーカスモードセレクトダイヤルをS（シングルAFサーボ）に設定する

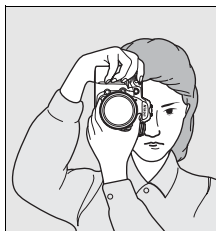
- フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**に設定すると、シャッターボタンの半押しでフォーカスポイントに重なる被写体にピント合わせを行い、ピントが合うと撮影できます。
  - ご購入時には**S**に設定されています。

フォーカスモードセレクトダイヤル

6 測光モードダイヤルを（マルチパターン測光）に設定する

- 測光モードダイヤルをに設定すると、1005分割RGBセンサーから得られる情報に基づいて最適な露出値を得られます。
  - ご購入時には に設定されています。

測光モードダイヤル

カメラの構え方

撮影するときは、カメラをしっかりと構える

- ファインダーをのぞいて撮影する場合は、脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。
- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。

液晶モニターを見ながら撮影するには

このカメラはカメラの液晶モニターを見ながら撮影することもできます。液晶モニターを見ながら撮影する場合は、「液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）」をご覧ください（P.79）。

ピントを合わせる

1 シャッターボタンを半押し（P.52）して、ピントを合わせる

- 被写体を中央のフォーカスポイントに合わせ、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）と、被写体に自動的にピントが合います。

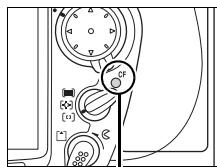
- ご購入時には中央のフォーカスポイントに重なっている被写体に自動的にピントが合います。
- ピントが合うと、「ピピッ」という電子音が鳴り、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
●（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません。

- シャッターボタンを半押ししている間、ピントは固定されます。
- シャッターボタンを押している間、ファインダーに続けて撮影できるコマ数（連続撮影可能コマ数）が表示されます。連続撮影可能コマ数の先頭には、「r」(P.77)が付きます。

- 暗い場所などでは、AF補助光ランプが光ることがあります。
- ピント合わせができない場合の対処方法については「オートフォーカスの苦手な被写体について」（P.70）をご覧ください。

2 シャッターボタンを全押しして、撮影する

- シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）、撮影します。
- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。**メモリーカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。**

メモリーカードアクセスランプ

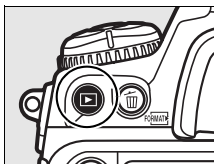
シャッターボタンの半押し

シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「**シャッターボタンを半押しする**」といいます。次に、そのまま深く押し込む（これを「**シャッターボタンを全押しする**」といいます）と、シャッターがきれます。

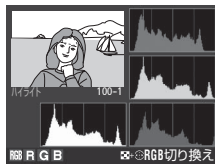
半押しすると、ピントが固定　　全押しして撮影する

撮影した画像を確認する

1 ▶ボタンを押す

- 撮影した画像をカメラ背面の液晶モニターに表示します。

2 他の画像を確認する

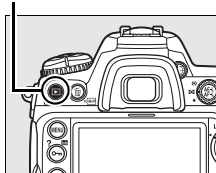
- マルチセレクターの◀または▶を押すと、他の画像を確認できます。

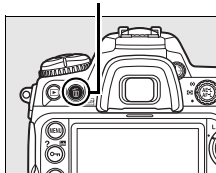
- ▲または▼を押すたびに、撮影した画像の表示形式が切り替わります（P.208）。
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

撮影直後の画像確認について

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（P.251）を［**する**］に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に約20秒間（初期設定）液晶モニターに表示します。

画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。

1 削除したい画像を再生する

- ▶ボタンを押して、マルチセレクターで削除したい画像を表示させます。

2 画像を削除する

- 🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。
  再度🗑ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で、▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。

再生メニュー［削除］

再生メニューの［**削除**］（P.248）では、複数の画像を選択して削除したり、全画像を一括して削除したりできます。

画像の記録に関する設定

ここでは、画質や画像のサイズなど、画像の記録に関する設定について説明します。

画質モードを変更する

画質モードについて

画像を記録する際の画質モードを選びます。

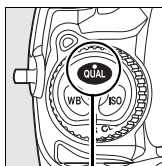
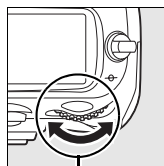
<table>
<tr><th colspan="2">画質モード</th><th>ファイル形式</th><th>内容</th></tr>
<tr><td colspan="2">RAW</td><td>NEF</td><td>撮像素子の生データ（RAW形式）を記録します。画像をパソコンに転送して加工したり、パソコンを使ってプリントする場合などに適しています。復元には、付属のソフトウェア ViewNX や別売の Capture NX（P.367）が必要です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">TIFF（RGB）</td><td>TIFF
（RGB）</td><td>画像を8ビット非圧縮のTIFF-RGB形式で記録します。多くの画像アプリケーションで使用できます。</td></tr>
<tr><td>FINE</td><td rowspan="3">高
↑
画質
↓
低</td><td rowspan="3">JPEG</td><td>画像データを約1/4に圧縮して記録します（サイズ優先時）。</td></tr>
<tr><td>NORMAL</td><td>画像データを約1/8に圧縮して記録します（サイズ優先時）。</td></tr>
<tr><td>BASIC</td><td>画像データを約1/16に圧縮して記録します（サイズ優先時）。</td></tr>
<tr><td colspan="2">RAW＋FINE</td><td rowspan="3">NEF ＋ JPEG</td><td>RAWとFINEの2種類の画像を同時に記録します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">RAW＋
NORMAL</td><td>RAWとNORMALの2種類の画像を同時に記録します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">RAW＋BASIC</td><td>RAWとBASICの2種類の画像を同時に記録します。</td></tr>
</table>

関連ページ

「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（P.402）

■画質モードの設定方法

QUALボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 画質モードは、表示パネルに表示されます。

表示パネル

[RAW記録]について

画質モードがRAWの場合、撮影メニューの［**RAW記録**］で、記録方式（[**ロスレス圧縮RAW**]、[**圧縮RAW**]、[**非圧縮RAW**]）（P.58）と記録ビットモード（[**12ビット記録**］と［**14ビット記録**]）（P.59）を選べます。

[JPEG圧縮]について

画質モードがFINE、NORMAL、BASICの場合、撮影メニューの［**JPEG圧縮**］では、JPEG画像記録時にファイルサイズを優先してデータを圧縮（［**サイズ優先**］）するか、画質の低下を抑えることを優先してデータを圧縮（［**画質優先**］）するかを選べます（P.58)。

RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モード［**RAW＋FINE**]、[**RAW＋NORMAL**]、[**RAW＋BASIC**］で撮影したとき、カメラではJPEG画像のみを再生します。JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
- RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。

[画質モード]について

画質モードは撮影メニュー（P.254）でも設定できます。

JPEG画像の圧縮方式を選ぶ

撮影メニューの［**JPEG圧縮**］では、画質モードがFINE、NORMAL、BASICの画像を記録するときの圧縮方式を設定できます。

サイズ優先（初期設定）	ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
画質優先	画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。

RAW画像の圧縮方式を選ぶ

撮影メニューの［**RAW記録**］で［**記録方式**］を選ぶと、RAW画像の記録時の圧縮方式を設定できます。

ON **ロスレス圧縮RAW**（初期設定）	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。［**非圧縮RAW**］に対してファイルサイズが約60～80%になります。記録した画像は［**非圧縮RAW**］と同等の画質になります。
ON **圧縮RAW**	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。［**非圧縮RAW**］に対してファイルサイズが約45～60%になります。非可逆圧縮ですが、記録した画像は［**非圧縮RAW**］とほぼ同等の画質になります。
非圧縮RAW	圧縮を行わないため、［**ロスレス圧縮RAW**］や［**圧縮RAW**］に比べ、ファイルサイズが大きくなります。

RAW画像の記録ビット数を選ぶ

撮影メニューの［**RAW記録**］で［**記録ビットモード**］を選ぶと、RAW画像の記録ビット数を設定できます。

12-bit **12ビット記録**（初期設定）	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit **14ビット記録**	RAW画像を14ビットで記録します。［**12ビット記録**］の場合よりもさらに豊かな階調表現になり、画像のファイルサイズが約1.3倍になります。 •［**14ビット記録**］の場合、連続撮影速度を3コマ/秒以上に設定しても約2.5コマ/秒になります（P.77）。

RAW画像について

画質モードでRAWを選んだ場合、画像サイズは設定できません。RAWで保存した画像を付属のViewNXや別売のCapture NXなどで表示すると、画像サイズは［**L**］と同じになります。

画像サイズを変更する

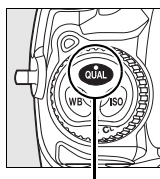
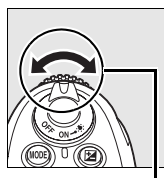
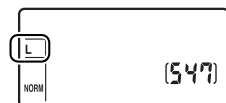
画像サイズは、以下の3種類から選べます。プリントしたい大きさなどに合わせて設定してください。

画像サイズ		画像ファイルの大きさ	プリント時のサイズ※
L （初期設定）	**大**	4288×2848ピクセル	約54.5×36.2cm
M	**サイズ**	3216×2136ピクセル	約40.8×27.1cm
S	**小**	2144×1424ピクセル	約27.2×18.1cm

※出力解像度を200dpiに設定した場合のサイズです。ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cmで計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。

画像サイズの設定方法

QUALボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

画像サイズは、表示パネルに次のように表示されます。

表示パネル

［画像サイズ］について

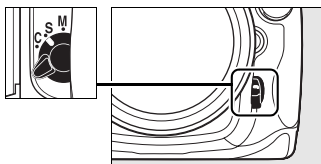
画像サイズは撮影メニュー（P.254）でも設定できます。

フォーカスに関する設定

ここでは、カメラのピント合わせ（フォーカス）に関する設定を説明します。

ピントの合わせ方を変更する
（フォーカスモード）

オートフォーカスで撮影するときは、フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**（シングルAFサーボ）または**C**（コンティニュアスAFサーボ）に合わせます。マニュアルフォーカスで撮影するときは、**M**（マニュアルフォーカス）に合わせます。

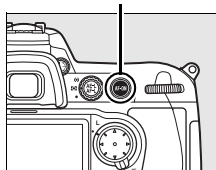
フォーカスモード
セレクトダイヤル

フォーカスモード	内容
S シングルAFサーボ （AF-S・フォーカス優先モード）	ファインダー内のピント表示（●）が点灯すると、ピントはそこで固定（フォーカスロック）します。風景など静止した被写体の撮影に適しています。初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです。
C コンティニュアスAFサーボ （AF-C・レリーズ優先モード）	ファインダー内のピント表示（●）がいったん点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス（P.63）に切り替わり、被写体の動きに応じてピントを追い続けます。初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先モードです。

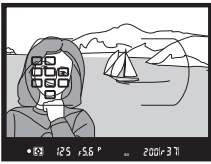
M マニュアル フォーカス （P.71）	手動でレンズのフォーカスリングを回してピントを合わせるモードです。開放絞り値がF5.6よりも明るいレンズを装着すると、ファインダー内のピント表示（●）によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」（P.72）が行えます。また、ピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれます。

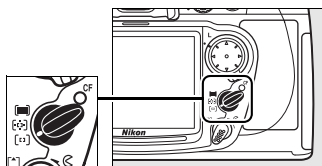
AF-ONボタンについて

AF-ONボタンを押すと、シャッターボタンの半押しと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

予測駆動フォーカスについて

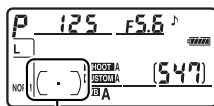
フォーカスモードセレクトダイヤルを**C**に設定して、シャッターボタンを半押しするか、または**AF-ON**ボタンを押してピントを合わせる場合、被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

関連ページ

AF-Cをフォーカス優先モードにする → a1［**AF-Cモード時の優先**］（P.267）
AF-Sをレリーズ優先モードにする → a2［**AF-Sモード時の優先**］（P.268）
シャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動しないようにする → a5［**半押しAFレンズ駆動**］（P.271）

AFエリアモードを変更する

AFエリアモードセレクトダイヤルを切り換えると、オートフォーカス（P.62）を行うときのフォーカスポイントの選び方を設定できます。

AFエリアモードセレクトダイヤル

AFエリアモード	内容
シングルポイント AFモード	撮影者が選択した1つのフォーカスポイントでピントを合わせます。静止した被写体や動きの少ない被写体に対して、選択したフォーカスポイントで正確にピントを合わせたい場合などに便利です。
ダイナミック AFモード	フォーカスモード**C**（P.62）との組み合わせで、撮影者が選択した1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。ピント情報を利用するフォーカスポイントは、カスタムメニューa3［**ダイナミックAFエリア**］（P.269）で、9点、21点、51点から選択できます。さらに、［**51点（3D-トラッキング**)］に設定すると、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントを自動的に切り換えてピントを合わせ続けます（P.270）。 • フォーカスモードが**S**のときは、シングルポイントAFモードと同じ動作になります。
オートエリア AFモード	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、GタイプまたはDタイプのレンズを使用しているときは、人物と背景を自動的に判別して、主要被写体にピントが合う精度が高くなります。 • フォーカスモードを**S**にすると、ピントが合ったフォーカスポイント全てを約1秒間表示します。フォーカスモード**C**では、フォーカスポイントは表示しません。

AFエリアモードの表示について

AFエリアモードは、表示パネルで確認できます。

各AFエリアモードの表示は次のようになります。

<table>
<tr><th colspan="3">AFエリアモード</th><th>表示パネル</th></tr>
<tr><td colspan="3">[:::]
シングルポイントAFモード</td><td>(·)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">[·:·]
ダイナミックAFモード</td><td colspan="3">カスタムメニュー a3
［ダイナミックAFエリア］（P.269）</td></tr>
<tr><td rowspan="4"></td><td>9点※
（初期設定）</td><td></td></tr>
<tr><td>21点※</td><td></td></tr>
<tr><td>51点※</td><td></td></tr>
<tr><td>51点
（3D-トラッキング）</td><td>3D</td></tr>
<tr><td colspan="3">[■]
オートエリアAFモード</td><td>AUTO</td></tr>
</table>

※ 実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

マニュアルフォーカス時のAFエリアモードについて

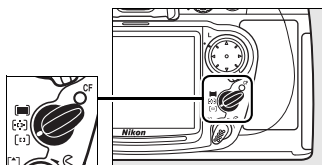
AFエリアモードは自動的に[:::]（シングルポイントAFモード）になります。

関連ページ

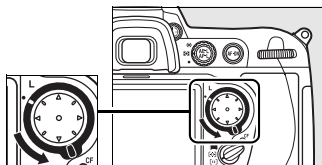
ダイナミックAF時のフォーカスエリアを変更する → a3［**ダイナミックAFエリア**］（P.269）

AFロックオンを解除する → a4［**AFロックオン**］（P.271）

ピントを合わせる位置を選ぶ（フォーカスポイント）

このカメラには、51カ所のフォーカスポイントがあります。
AFエリアモードが[ ]（シングルポイントAFモード）または[ ]（ダイナミックAFモード）の場合、被写体の位置や構図に合わせて、フォーカスポイントを選ぶことができます。

AFエリアモードセレクトダイヤル

1 フォーカスポイントロックレバーのロックを解除する

- フォーカスポイントロックレバーを回してロックを解除すると、マルチセレクターでフォーカスポイントを選べるようになります。

フォーカスポイントロックレバー

オートエリアAFモードについて

[ ]（オートエリアAF）の場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に選択するため、自分ではフォーカスポイントを選べません。

2 フォーカスポイントを選ぶ

- マルチセレクターを▲▼◀ ▶、ななめ方向に押して、フォーカスポイントを選びます。
- 初期設定では**中央**を押すと、中央部のフォーカスポイントが選択されます。
- フォーカスポイントロックレバーを**L**の位置に回すと、フォーカスポイントをロック（固定）します。

関連ページ

- フォーカスポイントの点灯に関する設定を変更する → a6［**フォーカスポイント照明**］（P.271）
- フォーカスポイントの選択を循環方式にする → a7［**フォーカスポイント循環選択**］（P.272）
- マルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数を変える → a8［**AF点数切り換え**］（P.272）
- マルチセレクターの**中央**を押したときの機能を変更する → f1［**中央ボタンの機能**］（P.301）

ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体（P.70）を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ねる

- 被写体にフォーカスポイントを重ねて、シャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うと、ピント表示（●）が点灯します。

2 ピントを固定する

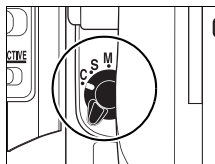
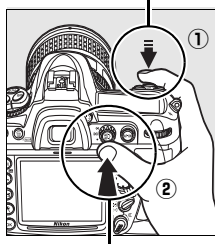
フォーカスモードがSの場合

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントがそのまま固定されます。

- シャッターボタンの半押しでピントが合った状態で、AE/AFロックボタンを押してピントを固定することもできます。

フォーカスモードがCの場合

シャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタンを押すと、ピントがそのまま固定されます。

- シャッターボタンから指を離しても、AE/AFロックボタンを押している間はピントと露出（AEロック：P.114）が固定され、ファインダー内表示に**AE-L**マークが点灯します。

シャッターボタン

AE/AFロックボタン

3 ピントを固定したまま、構図を決めて撮影する

- 被写体との撮影距離を変えないでください。ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）ときは、いったんシャッターボタンやAE/AFロックボタンから指を放し、フォーカスロックを解除してからピントを合わせ直してください。

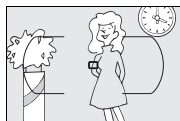
ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

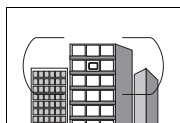
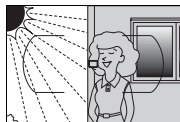
AE/AFロックボタンでフォーカスロックして、AE/AFロックボタンを押したまま再度シャッターボタンを全押ししてください。

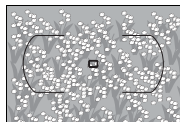
関連ページ

AE/AFロックボタンを押したときの機能を変更する → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（P.306）

■オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯し、電子音が鳴ってシャッターがきれることがあります。このような場合は、フォーカスモードを**M**（P.71）に切り換えてピントを合わせるか、フォーカスロック（P.68）を利用してください。

被写体の明暗差がはっきりしない場合
（白壁や背景と同色の服をきている人物など）

フォーカスポイント内に遠くのものと近くのものが混在する被写体
（オリの中の動物など）

連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓など）

被写体の明暗差が極端に異なる場合
（太陽を背景にした日陰の人物など）

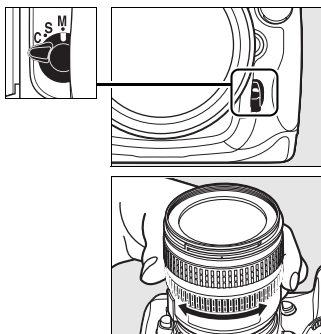
背景に対して被写体が小さい場合
（遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など）

絵柄が細かい場合
（一面の花畑など）

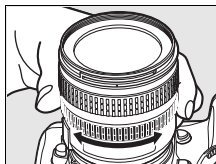
ピントを手動で合わせる
（マニュアルフォーカス）

マニュアルフォーカス（手動）によるピント合わせ

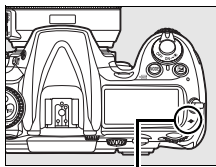
ピントを手動（マニュアル）で合わせたいときや、オートフォーカスではピントが合わないとき、またはマニュアルフォーカスレンズ使用時には、フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**に合わせると、フォーカスリングを回して、ピントを合わせることができます。

- A-M切り換え方式のレンズを装着するときは、レンズ側も**M**にしてください。また、M/A（マニュアル優先オートフォーカス）やA/M（オート優先オートフォーカス）モード機能付きのレンズを装着するときは、レンズ側のモード設定にかかわらずマニュアルフォーカスができます。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

フォーカスモード
セレクトダイヤル

フォーカスエイドによるピント合わせ

開放絞り値がF5.6以上の明るいレンズ（絞りの最も小さい数値がF5.6以下のレンズ）を使ってマニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内下部のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは51カ所から選べます。

- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます（P.51）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（P.70）では、ピントが合っていなくてもピント表示（●）が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。

距離基準マークについて

距離基準マーク -⊖- は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント：P.5）から撮像面までの距離（フランジバック）は46.5mmです。

距離基準マーク -⊖-

レリーズモードに関する設定

ここでは、1コマ撮影や連続撮影をはじめ、液晶モニターを見ながら撮影するライブビュー撮影や、セルフタイマー撮影、撮影時のミラーによる振動を防ぐミラーアップ撮影など、カメラのレリーズモードを説明します。

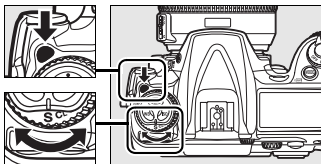
1コマ撮影や連続撮影、ライブビュー撮影など、レリーズモードを変更する

1コマ撮影と2種類の連続撮影、セルフタイマー撮影や液晶モニターを見ながら撮影するライブビュー撮影、ミラーアップ撮影をまとめて「レリーズモード」といいます。6種類のレリーズモードは次の通りです。

レリーズモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影します。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約1～6コマ/秒※1（P.77）で連続撮影できます（P.76）。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約6コマ/秒※2（P.77）で連続撮影できます。動きのある被写体などに使用すると便利です（P.76）。
Lv ライブビュー撮影	液晶モニターを見ながら撮影できます。ローアングルやハイアングルでファインダーをのぞきにくいときや、拡大して高精細なピント合わせをしたいときに便利です（P.79）。
セルフタイマー撮影	シャッターボタンを押すとセルフタイマーが作動し、約10秒後にシャッターがきれます。記念撮影などに便利です（P.91）。
MUP ミラーアップ撮影	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます（P.93）。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

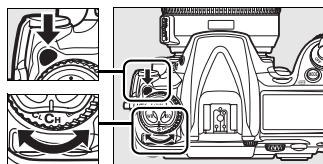
※1 カスタムメニュー d4［**低速連続撮影速度**］（P.282）で設定した連続撮影速度になります。低速連続撮影速度は、フォーカスモード**C**、露出モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、電源がEN-EL3eで、その他が初期設定のときの値です。

※2 高速連続撮影速度は、フォーカスモード**C**、露出モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、電源がEN-EL3eで、その他が初期設定のときの値です。

レリーズモードを切り換えるには、レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを回します。

連続撮影する

レリーズモードを**CH**（高速連続撮影）または**CL**（低速連続撮影）にすると、シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影できます。

1 レリーズモードダイヤルを CHまたはCLに合わせる

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを**CH**または**CL**に合わせます。

レリーズモードダイヤル

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影ができます。
- **CL**時は、カスタムメニュー d4［**低速連続撮影速度**］（P.282）で設定した速度で連続撮影できます（P.77）。
- **CH**時は、最大6コマ/秒で連続撮影します（P.77）。

連続撮影速度について

このカメラは、電源の種類や、別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10を装着したときなどで連続撮影速度が変わります。次の表は、フォーカスモード**C**、露出モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピードで、その他が初期設定のときの値です。

電源	CH※1	CL※1※2
本体のみ（EN-EL3e）	約 6 コマ / 秒	約 1 〜 6 コマ / 秒
本体のみ（AC アダプター）	約 8 コマ / 秒※3	約 1 〜 7 コマ / 秒
MB-D10 装着時（EN-EL3e）	約 6 コマ / 秒	約 1 〜 6 コマ / 秒
MB-D10 装着時（EN-EL4a）	約 8 コマ / 秒※3	約 1 〜 7 コマ / 秒
MB-D10 装着時（単 3 形電池）※4	約 8 コマ / 秒※3	約 1 〜 7 コマ / 秒

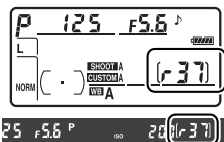
※1 RAWを含む画質モードで、撮影メニュー［**RAW記録**］の［**記録ビットモード**］(P.59)を［**14ビット記録**］に設定しているときは、最大連続撮影速度が約2.5コマ/秒になります。

※2 電源がEN-EL3eの場合は、カスタムメニューd4［**低速連続撮影速度**］（P.282）で［**7コマ/秒**］に設定しても、実際の連続撮影速度は約6コマ/秒になります。

※3 撮影メニュー［**ISO 感度設定**］→［**感度自動制御**］（P.98）を［**する**］に設定した場合、連続撮影速度は約7.5コマ/秒になります。

※4 電池の特性上、電池の消耗時と低温時には連続撮影速度が遅くなることがあります。

連続撮影可能コマ数について

- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が、表示パネルとファインダー内に表示されます。右図の場合、あと最低37コマ続けて撮影できることを示しています。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。ただし、「**r00**」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。

連続撮影時の構図の縦位置・横位置情報について

縦位置・横位置に関する情報は、連続撮影開始時の情報が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、反映されませんのでご注意ください。

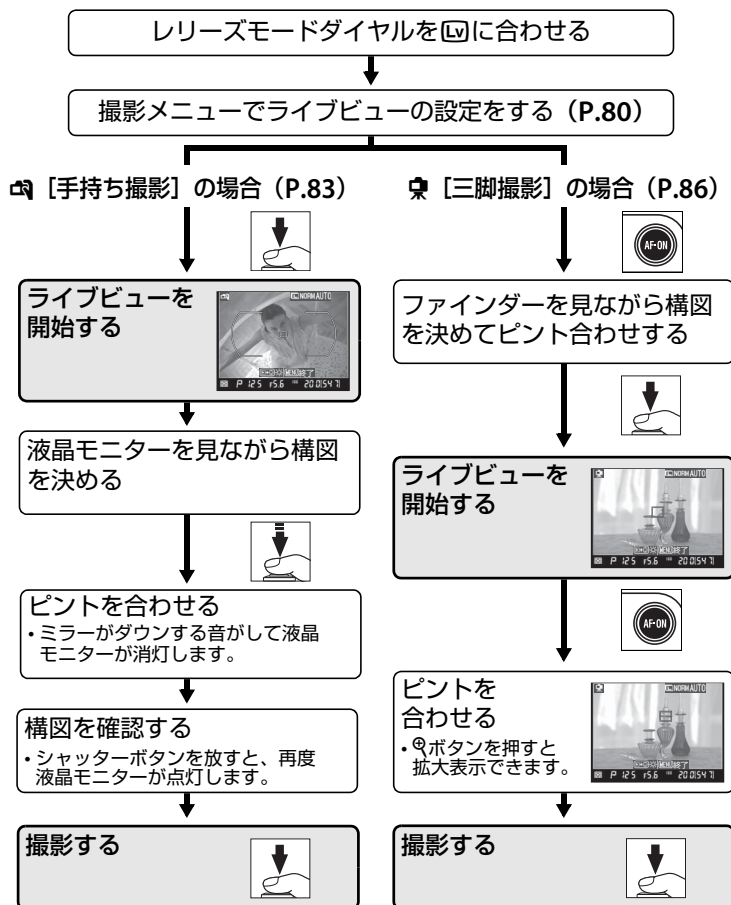
連続撮影時の記録について

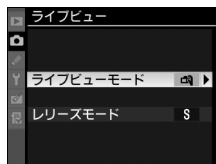
- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、カメラからメモリーカードを取り出さないでください。
- メモリーカード、画質モード、画像サイズなどによっては、数十秒から1分間程度アクセスランプが点灯します。アクセスランプの点灯中にカメラからメモリーカードを取り出すと、画像データが消失するだけでなく、カメラとメモリーカードに不具合が生じるおそれがあります。
- メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。
- マイクロドライブを使用すると、まれに書き込み速度が低下することがあります。

関連ページ

- 連続撮影時に撮影コマ数を制限する → d5［**連続撮影コマ数**］（P.282）
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（P.402）

液晶モニターを見ながら撮影する
（ライブビュー撮影）

レリーズモードを Lv （ライブビュー撮影）に設定すると、液晶モニターで被写体を見ながら撮影することができます。

ライブビュー撮影の準備をする

ライブビュー撮影を行う前に、レリーズモードダイヤルをLv（ライブビュー撮影）に合わせてから、ライブビューモードとライブビュー撮影時のレリーズモードを設定します。

- ［**ライブビューモード**］は、撮影状況に合わせて、次の2種類から選びます。

手持ち撮影（初期設定）（P.83）	カメラを手持ちで動きのある被写体を撮影するときに設定します。ローアングルやハイアングルなどファインダーがのぞきにくいときに便利です。 • 撮影時には、通常のオートフォーカス（位相差AF）でピント合わせができます。
三脚撮影（P.86）	カメラを三脚などに固定して撮影するときに選びます。液晶モニターに表示される画像を拡大表示して厳密なピント合わせや被写界深度の確認ができるため、静物の撮影に適しています。画面上のどの部分でもオートフォーカスでピントを合わせることができるため、構図を変えずにピント合わせができます。 • ライブビュー中には、撮像素子からのデータを使ったコントラストAFでピントを合わせます。

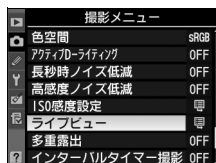
位相差AFとコントラストAFについて

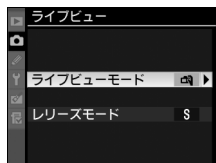
このカメラは、通常の撮影では、「位相差AF」でピントを合わせます。位相差AFとは、オートフォーカス専用のセンサーを用いて、ピントのズレ量を検出する方法です。
一方、ライブビューの［**三脚撮影**］時は、「コントラストAF」でピントを合わせます。コントラストAFとは、撮像素子からのデータを使って被写体の画像情報を解析し、画像のコントラストが最も高くなるレンズ位置でピントを合わせます。「位相差AF」と比べ、ピントを合わせるのに時間がかかります。

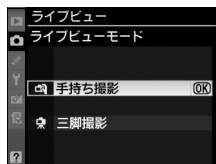
- ［**レリーズモード**］では、ライブビュー撮影時に1コマ撮影するか、連続撮影するかを選びます。

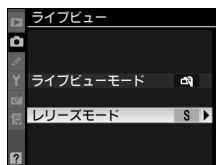
S	**1コマ撮影** （初期設定）	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影します。
CL	**低速連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、レリーズモードダイヤルを**CL**または**CH**に設定したときと同じ連続撮影速度で撮影できます（P.77）。
CH	**高速連続撮影**	

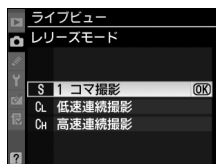
1 撮影メニューの［ライブビュー］を選ぶ

- ［**ライブビュー**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［ライブビュー］画面が表示されます。

2 ［ライブビューモード］を選ぶ

- ［**ライブビューモード**］を選んで▶を押すと、［ライブビューモード］画面が表示されます。

3 設定したいライブビューモードを選ぶ

- 撮影状況に合わせてライブビューモードを選んで、㉫ボタンを押します。

4 ［レリーズモード］を選ぶ

- ［**レリーズモード**］を選んで▶を押すと、［レリーズモード］画面が表示されます。

5 設定したいレリーズモードを選ぶ

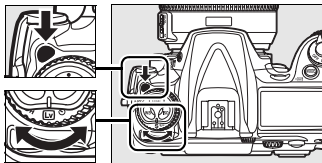
- ライブビュー撮影時のレリーズモードを選んで、㊙ボタンを押します。

6 撮影できる状態にする

- シャッターボタンを半押しすると、撮影できる状態になります。

液晶モニターを見ながら手持ちで撮影する

（ライブビューの手持ち撮影）

1 **レリーズモードダイヤルを Lv（ライブビュー撮影）に合わせる**

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、Lvに合わせます。

レリーズモードダイヤル

2 **ライブビューを開始する**

- シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が見えなくなり、液晶モニターに被写体が表示されます。

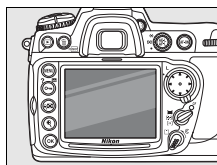
ライブビューを開始する前に

ライブビューを開始する前に、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせておくと、ライブビュー撮影で被写体を確認しやすくなります。

3 液晶モニターで構図を確認する

- ボタンを押すと、被写体が拡大表示されます（最大約3倍）。
  - 拡大表示時には、画面の右下に構図の全体が縮小表示され、拡大表示中の部分が薄いグレーで表示されます。
  - 拡大表示時に画面をスクロールするには、マルチセレクターを操作します。AFエリアフレーム内でフォーカスポイントが移動します。

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間、ライブビューを一時中断して、通常のオートフォーカスによるピント合わせと測光を行います（この間、ミラーがダウンする作動音がして（P.85）、液晶モニターは消灯します）。ボタンを放すと、ミラーアップして液晶モニターが点灯し、再度構図を確認できます。**AF-ON**ボタンを押してもピントを合わせられます。
- フォーカスポイントを選ぶには、マルチセレクターを操作します。
- マニュアルフォーカス時（P.71）は、レンズのフォーカスリングでピント合わせができます。

5 再度シャッターボタンを全押しして撮影する

- 撮影する直前に、再度通常のオートフォーカスでのピント合わせと測光を行います。
- ［**レリーズモード**］で設定した内容に応じて、1コマ撮影または連続撮影を行います。
- 撮影時は液晶モニターが消灯します。
- 連続撮影速度は、通常の撮影時と同じ撮影速度になります。

作動音がしても撮影ができていない場合について

次の場合は、ミラーがダウンする音がしますが、撮影はしていません。ライブビュー撮影後は、画像が撮影されているかを確認してください。

- シャッターボタンを半押しするか **AF-ON** ボタンを押してライブビュー撮影を中断すると、ミラーがダウンしてシャッターをきったような音がしますが、撮影はしていません。
- フォーカスモードが**S**のときにピントが合わない場合、シャッターボタンを全押ししても撮影はされずにライブビューを終了します。

ライブビューを終了するには

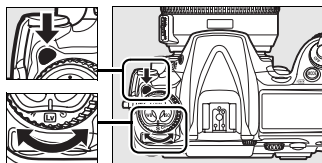
ライブビューを終了するには、レリーズモードダイヤルを他のモードに切り換えるか、**MENU**ボタンを押します。

カメラを固定して撮影する

（ライブビューの三脚撮影）

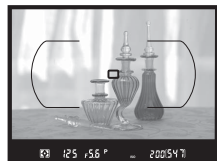
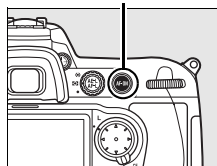
1 三脚などを使ってカメラを固定する

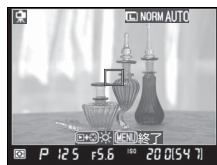
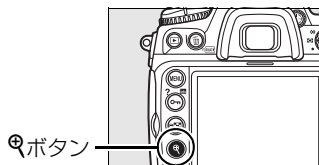
2 レリーズモードダイヤルを Lv（ライブビュー撮影）に合わせる

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、Lvに合わせます。

レリーズモード
ダイヤル

3 ファインダーで構図を決める

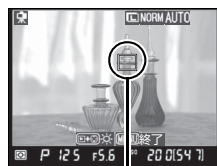
- ファインダーで構図を決め、**AF-ON**ボタンを押して、通常のオートフォーカスによるピント合わせを行います。
- **シャッターボタンの半押しでは、オートフォーカスによるピント合わせは行いません。**
- 必要に応じてフォーカスポイントをマルチセレクターで変更します。

AF-ONボタン

4 ライブビューを開始する

- シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が見えなくなり、液晶モニターに被写体が表示されます。

5 液晶モニターで構図を確認する

- ボタンを押すと、被写体が拡大表示され（最大約13倍）、ピントの状態を細部まで確認できます。
  - 拡大表示時には、画面の右下に構図の全体が縮小表示され、拡大表示中の部分が薄いグレーで表示されます。
  - 拡大表示時に画面をスクロールするには、マルチセレクターを操作します。

  - 拡大表示時には、マニュアルフォーカスでも厳密なピント合わせができます。

  - ボタンを押すと、拡大表示を終了します。
- ［**三脚撮影**］の場合、**AF-ON**ボタンを押している間、撮像素子からの情報を使ってオートフォーカス（コントラストAF）を行います。

- 赤い枠（コントラストAFポイント）を画面上の任意の位置に移動するには、マルチセレクターを操作します。
- コントラストAFポイントは、オートフォーカス作動中は緑色に点滅し、ピントが合うと緑色に点灯します。ピントが合わないと赤色に点滅します。

コントラストAFポイント

- コントラストAF作動中は、画面の明るさが変わることがあります。

6 再度シャッターボタンを全押しして撮影する

- ［**レリーズモード**］で設定した内容に応じて、1コマ撮影または連続撮影を行います。
- 撮影時は液晶モニターが消灯します。
- 連続撮影速度は、通常の撮影時と同じ撮影速度になります。

コントラストAF時のフォーカスモードについて

コントラストAF時には、フォーカスモードの設定やピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれます。また、フォーカスモードが**C**の場合でも、ピントは合わせ続けません。

コントラストAFについてのご注意

- コントラストAFは、通常のオートフォーカス（位相差AF）より、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
  - 画面の長辺側と平行な横線（縦位置の場合は縦線）の被写体
  - 明暗差のない被写体
  - コントラストAFポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
  - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画像に横帯が見える場合
  - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
  - コントラストAFポイントに対して被写体が小さい場合
  - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓など）
  - 動く被写体
- 三脚などに固定しないでコントラストAFを行うと、ピントが合わないことがあります。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- AF-S以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、充分なピント精度が出ない場合があります。

ライブビュー撮影時の情報表示について

ライブビュー撮影時にinfoボタンを押すと、次のように画面の表示が切り替わります。

情報表示あり　　情報表示なし

液晶モニターの明るさを設定する

ライブビュー中に▶ボタンを押しながらマルチセレクターを操作すると、液晶モニターの明るさを設定できます。マルチセレクターの▲または▼を押して、好みの明るさに調節してください。撮影した画像には反映されません。

HDMI接続時の撮影画面表示

HDMI対応機器との接続時には、液晶モニターが消灯し、代わりに接続した機器のモニターに被写体が表示されます。HDMI出力時の撮影画面の表示は、右のようになります。

ライブビュー［三脚撮影］時にリモートコードを使用した場合のコントラストAFについて

［**三脚撮影**］でのライブビュー撮影中に別売のリモートコード（P.368）を使用した場合は、リモートコードのシャッターボタンを1秒以上半押しし続けると、コントラストAFが作動します。リモートコードのシャッターボタンを半押しせずに全押しすると、コントラストAFでピントを合わせずに撮影します。

✓ ライブビュー撮影時のご注意

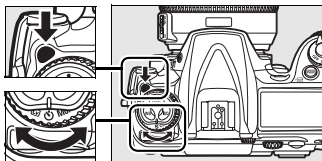
- ライブビュー撮影中は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画像に横帯が見える
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
  - カメラを左右に動かすと画面全体が歪んで見える
  - カメラを動かすと、照明などの明るい部分に残像が見える
- レンズを取り外すと、ライブビュー撮影は終了します。
- 最長1時間ライブビュー撮影できますが、長時間ライブビューで撮影を行うと、カメラの内部回路の温度が上昇することがあります。この場合、カメラ内部の温度の上昇により、ノイズや色むらが発生する場合があります。
- 高温によるカメラのダメージを抑えるために、カメラ内部の温度が上昇すると、カメラは自動的にライブビュー撮影を終了します。ライブビュー撮影を終了する30秒前から、カメラは液晶モニターの左上に残り時間のカウントダウンを表示します。撮影時の気温が高い場合は、ライブビュー撮影が始まってすぐにカウントダウンが始まることもあります。

- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、露出モードM以外で撮影する場合は、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップDK-5を取り付けてください。
- 長時間ライブビューで撮影を行うと、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- ライブビュー撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- ［**三脚撮影**］時はカメラブレを軽減するために、カスタムメニューd9［**露出ディレーモード**］（P.285）を［**する**］に設定することをおすすめします。

セルフタイマーを使って撮影する

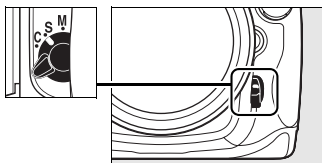
セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身もいっしょに写りたいときなどに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

1 レリーズモードダイヤルを⏲（セルフタイマー撮影）に合わせる

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、⏲に合わせてください。

レリーズモードダイヤル

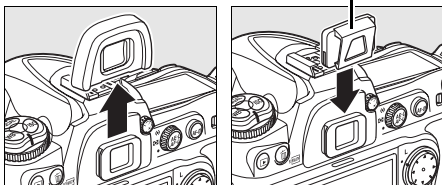
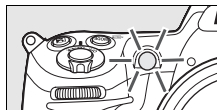
2 構図を決め、ピントを合わせる

- フォーカスモードが**S**でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。

フォーカスモードセレクトダイヤル

露出モードM以外でファインダーから離れてシャッターをきる場合には

ファインダーから光が入り、適正露出に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップDK-5を取り付けることをおすすめします。

アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込んでください。

アイピースキャップDK-5

3 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- セルフタイマーの作動中は、電子音も繰り返し鳴ります。撮影2秒前になると間隔が短くなります。
- 内蔵フラッシュを上げると、作動中のセルフタイマーをキャンセルします。フラッシュを使うときは、ファインダー内表示のレディーライト⚡が点灯してからシャッターボタンを押してください。
- レリーズモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーが解除されます。

シャッタースピードがbulbにセットされている場合について

露出モードがMで、シャッタースピードがbulbにセットされている場合は、シャッタースピードが約1/10秒でシャッターがきれます。

関連ページ

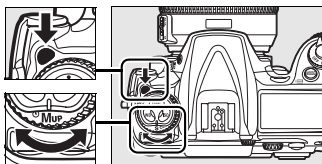
セルフタイマーの作動時間を変更する → c3［**セルフタイマー**］（P.280）
セルフタイマー撮影時の電子音を設定する → d1［**電子音設定**］（P.281）

ミラーアップして撮影する

ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

1　レリーズモードダイヤルをMUP（ミラーアップ撮影）に合わせる

レリーズモードダイヤル

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、MUPに合わせてください。

2　構図と露出を決めて、シャッターボタンを全押しする

- 半押ししてピントを合わせた後、シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。

ミラーアップ中のご注意

ミラーアップ中は、ファインダーで構図を確認できません。
また、オートフォーカスと測光は使えません。

3　撮影する

- もう一度シャッターボタンを全押しすると、撮影できます。
- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押してください。
- 撮影が終了すると、ミラーダウンします。

ミラーアップ撮影について

- 三脚の利用をおすすめします。
- ミラーアップ撮影時には、別売のリモートコード（P.368）を使うと効果的です。
- ミラーアップ開始後約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。

ISO

ISO感度に関する設定

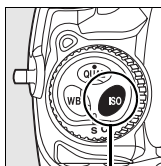
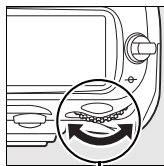
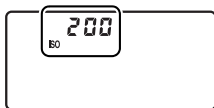
ここでは、ISO感度の変更や感度自動制御による撮影方法について説明します。

ISO感度を変更する

ISO感度はISO 200～3200の間で1/3段ステップで設定できます。また、ISO 200から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 3200から約0.3段～約1段の範囲での増感ができます。

ISO感度の設定方法

ISOボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するISO感度を表示パネル、ファインダー内表示に表示させます。

ISO

ISOボタン　メインコマンドダイヤル

表示パネル

ファインダー内表示

ISO感度：3200

[ISO感度] について

ISO感度は撮影メニュー（P.254）でも設定できます。

ISO感度設定時のステップ幅について

ISO感度のステップ幅は、カスタムメニューb1［**ISO感度設定ステップ幅**］（P.275）で変更できます。

カスタムメニュー b1［ISO感度 ステップ幅］	設定できるISO感度
1/3段（初期設定）	LO 1、LO 0.7、LO 0.3、200、250、320、400、500、640、800、1000、1250、1600、2000、2500、3200、HI 0.3、HI 0.7、HI 1
1/2段	LO 1、LO 0.5、200、280、400、560、800、1100、1600、2200、3200、HI 0.5、HI 1
1段	LO 1、200、400、800、1600、3200、HI 1

- ISO感度のステップ幅を変更したとき、設定されているISO感度が変更後のステップ幅に存在しない場合は、最も近い値に変更されます。

ISO

高感度（HI 0.3～HI 1）に設定した場合

ISO感度を［**HI 0.3**］に設定すると、ISO 3200に対して約0.3段分増感し（ISO 4000相当）、［**HI 1**］では約1段分の増感になります（ISO 6400相当）。これらのISO感度に設定したときは、ざらつき、色むらが発生しやすくなります。

低感度（LO 0.3～LO 1）に設定した場合

ISO感度を［**LO 0.3**］に設定すると、ISO 200に対して約0.3段分減感します（ISO 160相当）。［**LO 1**］では約1段分の減感になります（ISO 100相当）。明るい場所で絞りを開きたい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、やや硬調な仕上がりになりますので、通常の撮影では［**200**］以上をご使用ください。

関連ページ

ISO感度の設定ステップ幅を変更する → b1［**ISO感度設定ステップ幅**］（P.275）
高感度撮影時のノイズを低減する → ［**高感度ノイズ低減**］（P.262）

感度自動制御機能を使う

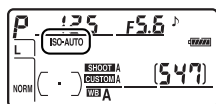
感度自動制御機能は、撮影メニューの［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］を選んで設定します。

する	カメラが自動的にISO感度を変更します。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。 • 制御上限感度と低速限度設定を設定してください。
しない （初期設定）	［**ISO感度**］（P.96）で設定したISO感度に固定されます。

• ［**する**］にしたときは、感度の制御方法を設定してください。

制御上限感度	感度自動制御する場合の、ISO感度の上限（400～HI 1）を設定します。これより高い感度に上がることはありません。また、ISO感度の下限は200になります。
低速限界設定	露出モード P、A で感度自動制御する場合の、シャッタースピードの低速側の限界（1/250～1秒）を設定します。ただし、ISO 感度を上欄の［**制御上限感度**］まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

ISO

［**感度自動制御**］を［**する**］にすると、表示パネルとファインダー内表示に、右のように表示されます。**ISO-AUTO**表示が点灯している場合は、［**ISO感度**］で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されると**ISO-AUTO**表示が点滅し、ファインダー内表示に制御されたISO感度が表示されます。

感度自動制御についてのご注意

- ISO 感度が高くなると、多少ざらついた画像になることがあります。
- ［**ISO感度**］で設定したISO感度よりも、［**制御上限感度**］で設定したISO感度が優先されます。
- フラッシュ撮影時に、次のような場合は手前の被写体の露出がアンダーになることがあります。
  - 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）する場合
  - 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）する場合
  - 背景が明るい場合

  このようなときは、次のように対処すれば露出アンダーが改善されます。
    - 絞りを開く（P.109、111）
    - スローシンクロを解除する（P.176）

ISO

測光・露出に関する設定

ここでは、測光モードや露出モード、露出補正、オートブラケティング撮影など、測光・露出に関する設定について説明します。

被写体の測光方法を変更する
（測光モード）

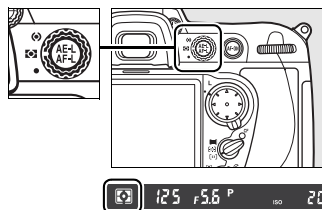
適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。

マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
中央部重点測光※	画面中央の φ8mm 相当（初期設定）の円内を重点的に測光します。画面中央に被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 • 測光範囲はカスタムメニュー b5［**中央部重点測光範囲**］（P.277）で変更できますが、非CPUレンズ使用時は常にφ8mm相当となります。
スポット測光※	フォーカスポイントに重なるφ3mm 相当（全画面の約2%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、AFエリアモード（P.64）が［■］（オートエリアAFモード)のときや、非CPUレンズ使用時は、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。

※非CPUレンズ使用時は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（P.198）で焦点距離と開放絞り値を設定すると、測光の精度が向上します。

測光モードの設定方法

測光モードダイヤルを回すと、ファインダー内の測光モード表示が切り替わります。

測光モードダイヤル

マルチパターン測光について

このカメラは1005分割RGBセンサーを搭載しています。GタイプまたはDタイプレンズ（P.352）使用時は、このセンサーから得られるさまざまな情報を最大限に利用できる「3D-RGBマルチパターン測光II」という測光方式になります。その他のCPUレンズをお使いのときは、距離情報を考慮しない「RGBマルチパターン測光II」という測光方式になります。また、非CPUレンズ装着時にセットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（P.198）で焦点距離と開放絞り値を設定した場合は、「RGBマルチパターン測光」という測光方式になります。設定しない場合は、マルチパターン測光を選択しても自動的に中央部重点測光に切り替わります。

関連ページ

- 中央部重点測光の測光範囲を変更する → b5［**中央部重点測光範囲**］（P.277）
- 測光モードごとに適正露出の基準を決める → b6［**基準露出レベルの調節**］（P.277）

シャッタースピードや絞り値で露出を設定する（露出モード）

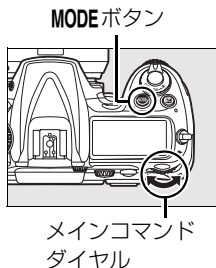
このカメラには、P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）、M（マニュアル）の4つの露出モードがあります。

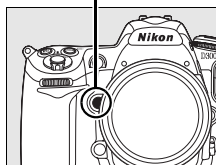
P プログラムオート （P.106）	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞りの両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先オート（P.108）	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞りはカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート （P.109）	背景をぼかしたポートレート写真を撮影したり、奥行きのある風景を鮮明に撮影したいときなどに使います。絞りを自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル （P.111）	シャッタースピードと絞りの両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ）撮影も、このモードで行います。

使用レンズについてのご注意

- CPUレンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリング（P.352）は、必ず最小絞り（最大値）にセットしてください。
- 露出モードがPまたはSのときに非CPUレンズを装着すると、露出モードを自動的にAに切り換えて制御します。このとき、表示パネルのPまたはSが点滅して警告し、ファインダー内表示にAが点灯します。

露出モードの設定方法

露出モードを設定するには、MODEボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して設定します。

被写界深度のプレビュー

プレビューボタンを押し続けると、露出モードがP、Sのときは制御される絞りまで、露出モードがA、Mのときは設定している絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。内蔵フラッシュ、別売のニコンクリエイティブライティングシステム（P.357）対応スピードライト（SB-800、SB-600、SB-R200）使用時は、モデリング発光をします。

カスタムメニュー e4［モデリング発光］

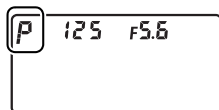
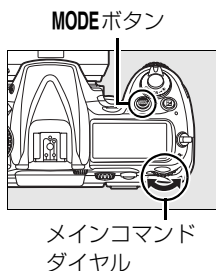
内蔵フラッシュ、別売のニコンクリエイティブライティングシステム（P.357）対応スピードライト（SB-800、SB-600、SB-R200）装着時にモデリング発光をしないようにするには、カスタムメニュー e4［**モデリング発光**］を［**しない**］に設定してください（P.298）。

関連ページ

- ISO感度をカメラに自動制御させる → ［**感度自動制御**］（P.98）
- シャッタースピードが遅いときのノイズを軽減する → ［**長秒時ノイズ低減**］（P.262）
- 露出値のステップ幅を変更する→ b 2［**露出設定ステップ幅**］（P.275）
- コマンドダイヤルの役割を変更する → f7［**コマンドダイヤルの設定**］→［**メインとサブの入れ換え**］（P.308）

P（プログラムオート）：シャッタースピードと絞り値の組合せをカメラが決める

被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影など幅広い撮影に適しています。

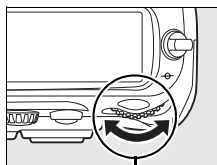
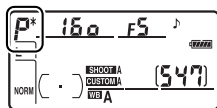
1 **MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにPを表示させる**

2 **構図を決め、ピントを合わせて撮影する**

シャッタースピード：1/320秒
絞り値：F9

プログラムシフトについて

露出モード**P**で撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、プログラムシフト（露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変える）ができます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク＊が点灯します。

メインコマンドダイヤル

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さく設定したい）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードを設定したい）場合には、メインコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きく設定したい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードを設定したい）場合には、メインコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク＊が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたり、他の露出モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

シャッタースピード：1/2500秒
絞り値：F2.8

シャッタースピード：1/60秒
絞り値：F22

関連ページ

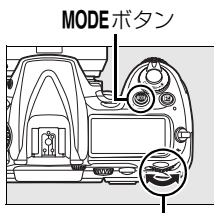
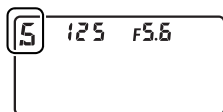
「露出モード**P**（プログラムオート）のプログラム線図」（P.404）

S（シャッター優先オート）：

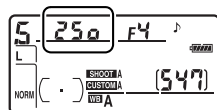
シャッタースピードを決めて撮影する

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。

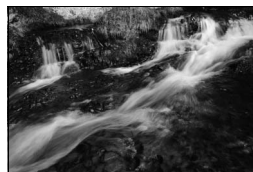
1 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにSを表示させる

MODEボタン

メインコマンドダイヤル

2 メインコマンドダイヤルで好みのシャッタースピードを設定する

- シャッタースピードは1/8000（8000）～30秒（30''）、x 250に設定できます。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッタースピードを変えることによって、画像は次のように異なります。

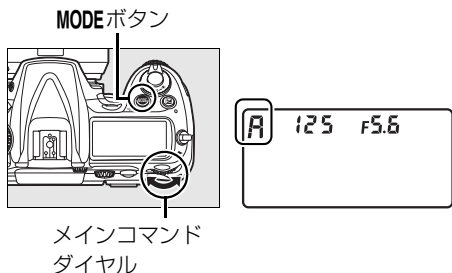
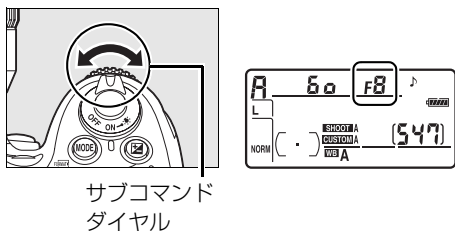
速いシャッタースピードのとき：1/1600 秒

遅いシャッタースピードのとき：1/6秒

関連ページ

表示パネルでbuLbが点滅したときは →「警告メッセージ」（P.390）

A（絞り優先オート）：絞り値を決めて撮影する

絞りを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞りを絞り込むことによって、手前から奥まで鮮明な写真を撮影したり、絞りを開くことによって、背景をぼかして草花や人物を浮かび上がらせて撮影するなど、被写界深度（P.105）を優先した撮影に適しています。また、フラッシュ撮影時には、絞りを変えることにより調光範囲の変更もできます（P.405）。

1 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにAを表示させる

2 サブコマンドダイヤルで好みの絞り値を設定する

• 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズの種類によって異なります。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

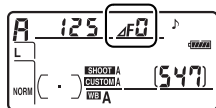
- 絞り値を変えることによって、画像は次のように異なります。

絞りを絞り込んだとき
絞り値：F36

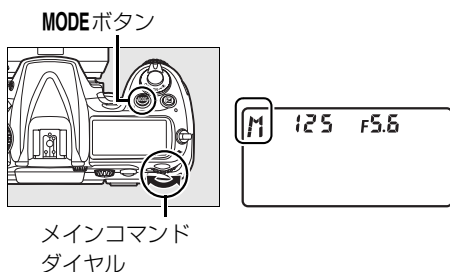
絞りを開いたとき
絞り値：F8

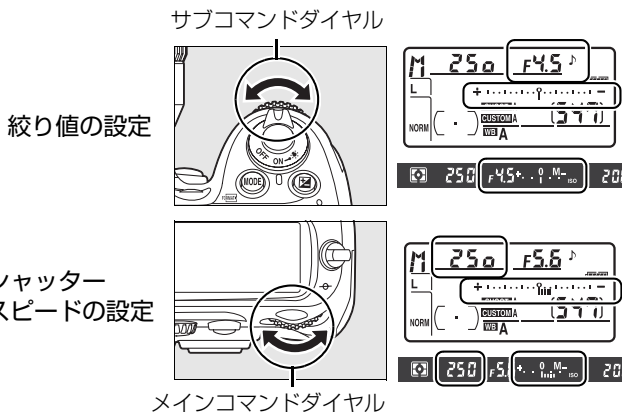
非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着してセットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（P.199）でレンズの開放絞り値を設定した場合は、表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞りの設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（**ΔF**、開放絞りは**ΔF0**）となりますので、絞りの設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

M（マニュアル）：シャッタースピードと絞り値を自分で決めて撮影する

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ、P.113）で撮影する場合には、この露出モードを使います。

1 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにMを表示させる

2 露出インジケーター（次ページ参照）を確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定する

- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは、1/8000（8000）～30秒（30"）およびbulb、x 250に設定できます。
- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

シャッタースピード：1/250秒
絞り値：F8

AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞りをサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

露出インジケーターについて

自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニュー b2［**露出設定ステップ幅**］（P.275）の設定によって変化します）。

	［露出設定ステップ幅］が1/3段のとき		
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	2段以上 オーバーの場合
表示パネル	+ ·········0········· −	+ ·········0········· −	+ ·········0········· −
ファインダー内表示	+. . 0 . .−	+. . 0 . .−	+. . 0 . .−

- 光量がカメラの測光範囲を超えると、露出インジケーターが点滅して警告します。

長時間露出（バルブ）について

シャッタースピード：35秒
絞り値：F25

シャッタースピードを bulb にセットしてシャッターボタンを押し続けると、シャッターが開いたままとなる長時間露出（バルブ）撮影となります。花火や夜景、天体写真の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚やリモートコード（P.368）が必要です。

- 露光時間が長くなると、画像にノイズや色むらが発生することがあります。このノイズは、あらかじめ撮影メニューの［**長秒時ノイズ低減**］（P.262）を［**する**］にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電した Li-ion リチャージャブルバッテリーEN-EL3eまたは別売のACアダプターEH-5aまたはEH-5のご使用をおすすめします。

関連ページ

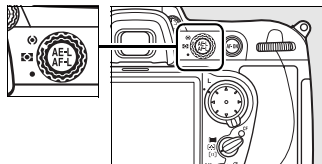
インジケーター表示の＋/－方向を変更する → f10［**インジケーター表示の＋/－方向**］（P.311）

露出を固定して撮影する（AEロック）

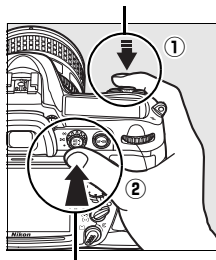
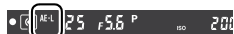
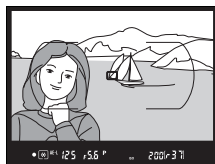
AE ロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

1 測光モード（P.102）を(◉)（中央部重点測光）または[・]（スポット測光）に設定する

- [◙]（マルチパターン測光）は充分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

測光モードダイヤル

2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタンを押して、露出を固定する

- AE/AFロックボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内表示に**AE-L**が点灯します。
- フォーカスモードが**S**または**C**の場合、フォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示（●）の点灯も確認してください。

シャッターボタン

AE/AFロックボタン

3 AE/AFロックボタンを押したまま、構図を決めて撮影する

測光エリアについて

- スポット測光で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合（P.102）は、選択しているフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- 中央部重点測光に設定した場合は、ファインダー中央部（初期設定ではφ8mmの円内）を重点的に測光した露出が記憶されます。

シャッタースピードと絞り値の変更

AE/AFロックボタンを押している間も以下の操作ができます。

露出モード	操作
P	プログラムシフト（P.107）
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- 表示パネルやファインダー内表示には、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードダイヤルを切り換えても測光モードは変わりません（AEロックを解除すれば変わります）。

関連ページ

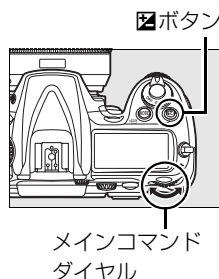
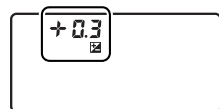
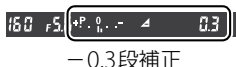
- シャッターボタンの半押しでAEロックできるようにする → c1［**半押しAEロック**］（P.279）
- AE/AFロックボタンに別の機能を割り当てる → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（P.306）

画像の明るさを意図的に変更する（露出補正）

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることで、画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。

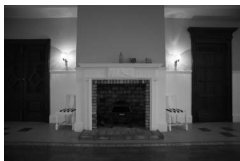
露出モードがMのときは、インジケーター表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

■露出補正の設定方法

±（露出補正）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの露出補正表示が変化（1/3段ステップで±5段）します。設定したい補正値に合わせてください。

- 補正量を設定すると、表示パネルに露出補正マーク±が表示されます。
- ±ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。
- 表示パネルとファインダー内表示には、露出補正インジケーターが表示され、［**0**］が点滅します。

補正なし（⚡±ボタンを押したとき）

−0.3段補正

＋2段補正

• 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正するのが基本です。

－1段補正

露出補正なし

＋1段補正

• 露出補正を解除するには、補正量を 0.0 にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

関連ページ

• 露出補正のステップ幅を変更する → b3［**露出･調光補正ステップ幅**］(P.275)
• ボタンを使わずに露出補正する → b4［**露出補正簡易設定**］(P.276)

露出や調光、ホワイトバランスを変えながら撮影する
（オートブラケティング撮影）

このカメラのオートブラケティングには、露出値を変えるAEブラケティング、フラッシュの発光量を変えるフラッシュブラケティング、色温度を変えるWB（ホワイトバランス）ブラケティングの3種類があります。

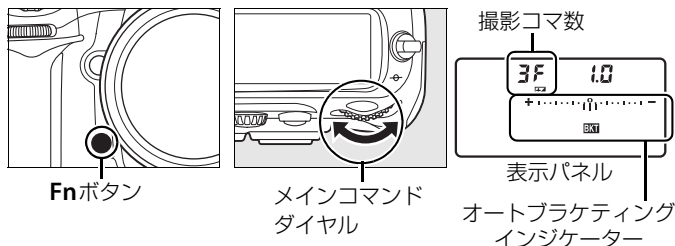
- **AEブラケティング**：**シャッターをきるたびに、**設定した撮影コマ数と補正ステップで自動的にシャッタースピードまたは絞り値を変えながら撮影することができます（P.119）。
- **フラッシュブラケティング**：**シャッターをきるたびに、**設定した撮影コマ数と補正ステップで、自動的にフラッシュの光量を変えながら撮影します。フラッシュブラケティングはi-TTL調光時および絞り連動外部自動調光時（別売のスピードライトSB-800使用時のみ）に使用できます（P.119）。
- **WBブラケティング**：**シャッターを1回きると、**設定したホワイトバランスに対して色温度を変えた画像を、設定した撮影コマ数分記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスの決定が難しいときや、微妙な白の色味を好みで選びたいときなどに効果的です（P.123）。

オートブラケティングについて

初期設定では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。カスタムメニューe5［**オートブラケティングのセット**］で設定を変更できます（P.298）。

AE、フラッシュブラケティングの撮影方法

1 撮影コマ数を設定する

- **Fn**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を設定できます。

- 0F以外に設定すると、表示パネルにBKTマークとオートブラケティングインジケーターが表示され、マークが点滅します。

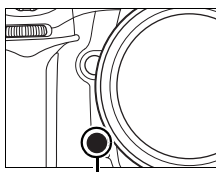
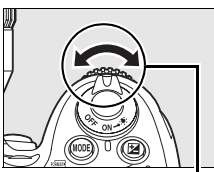
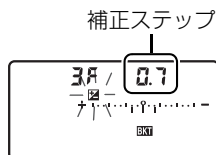
Fnボタンの機能について

カスタムメニュー f4［**ファンクションボタンの機能**］の［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（P.305）では、**Fn**ボタンのコマンドダイヤル併用時の機能を変更できます。［**コマンドダイヤル併用時の動作**］は［**ファンクションボタン押し時の動作**］の一部の機能とは併用できません（P.303）。

関連ページ

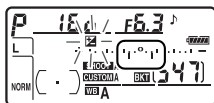
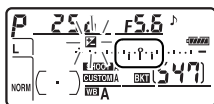
- プレビューボタンでオートブラケティングを行う → f5［**プレビューボタンの機能**］（P.306）
- AE/AFロックボタンでオートブラケティングを行う → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（P.306）

2 補正ステップを設定する

- **Fn**ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。

- 補正ステップは、露出設定ステップ幅が「1/3段」の場合、0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）から選ぶことができます。
- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル	オートブラケティングインジケーター	撮影コマ数	撮影順序
0F 0.3		0	0
+3F 0.3		3	＋0.3/0/＋0.7
-3F 0.3		3	－0.3/－0.7/0
+2F 0.3		2	0/＋0.3
-2F 0.3		2	0/－0.3
3F 0.3		3	0/－0.3/＋0.3
5F 0.3		5	0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7
7F 0.3		7	0/－1.0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0
9F 0.3		9	0/－1.3/－1.0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0/＋1.3

3 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 表示パネルには、オートブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマを示す表示が、オートブラケティングインジケーター上から消えます。
- AEブラケティングと露出補正（P.116）を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。±4段を超えるAEブラケティング撮影を行うときに便利です。

補正ステップ：0

補正ステップ：–1

補正ステップ：+1

関連ページ

- オートブラケティングの補正ステップ幅を変更する → b2［**露出設定ステップ幅**］（P.275）
- オートブラケティングの撮影順を変更する → e7［**BKTの順序**］（P.300）

AE、フラッシュブラケティング撮影をやめるには

Fnボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を0Fにしてください（BKTマークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記録されます。また、ツーボタンリセット（P.184）でも解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

AE、フラッシュブラケティング撮影について

- レリーズモード（P.74）をCLまたはCHにセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けるとセットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押しなおすと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時（P.91）には、設定した撮影コマ数のオートブラケティング撮影が1コマずつ行われます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、再びONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

AEブラケティング

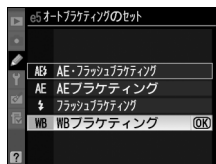
AEブラケティングでは、露出モードによって補正される内容（シャッタースピード、絞り値）が異なります。

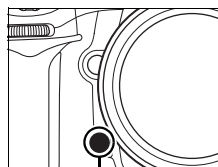
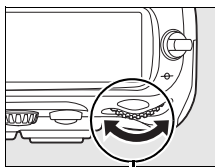
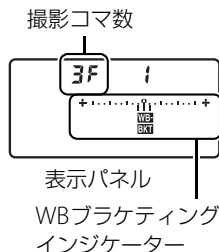
露出モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2

※1 ［**感度自動制御**］（P.98）が［**する**］の場合、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると、自動的にISO感度が変化します。

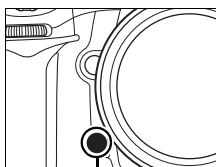
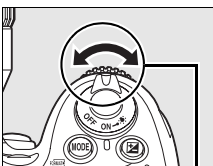
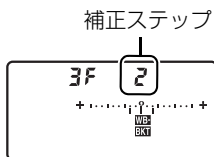
※2 カスタムメニューe6［**BKT変化要素(Mモード)**］により変化する内容をシャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、あるいはフラッシュの調光量のみに変更できます（P.299）。

WBブラケティングの撮影方法

1　カスタムメニューe5［オートブラケティングのセット］（P.298）で［WBブラケティング］を選ぶ

2　撮影コマ数を設定する

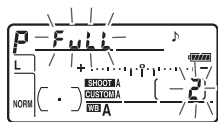
- **Fn**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を設定できます。

- 0F以外に設定すると、表示パネルにWB-BKTマークとWBブラケティングインジケーターが表示されます。

3 補正ステップを設定する

- **Fn**ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。

- 補正ステップは、1（1段）、2（2段）、3（3段）から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります（P.132）。
- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル	WB ブラケティングインジケーター	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
0F 1		0	1段	0
b3F 1		3	B方向1段	B1/0/B2
A3F 1		3	A方向1段	A1/A2/0
b2F 1		2	B方向1段	0/B1
A2F 1		2	A方向1段	0/A1
3F 1		3	各方向1段	0/A1/B1
5F 1		5	各方向1段	0/A2/A1/B1/B2
7F 1		7	各方向1段	0/A3/A2/A1/B1/B2/B3
9F 1		9	各方向1段	0/A4/A3/A2/A1/B1/B2/B3/B4

4 撮影する

- シャッターを1回きると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整にしていた場合は、微調整にWBブラケティングの補正ステップが加算されます。
- WBブラケティングの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、表示パネルおよびファインダー内表示の記録可能コマ数表示が点滅し、シャッターがきれません。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。

■ WBブラケティング撮影をやめるには

Fn ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を0Fにしてください（WB-BKTマークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記録されます。また、ツーボタンリセット（P.184）でも解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

✔ WBブラケティングの制限について

WBブラケティングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

✔ WBブラケティング撮影について

- WB ブラケティングでは、色温度（A（アンバー）から B（ブルー）への横方向）の補正のみを行います（P.131）。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時（P.91）には、1 回のセルフタイマー撮影で設定された撮影コマ数が全て記録されます。

関連ページ

「ミレッド（MIRED）について」（P.133）

WB

ホワイトバランスに関する設定

ここでは、ホワイトバランスの設定や、撮影する照明下で最適なホワイトバランスを取得する方法などについて説明します。

WB

ホワイトバランスを変更する

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定のAUTO（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランス		設定される色温度	内容
AUTO オート（初期設定）		約3500～8000K※	1005分割RGBセンサー、撮像素子で色温度を測り、カメラが自動的に調節します。AUTO（オート）で充分な効果を得るには、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。内蔵フラッシュまたは別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
電球		約3000K※	白熱電球下での撮影に適しています。
蛍光灯		—	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
	ナトリウム灯混合光	約2700K※	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
	電球色蛍光灯	約3000K※	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
	温白色蛍光灯	約3700K※	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	白色蛍光灯	約4200K※	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	昼白色蛍光灯	約5000K※	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	昼光色蛍光灯	約6500K※	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
	高色温度の水銀灯	約7200K※	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。
晴天		約5200K※	晴天の屋外での撮影に適しています。

ホワイトバランス	設定される色温度	内容
フラッシュ	約5400K※	内蔵フラッシュや別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
曇天	約6000K※	曇り空の屋外での撮影に適しています。
晴天日陰	約8000K※	晴天の日陰での撮影に適しています。
K 色温度設定	約2500～10000K	色温度を直接指定できます（P.135）。
PRE プリセットマニュアル	—	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます（P.136）。

※微調整が0の場合の値です。

ホワイトバランスの設定方法

WB

WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、設定したいホワイトバランスのアイコンを表示パネルに点灯させます。

［ホワイトバランス］について

ホワイトバランスは撮影メニュー（P.254）でも設定できます。

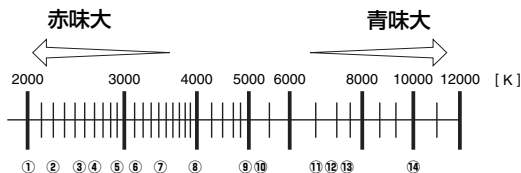
（蛍光灯）について

（蛍光灯）の場合は、撮影メニュー（P.254）で選んだ種類の蛍光灯になります。

✔ スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、AUTO（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は、⚡（フラッシュ）モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをご使用ください。

色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

①	ろうそくの炎	⑥	ハロゲン電球	⑪	曇天
②	石油灯	⑦	温白色	⑫	昼光色
③	ナトリウム灯	⑧	白色	⑬	高色温度の水銀灯
④	電球色	⑨	昼白色	⑭	快晴の空
⑤	白熱電球	⑩	晴天昼光		

WB

関連ページ

ホワイトバランスを変えながら撮影する

→ e5［**オートブラケティングのセット**］（P.298）
→ 露出や調光、ホワイトバランスを変えながら撮影する（オートブラケティング撮影）（P.118）

ホワイトバランスを微調整する

ホワイトバランスは、さらに微調整できます。

■撮影メニューの［ホワイトバランス］で設定する場合

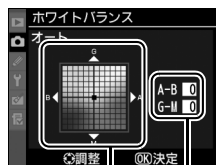
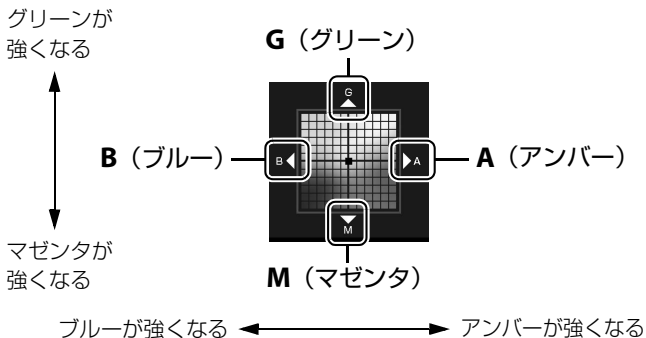
1　撮影メニューの［ホワイトバランス］でホワイトバランスを選ぶ

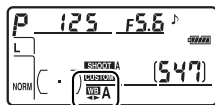
- ホワイトバランスを選んでマルチセレクターの▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**蛍光灯**］の場合は、該当する蛍光灯の種類を選んで ▶ を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**色温度設定**］の場合は、該当する色温度を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**プリセットマニュアル**］の場合は、該当するプリセットマニュアルデータを設定すると（P.144）、微調整画面が表示されます。

2　微調整値を設定する

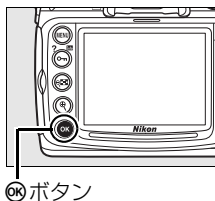
- マルチセレクターを操作すると、A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、各方向6段まで微調整できます。設定した座標上の色に画像を補正します。

座標　設定段数

WB

- 座標とホワイトバランスの効果の関係は次の図のようになります。

- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整ができます。
- AまたはB方向に微調整した場合、表示パネルにホワイトバランス微調整表示◀▶が点灯します。

WB

3 微調整値を決定します

- ㊍ボタンを押して微調整値を決定すると、撮影メニューに戻ります。

㊍ボタン

ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを☀（電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

ミレッド（MIRED）について

色温度の逆数を百万倍（10^6）したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近では変化はほとんどありませんが、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例）色温度の差（K：ケルビン）：ミレッドの差 （M：ミレッド）
　　4000K－3000K＝1000 K ：83 M
　　7000K－6000K＝1000 K ：24 M

WB

ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合

WBボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回して現在選択中のホワイトバランスの微調整量を表示パネルに表示させます。

- **WB** ボタンとサブコマンドダイヤルで微調整する場合は、A（アンバー）からB（ブルー）への横軸の方向のみ設定できます（P.131）。各方向6段まで微調整できます。
- 1段は約5ミレッドに相当します（P.133）。
- サブコマンドダイヤルを左に回すとA（アンバー）方向に、右に回すとB（ブルー）方向に色温度の高さを微調整できます。
- 微調整値を0以外に設定すると、表示パネルにホワイトバランス微調整表示◀▶が点灯します。
- **WB**ボタンの操作では、**K**（色温度設定）、**PRE**（プリセットマニュアル）のホワイトバランスは微調整できません。撮影メニューで微調整してください（P.131）。

WB

色温度を指定してホワイトバランスを設定する（色温度設定）

ホワイトバランスを K（色温度設定）にしたときは、ホワイトバランスの色温度を直接数値で指定できます。

色温度の設定方法

WBボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回して設定したい色温度を表示パネルに表示させます。

色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ 蛍光灯アイコン（蛍光灯）、フラッシュアイコン（フラッシュ）に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。
- **WB**ボタンとサブコマンドダイヤルで色温度を設定すると、撮影メニュー［**ホワイトバランス**］の［**色温度設定**］で設定した微調整値は解除されます。

［色温度設定］について

色温度設定は撮影メニュー（P.254）の[**ホワイトバランス**]でも設定できます。

基準となる白を測定して ホワイトバランスを設定する（プリセットマニュアル）

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明や特殊照明下で、前記の AUTO（オート）や ☀（電球）などの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

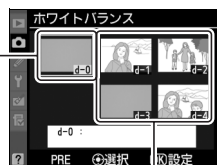
プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（P.138）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	メモリーカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（P.142）。

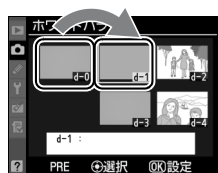
WB

プリセットマニュアルデータは、d-0〜d-4の5つの場所に保存できます。また、各プリセットマニュアルデータにはコメントを添付できます（P.146）。

d-0

カメラで新規取得（P.138）したプリセットマニュアルデータを保存します。新規取得するごとに新しいプリセットマニュアルデータに上書きされます。

d-1〜d-4

プリセットマニュアルデータとして保存します。

- d-0に保存されているプリセットマニュアルデータのコピー（P.141）

- メモリーカードにある画像のホワイトバランスをコピー（P.142）

すでに設定されているプリセットマニュアルデータの変更について

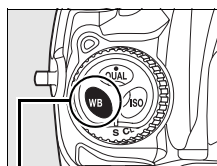
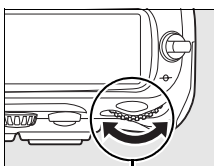
使用するプリセットマニュアルデータの保存場所は、撮影メニュー（A〜D）（P.255）ごとに設定できます。ただし、各保存場所にあるプリセットマニュアルデータ（d-0〜d-4）の内容は、全ての撮影メニューで共用しています。したがって他の撮影メニューで使用されているプリセットマニュアルデータの内容を変更すると、その撮影メニューのホワイトバランスも変更されることになります。d-1〜d-4の内容を変更する場合に他の撮影メニューでそのプリセットマニュアルデータが使用されているときは、液晶モニターに警告メッセージが表示されます。

■プリセットマニュアルデータの新規取得

プリセットマニュアルデータは次の方法で新規取得します。

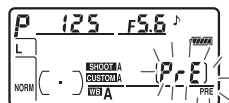
プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、白またはグレー（無彩色）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 白またはグレーの被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。露出モードがMの場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください（P.113）。

1 WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルのホワイトバランス表示をPREに合わせる

2 プリセットマニュアル取得モードにする

表示パネル

ファインダー内表示

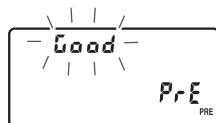
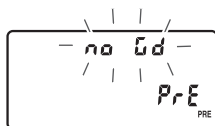
- いったん**WB**ボタンから指を放し、再度**WB**ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、表示パネルに**PrE**の文字と**PRE**が、ファインダー内表示に**PrE**の文字が、それぞれ約6秒間（初期設定）点滅します。

3 PrEの点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する

- 撮影時に使う照明の下で、用意した白またはグレー（無彩色）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを押すと、プリセットマニュアルデータが取得され、d-0に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、メモリーカードに画像は記録されません。

4 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

表示パネル

ファインダー内表示

- プリセットマニュアルデータが取得されると、表示パネルのシャッタースピード表示部に**Good**の文字が、ファインダー内表示のシャッタースピード表示部に**Gd**の文字が、それぞれ約6秒間（初期設定）点滅し、プリセットマニュアル取得モードを終了します。

- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、表示パネルとファインダー内表示のシャッタースピード表示部/絞り値表示部および表示パネルにno Gdの文字が、それぞれ約6秒間（初期設定）点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順3）に戻ります。

5 新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用する

- 新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用するには、**WB**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回してd-0を選択します。

WB

✔ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニューc2［**半押しタイマー**］(P.279) で設定した時間（初期設定では6秒）が過ぎると解除されます。

プリセットマニュアルデータについて

- 新規に取得したプリセットマニュアルデータは常にd-0に保存され、以前のプリセット値は警告なしに上書きされます。他のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-4）を選択している場合、そのままでは新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用できません。新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用するには、プリセットマニュアルデータとしてd-0を選択してください。
- 取得したプリセットマニュアルデータは、d-1～d-4にコピーできます（P.141）。
- ご購入時のプリセットマニュアルデータd-0～d-4は、晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。
- 取得したプリセットマニュアルデータは、プリセットマニュアルデータの保存場所一覧画面で、右のような撮影画像のサムネイルで表示されます。

■ 新規取得したプリセットマニュアルデータ（d-0）をコピーする

d-0で取得したプリセットマニュアルデータを、選択したプリセットマニュアルデータの保存場所にコピーできます。

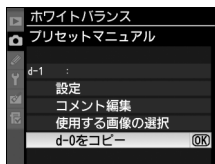
1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

- ［プリセットマニュアル］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動してd-1〜d-4の中からコピー先を選びます。
- **中央**を押すと設定画面が表示されます。

3 ［d-0をコピー］を選ぶ

- ［**d-0をコピー**］を選んで、Ⓞボタンを押します。
- d-0のプリセットマニュアルデータにコメント（P.146）がある場合、コメントもコピーされます。

■撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

選択したプリセットマニュアルデータの保存場所に、メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

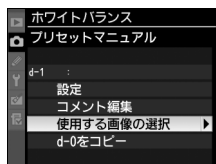
2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動してd-1～d-4の中からコピー先を選びます。
- **中央**を押すと設定画面が表示されます。

- d-0には、撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーすることはできません。

3 ［使用する画像の選択］を選ぶ

- ［**使用する画像の選択**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、メモリーカード内の画像が一覧表示されます。

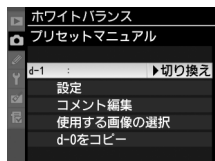
WB

4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 選択した画像は、🔍ボタンを押している間、拡大して確認できます。

5 ホワイトバランスデータをコピーする

- **中央**を押すとメモリーカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選択した画像に画像コメント（P.317）がある場合、画像コメントもコピーされます。

設定画面でのプリセットマニュアルデータの切り換えについて

設定画面で、マルチセレクターの▲を押してプリセットマニュアルデータ（d-0～d-4）を選び、▶を押すと、プリセットマニュアルデータが切り替わります。

■プリセットマニュアルデータを設定する

選択したプリセットマニュアルデータを撮影で使用するホワイトバランスに設定します。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

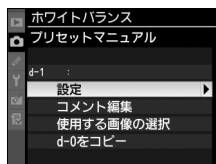
- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

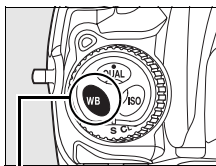
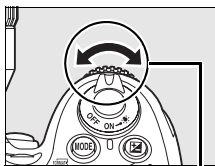
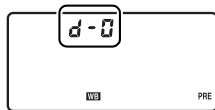
2 プリセットマニュアルデータを選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して、プリセットマニュアルデータを選びます。
- **中央**を押すと設定画面が表示されます。
- **中央**を押す代わりに㊫ボタンを押すと、選択されているプリセットマニュアルデータがそのまま設定されて、微調整の画面が表示されます（P.131）。

3 ［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選んで▶を押すと、微調整の画面が表示されます（P.131）。必要に応じて微調整を行い、㊫ボタンを押して設定します。

WB

プリセットマニュアルデータの選択について

ホワイトバランスを**PRE**（プリセットマニュアル）に設定している場合は、**WB**ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回してプリセットマニュアルデータを選択できます。**WB**ボタンを押している間、選択中のプリセットマニュアルデータ番号が表示パネルに表示されます。

プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

選択したプリセットマニュアルデータにコメント（最大36文字）を入力します。

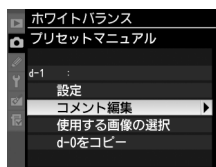
1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 プリセットマニュアルデータを選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して、プリセットマニュアルデータを選びます。
- **中央**を押すと設定画面が表示されます。

3 ［コメント編集］を選ぶ

- ［**コメント編集**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

4 コメントを入力する

- 最大36文字入力できます。コメントの入力方法は、「撮影メニュー切り換え」の「名前編集」をご覧ください（P.256）。

画像処理に関する設定

ここでは、画像の仕上がりを撮影目的や撮影者の好みに合わせる「ピクチャーコントロール」や、白とびや黒つぶれの少ない画像にする「アクティブD-ライティング」など、画像処理に関する設定について説明します。

画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール）

「ピクチャーコントロール（Picture Control）システム」とは、対応するカメラまたはソフトウェアで調整した画像調整の設定を相互に利用できるニコン独自の画作りシステムです。

カメラに搭載されたピクチャーコントロールからお好みのメニューを選ぶだけで、撮影する画像の仕上がりを簡単に設定できます。さらに、明るさやコントラストを簡単に調整したり、5つの要素（輪郭強調、コントラスト、明るさ、色の濃さ（彩度）、色合い（色相））を細かく調整することもできます。また、ピクチャーコントロールを搭載するカメラであれば、「ピクチャーコントロール」の設定を同じにすることで、どのカメラでもほぼ同じ仕上がりの画像を撮影することができるようになります。

好みに合わせて調整したピクチャーコントロールは、「カスタムピクチャーコントロール」としてカメラに登録できます。「カスタムピクチャーコントロール」は、任意に名前を付けたり、後から編集することも可能です。また、カメラに登録した「カスタムピクチャーコントロール」をメモリーカードに保存して対応ソフトウェアで活用したり、ソフトウェアで作成した「カスタムピクチャーコントロール」をカメラに登録することもできます。

「ピクチャーコントロール」を使うことで、画像調整の設定を対応カメラとソフトウェアで相互利用でき、写真表現がさらに広がります。

ピクチャーコントロールを活用する

このカメラでピクチャーコントロールを活用するには、次のような方法があります。

a ニコンピクチャーコントロールを選択する P.150

カメラに搭載されているニコンピクチャーコントロールを選びます。

b ピクチャーコントロールを調整する P.152

ピクチャーコントロールは好みや撮影目的に合わせて、コントラストや明るさ、色の濃さ（彩度）などを調整できます。

c カスタムピクチャーコントロールを登録する P.156

カメラに搭載されたニコンピクチャーコントロールを元にして、新たにピクチャーコントロールを登録したり、編集したりできます。

d メモリーカードを使って、ピクチャーコントロールを対応ソフトウェアと共用する P.160

付属のViewNXなどの対応ソフトウェアで使えるように、カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードに保存できます。また、対応ソフトウェアで作成したカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録することもできます。

e ピクチャーコントロールを管理する P.163

カスタムピクチャーコントロールの名前を変更したり、削除することができます。

ニコンピクチャーコントロールとカスタムピクチャーコントロールについて

ニコンが提供するピクチャーコントロールを総称して「ニコンピクチャーコントロール」といいます。「ニコンピクチャーコントロール」には、カメラにあらかじめ搭載されているピクチャーコントロールとニコンのホームページからダウンロードできる「オプションピクチャーコントロール」があります。この「ニコンピクチャーコントロール」を元に、使用する方がお好みで調整してカスタム登録したものを「カスタムピクチャーコントロール」といいます。「ニコンピクチャーコントロール」および「カスタムピクチャーコントロール」は、対応カメラとソフトウェアで相互に利用することができます。

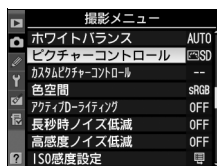
ニコンピクチャーコントロールを選択する

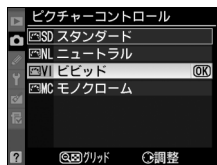
ピクチャーコントロールには、被写体や撮影シーンに合わせて選ぶことのできる4種類の「ニコンピクチャーコントロール」が搭載されています。

SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 • ほとんどの撮影状況に適しています。
NL ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。 • 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。
VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 • 青、赤、緑など、原色の色を強調したいときに適しています。
MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。

ピクチャーコントロールを選ぶ

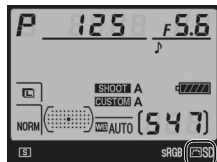
1 撮影メニューの［ピクチャーコントロール］を選ぶ

• ［**ピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、ピクチャーコントロールの一覧画面が表示されます。

2 ピクチャーコントロールを選ぶ

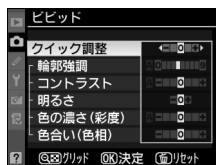
- 一覧画面から設定したいピクチャーコントロールを選びます。
- ㊉ボタンを押して設定します。

ピクチャーコントロールのグリッド表示

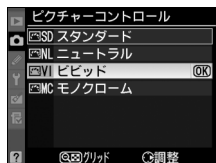
- ピクチャーコントロールの一覧画面で ᴽ⊞ ボタンを押すと、一覧表示からグリッド表示に切り替わります。グリッド表示では、現在選択しているピクチャーコントロールのコントラスト（Contrast）と彩度（Saturation）が座標で表示され、他のピクチャーコントロールとの関係がわかります。
- マルチセレクターの▲または▼で他のピクチャーコントロールに切り換えられます。▶を押すと調整画面（P.152）が表示され、㊉ボタンを押すと設定できます。
- ［**モノクローム**］のグリッド表示は、コントラストの縦軸のみ表示されます。

撮影中のピクチャーコントロールの確認について

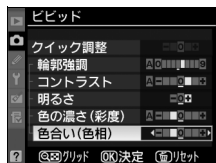
使用しているピクチャーコントロールは、infoボタンを押すと、表示される情報画面で確認できます。

ピクチャーコントロールアイコン

ピクチャーコントロールを調整する

ニコンピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールの設定は、好みや撮影目的に合わせて調整できます。コントラスト、明るさなどをバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」ができます。

1 ピクチャーコントロールを選ぶ

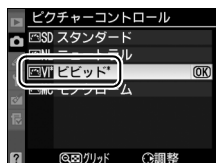
- ピクチャーコントロールの一覧画面（P.150）で、マルチセレクターの▶を押します。

2 ピクチャーコントロールを調整する

- ▲または▼で調整する項目（P.153）を選んで、◀または▶で値を設定します。

- ［**クイック調整**］を選ぶと、各項目のレベルを自動的に調整します（P.153）。
- 🗑ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

3 設定する

- ㊗ボタンを押して設定します。

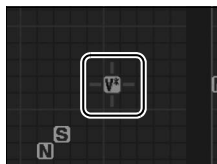
ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンと項目名の末尾にアスタリスク（∗）が表示されます。

レベル調整の設定項目

<table>
<tr><td colspan="2">クイック調整※1</td><td>各項目のレベルを自動的に調整します。［－2］～［＋2］まで5段階の調整ができます。
• －側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、＋側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。たとえば［ビビッド］を選んで＋側にクイック調整すると、色の鮮やかさを強調します。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">手動調整</td><td>輪郭強調</td><td>輪郭の強弱を調整します。[0]（輪郭強調しない）～［9］まで10段階の調整と、自動で調整する[A]（オート）があります。
• 数字が大きいほどくっきりとした画像になり、小さいほどソフトな画像になります。</td></tr>
<tr><td>コントラスト</td><td>画像のコントラストを調整します。［－3］～［＋3］まで7段階の調整と、自動で調整する［A］（オート）があります。
• －側にすると軟調な画像になり、＋側にすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは－側が、霞んだ遠景の撮影などには＋側が適しています。</td></tr>
<tr><td>明るさ</td><td>白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。［－1］～［＋1］まで3段階の調整ができます。
• －側にすると暗くなり、＋側にすると明るくなります。</td></tr>
<tr><td>色の濃さ（彩度）※2</td><td>画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整します。［－3］～［＋3］まで7段階の調整と、自動で調整する[A]（オート）があります。
• －側にすると鮮やかさが抑えられ、＋側にするとより鮮やかになります。</td></tr>
<tr><td>色合い（色相）※2</td><td>画像の色合いを調整します。［－3］～［＋3］まで7段階の調整ができます。
• 肌色を基準にした場合、＋側にすると黄色みが増し、－側にすると赤みが増します。</td></tr>
<tr><td>フィルター効果※3</td><td>白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。フィルター効果は［OFF］（初期設定）、［Y］、［O］、［R］、［G］から選べます（P.155）。</td></tr>
<tr><td>調色※3</td><td>印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色は[B&W]（初期設定）、[Sepia]、[Cyanotype]、［Red］、［Yellow］、［Green］、［Blue Green］、［Blue］、［Purple Blue］、［Red Purple］から選べます（P.155）。</td></tr>
</table>

※1［**ニュートラル**］と［**モノクローム**］はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（P.156）の場合も、クイック調整できません。
手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。
※2［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合、表示されません。
※3［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示されます。

［コントラスト］、［色の濃さ（彩度）］の［A］（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- 充分な効果を得るには、GタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。
- ［**コントラスト**］または［**色の濃さ（彩度）**］に［A］（オート）が設定されたピクチャーコントロールは、グリッド表示時はアイコンが緑色で表示されます。また、各軸に平行な上下または左右の線が表示されます。

ピクチャーコントロール調整時のグリッド表示

ピクチャーコントロール調整中にボタンを押している間、調整しているピクチャーコントロールのコントラストと彩度が座標で表示され、他のピクチャーコントロールとの関係がわかります。ボタンを放すと、調整画面に戻ります。

ピクチャーコントロール調整時のアンダーバーについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示されるアンダーバーは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するときに便利です。

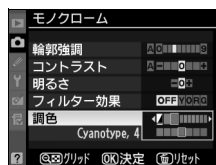
[モノクローム]の[フィルター効果]について

[**フィルター効果**]には、次のような効果があります。

Y(黄※)	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。[**Y**]→[**O**]→[**R**]の順にコントラストが強くなります。
O(オレンジ※)	
R(赤※)	
G(緑※)	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。[**フィルター効果**]で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

[モノクローム]の[調色]について

[**調色**]の項目([**B&W**]以外)を選んでマルチセレクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を7段階から選べます。◀または▶を押して選んでください。

カスタム1～9で調整できる項目について

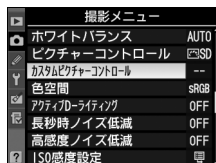
カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールの項目が調整できます。

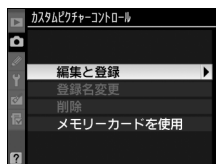
カスタムピクチャーコントロールを登録する

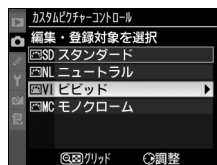
カメラに搭載された「ニコンピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

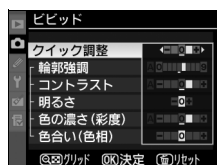
■カスタムピクチャーコントロールの登録方法

1 撮影メニューの［カスタムピクチャーコントロール］を選ぶ

- ［**カスタムピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［カスタムピクチャーコントロール］画面が表示されます。

2 ［編集と登録］を選ぶ

- ［**編集と登録**］を選んで▶を押すと、［編集・登録対象を選択］画面が表示されます。

3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

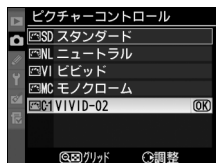
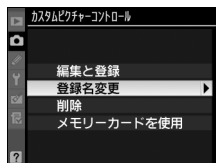
- ピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は㊙ボタンを押します。［登録先の選択］画面が表示されます（手順5へ）。

4 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は［**ピクチャーコントロール**］と同じです。
- ㊙ボタンを押すと［登録先の選択］画面が表示されます。
- 🗑ボタンを押すと調整前の内容に戻ります。

5 登録先を選択する

- C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選んで▶を押すと、［登録名変更］画面が表示されます。

6 名前を入力する

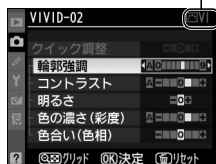
- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名)-XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 19文字まで入力できます。
  文字はカーソル位置に挿入されます。

- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、マルチセレクターの**中央**を押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押します。
- 名前を1文字削除する場合は、ボタンを押しながらマルチセレクターを操作して削除する文字の上にカーソルを移動させ、ボタンを押します。
- 名前を入力したらボタンを押します。
- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。

- 登録した名前は、［**カスタムピクチャーコントロール**］の［**登録名変更**］で変更できます。

カスタムピクチャーコントロールについて

- モノクロームが元になったカスタムピクチャーコントロールでは、編集項目が［**色の濃さ（彩度）**］と［**色合い（色相）**］の代わりに［**フィルター効果**］と［**調色**］になります。
- ［**クイック調整**］（P.153）はできません。
- ［**撮影メニューのリセット**］（P.257）では、カスタムピクチャーコントロールのリセットはできません。

元になったピクチャーコントロールの表示について

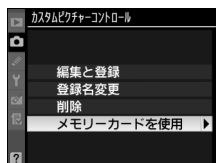
カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったニコンピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

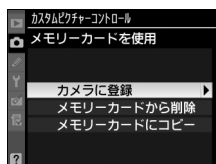
元になったニコンピクチャーコントロール

メモリーカードを使ってピクチャーコントロールを対応ソフトウェアと共用する

付属のViewNXや別売のCapture NXなどで作成したカスタムピクチャーコントロールを、メモリーカードからカメラに読み込んで登録したり、カメラで作成したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーすることができます。

■メモリーカードにあるピクチャーコントロールをカメラに登録する

1 ［カスタムピクチャーコントロール］画面で［メモリーカードを使用］を選ぶ

- ［**メモリーカードを使用**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［メモリーカードを使用］画面が表示されます。

2 ［カメラに登録］を選ぶ

- ［**カメラに登録**］を選んで▶を押すと、［カメラに登録］画面が表示されます。

3 カメラに登録するピクチャーコントロールを選ぶ

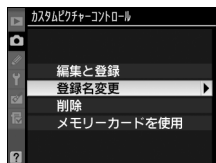
- ピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、設定内容を確認できます。
- ㊊ボタンを押すと、［登録先の選択］画面が表示されます。

4 登録先を選択する

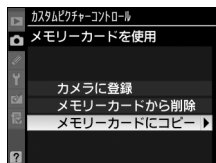
- C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選んで▶を押すと、［登録名変更］画面が表示されます。

5 名前を入力する

- 入力できる文字数は最大19文字です。名前の入力方法については、P.158をご覧ください。
- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。

- 登録した名前は、［**カスタムピクチャーコントロール**］の［**登録名変更**］で変更できます。

❚❚カメラにあるピクチャーコントロールを メモリーカードにコピーする

1 **［メモリーカードを使用］画面で［メモリーカードにコピー］を選ぶ**

- ［メモリーカードにコピー］を選んで▶を押すと、［メモリーカードにコピー］画面が表示されます。

2 **メモリーカードにコピーするピクチャーコントロールを選ぶ**

- ピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、［コピー先の選択］画面が表示されます。

3 **コピー先を選択する**

- 1〜99の中からコピー先を選んで㊙ボタンを押すと、メモリーカードに登録されます。

- 選択したコピー先番号がすでに登録されている場合は、新しいピクチャーコントロールに上書きします。

メモリーカードへのコピーについて

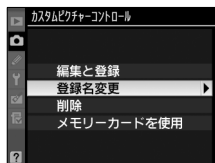
- カメラに搭載されているニコンピクチャーコントロールは、コピーできません。
- メモリーカードに保存できるピクチャーコントロールは、99個までです。

ピクチャーコントロールを管理する

カメラに登録したピクチャーコントロールの名前を変更したり、削除することができます。

ピクチャーコントロールの名前を変更する

1 ［カスタムピクチャーコントロール］画面で［登録名変更］を選ぶ

- ［**登録名変更**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、ピクチャーコントロール選択画面が表示されます。

2 名前を変更するピクチャーコントロールを選ぶ

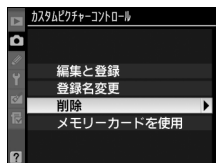
- C-1～9（カスタム1～9）の中から名前を変更するピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、［登録名変更］画面が表示されます。

3 名前を入力する

- 入力できる文字数は最大19文字です。名前の入力方法については、P.158をご覧ください。

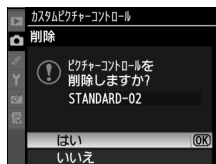
ピクチャーコントロールを削除する

1 ［カスタムピクチャーコントロール］画面で［削除］を選ぶ

- ［**削除**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、ピクチャーコントロール選択画面が表示されます。

2 削除するピクチャーコントロールを選ぶ

- C-1～9（カスタム1～9）の中から削除するピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、［削除］画面が表示されます。

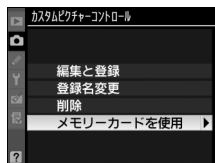
3 ［はい］を選ぶ

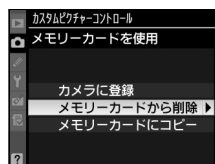
- ［**はい**］を選んで㊀ボタンを押すと、ピクチャーコントロールを削除します。

ニコンピクチャーコントロールの登録名変更と削除について

ニコンピクチャーコントロール（スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム）は、登録名変更や削除ができません。

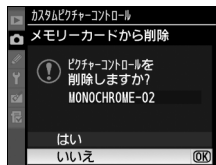
■メモリーカードにあるピクチャーコントロールを削除する

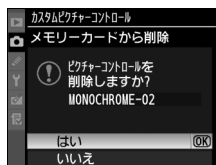
1 ［カスタムピクチャーコントロール］画面で［メモリーカードを使用］を選ぶ

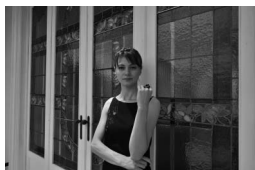
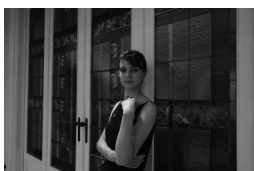
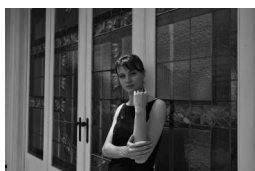
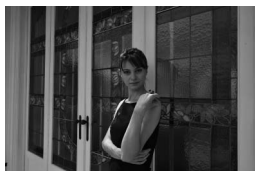
- ［**メモリーカードを使用**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［メモリーカードを使用］画面が表示されます。

2 ［メモリーカードから削除］を選ぶ

- ［**メモリーカードから削除**］を選んで▶を押すと、ピクチャーコントロール選択画面が表示されます。

3 削除するピクチャーコントロールを選ぶ

- 1～99の中から削除するピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、設定内容を確認できます。

- ⓞⓚボタンを押すと、[メモリーカードから削除]画面が表示されます。

4 [はい]を選ぶ

- [**はい**]を選んでⓞⓚボタンを押すと、ピクチャーコントロールを削除します。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する（アクティブD-ライティング）

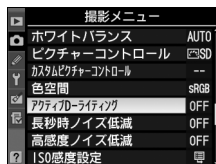
撮影の前にあらかじめ［**アクティブD-ライティング**］を設定しておくと、ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。

アクティブD-ライティング［**強め**］

アクティブD-ライティング［**しない**］

アクティブD-ライティング［**標準**］

アクティブD-ライティング［**弱め**］

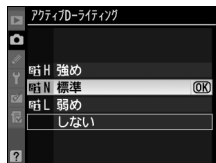
アクティブD-ライティング設定時の測光モードについて

アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードを（マルチパターン測光）に設定して撮影してください（P.102）。

アクティブD-ライティングを設定する

1 撮影メニューの［アクティブD-ライティング］を選ぶ

- ［アクティブD-ライティング］を選んで、▶を押します

2 効果の度合いを選ぶ

- 効果の度合いを選び、Ⓞボタンを押します。
- ［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］の3段階があります。

アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングで撮影する場合は、記録に時間がかかります（P.403）。
- アクティブD-ライティングを設定した場合、設定しないで撮影した場合よりも露出をアンダー側に制御して撮影します。階調が適切な明るさになるように、ハイライト部やシャドー部および中間調を調整します。
- ［**ピクチャーコントロール**］（P.153）の［**コントラスト**］と［**明るさ**］のレベル調整は選択できません。

撮影メニュー［アクティブD-ライティング］と画像編集メニュー［D-ライティング］の違い

［**アクティブD-ライティング**］は、撮影前に階調が適切に調整できるようにアンダー側に露出を制御して撮影します。一方、［**D-ライティング**］は、撮影した画像に対して階調を適切に再調整します。

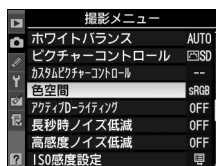
画像の色空間を設定する（色空間）

記録する画像の色空間を指定します。画像の用途によって、適した色空間を選択できます。

設定		内容
sRGB	sRGB（初期設定）	画像をsRGB色空間で記録します。画像調整などを行わずに再生やプリントする場合に適しています。
Adobe	Adobe RGB	画像をAdobe RGB色空間で記録します。sRGBに比べて色域が広いため、商業印刷に適しています。

色空間の設定は撮影メニューの［**色空間**］で行います。

1 撮影メニューの［色空間］を選ぶ

- ［**色空間**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［色空間］画面が表示されます。

2 設定したい色空間を選ぶ

- ㊙ボタンを押して設定します。

色空間についてのご注意

- カラーマネジメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、sRGB色空間をおすすめします。
- Adobe RGB色空間で記録したJPEG画像は、DCFオプション色空間に対応しています。DCFオプション色空間に対応しているアプリケーションやプリンターの場合、自動的に正しい色空間が設定されます。DCFオプション色空間に対応していないアプリケーションやプリンターの場合は、Adobe RGB色空間に設定してください。詳細については、アプリケーションやプリンターの説明書をご覧ください。
- Adobe RGB色空間で記録したTIFF画像には、ICCプロファイルが埋め込まれています。Adobe Photoshopなどのカラーマネージメント機能を持ったアプリケーションで画像を開く場合、自動的に正しい色空間が設定されます。詳細については、アプリケーションの説明書をご覧ください。
- ExifPrint、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、sRGB色空間をおすすめします。Adobe RGB色空間で記録した画像でも、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスで印刷できることは確認していますが、彩度が低下する場合があります。

ViewNXまたはCapture NXをご使用の場合

付属のソフトウェアViewNXまたは別売のCapture NXをご使用になると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。

色空間とは

色を数値化して表現するときに、どの色にどの数値を対応させるかを定めたもので、「カラースペース」ともいいます。一般にはsRGB 色空間が利用されています。Adobe RGB 色空間は出版・印刷などで使われる場合があります。

フラッシュ撮影に関する設定

ここでは、内蔵フラッシュを使ったフラッシュ撮影について説明します。

内蔵フラッシュについて

このカメラは18mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー約17（ISO200・m、20℃）のフラッシュを内蔵しています。モニター発光を行う専用TTL モード（i-TTLモード）によって制御され、i-TTL-BL調光やスタンダードi-TTL調光によるフラッシュ撮影ができます。暗いところではもちろん、逆光時や被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としても使用できます。i-TTL モードでは次のような内蔵フラッシュ撮影ができます。

i-TTL-BL 調光	マルチパターンによる測光情報をもとに被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、シャッターの開く直前に内蔵フラッシュがモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内の1005分割RGBセンサーが瞬時にモニターし、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。 • GまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も加味した最適な発光量を決定します。 • 非CPUレンズ装着時は、レンズ情報（開放絞り値、焦点距離）を設定することにより、より精度が向上します（P.198）。 • 測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。
スタンダードi-TTL 調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。 • 測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。

i-TTL モード時のISO 感度連動範囲について

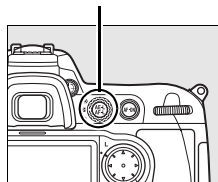
i-TTLモード時のISO感度連動範囲は、200～3200です。ISO感度を200よりも低感度に設定したり、3200よりも高感度に設定した場合には、距離や絞りによっては適正な発光量にならないことがあります。

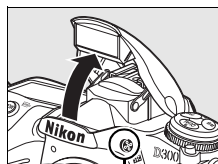
フラッシュを使って撮影する

ここでは、内蔵フラッシュを使用した撮影の方法を説明します。

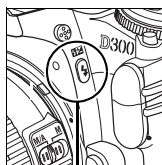
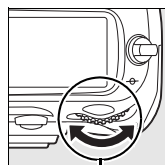
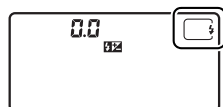
1 測光モードを設定する（P.102）

- スポット測光以外（⦿、⊞）に設定すると、i-TTL-BL調光になります。
- スポット測光（⊡）に設定すると、スタンダードi-TTL調光になります。

測光モードダイヤル

2 内蔵フラッシュを上げる

- フラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュを上げると、フラッシュの充電を開始します。
- 充電が完了して撮影ができる状態になると、ファインダー内表示にϟが点灯します。

フラッシュロック解除ボタン

3 ϟ（フラッシュモード）を設定する

- ϟ（フラッシュモード）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回し、表示パネルに希望するフラッシュモード（P.176）のアイコンを点灯させます。

ϟボタン　メインコマンドダイヤル

表示パネル

4 シャッタースピード、絞り値を設定する

- 内蔵フラッシュ使用時に設定できるシャッタースピードと絞り値は下表のとおりです。

露出モード	設定可能なシャッタースピード	設定可能な絞り値	ページ
P	カメラが自動的に1/250〜1/60秒にセット※1	カメラが自動的に設定	P.106
S	1/250〜30秒※2		P.108
A	カメラが自動的に1/250〜1/60秒にセット※1	任意の絞り※3	P.109
M	1/250〜30秒※2		P.111

※1 スローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード選択時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。また、カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］（P.288）を［**1/320秒（オートFP）**］または［**1/250秒（オートFP）**］に設定してSB-800、SB-600を装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。

※2 カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］（P.288）を［**1/320秒（オートFP）**］または［**1/250秒（オートFP）**］に設定してSB-800、SB-600を装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで設定できます。

※3 調光範囲は設定しているISO感度と絞り値によって決まります。Aまたは M時の絞りの設定は内蔵フラッシュの調光範囲を考慮して行ってください。

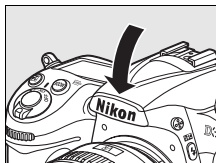
5 撮影する

- 撮影前にプレビューボタンを押すと、モデリング発光をしてライティング状態を確認できます（初期設定：P.298）。
- シャッターをきった後、ファインダー内表示の⚡が約3秒間点滅した場合は、フラッシュがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り値、ISO感度などを再度確認して、撮影し直してください。

関連ページ

「［**1/320秒（オートFP）**］時の調光範囲について」（P.289）

内蔵フラッシュを収納する

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、使用しないときは常に収納してください。

フラッシュ撮影時のご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、被写体から60cm 以上離れてください。
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なレンズは、焦点距離が18～300mm のレンズです。詳しくはP.354 をご覧ください。
- フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュ撮影時は、レリーズモードを**CL**または**CH**に設定しても、連続撮影にはなりません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するため、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。

関連ページ

- フラッシュの調光量を固定して撮影する →「調光量を固定して撮影する（FVロック）」（P.180）
- 内蔵フラッシュの同調速度を変更する → e1［**フラッシュ撮影同調速度**］（P.288）
- フラッシュ時のシャッタースピードを制限する → e2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］（P.291）
- 内蔵フラッシュの発光方式を変更する → e3［**内蔵フラッシュ発光**］（P.291）
- 内蔵フラッシュをコマンダーモードで使用する → e3［**内蔵フラッシュ発光**］（P.291）
- 「内蔵フラッシュの調光範囲と限界絞り値」（P.405）
- 別売スピードライト（フラッシュ）を使って撮影する →「使用できるスピードライト」（P.357）

設定できるフラッシュモード

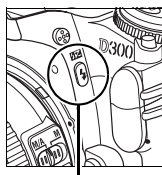
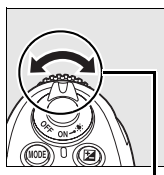
モード	内容
先幕シンクロモード	通常のフラッシュ撮影時にはこのモードを設定します。露出モードをPまたはAにセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/250～1/60秒（別売のスピードライトを装着して、オートFPハイスピードシンクロ（P.357）を行う場合は、1/8000 ～1/60秒）に自動的にセットします。
赤目軽減モード	フラッシュが発光する前に約1秒間赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。 • シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。
SLOW 赤目軽減スローシンクロモード	赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードはPまたはAに設定してください。 夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。 • シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。
SLOW スローシンクロモード	露出モードをPまたはAに設定してフラッシュ撮影すると、通常はシャッタースピードが1/250～1/60秒（別売のスピードライトを装着して、オート FP ハイスピードシンクロ（P.357）を行う場合は、1/8000 ～1/60 秒）に自動的にセットされますが、このモードでは、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらフラッシュを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影ができます。 • シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。

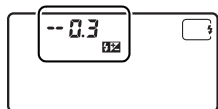
モード	内容
REAR 後幕シンクロモード	シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にフラッシュが発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌道などを表現したい場合などに適しています。 • 露出モードをPまたはAに設定すると、スローシンクロモードも自動的にセットされ、右のように表示されます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。 SLOW REAR

調光量を補正して撮影する（調光補正）

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

■調光補正の設定方法

⚡±（調光補正）ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの調光補正表示が変化します（1/3段ステップで－3段～＋1段）。設定したい補正値に合わせてください。

⚡ボタン

サブコマンドダイヤル

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に⚡±（調光補正）マークが表示されます。
- ⚡± ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正するのが基本です。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFF にしても、補正量の設定は解除されません。

125 F5.6 P 0.0

補正なし（⚡±ボタンを押したとき）

125 F5.6 P 0.3

－0.3段補正

125 F5.6 P 1.0

＋1段補正

別売スピードライトの調光補正について

別売のスピードライトSB-800、SB-600、SB-400、SB-R200使用時も、調光補正ができます。

関連ページ

調光補正のステップ幅を変更する → b3［**露出・調光補正ステップ幅**］（P.275）

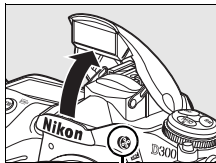
調光量を固定して撮影する（FVロック）

フラッシュの調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

1 カスタムメニューf4［ファンクションボタンの機能］（P.303）の［ファンクションボタン押し時の動作］を、［FV-L］に設定する

2 内蔵フラッシュを上げる

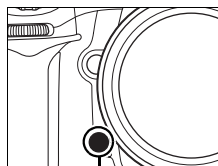
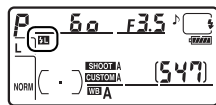
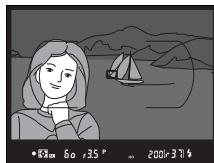
- フラッシュロック解除ボタンを押すと、内蔵フラッシュが上がり、フラッシュの充電が開始します。

フラッシュロック解除ボタン

3 被写体にピントを合わせる

- 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

4 モニター発光を行う

Fnボタン

- ファインダー内表示に⚡が点灯していることを確認し、**Fn**ボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、表示パネルとファインダー内表示に⚡L（FVロック）マークが表示されます。

5 構図を変更する

6 撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影することができます。必要に応じて手順5～6を繰り返してください。

7 FVロックを解除する

- 再度**Fn**ボタンを押すと、FVロックが解除され、表示パネルとファインダー内表示の⚡Lが消灯します。

内蔵フラッシュのFV ロックについて

内蔵フラッシュだけを発光させてフラッシュ撮影を行う場合、FVロックはカスタムメニューe3［**内蔵フラッシュ発光**］(P.291）が［**TTL モード**］(初期設定）に設定されている場合のみ機能します。

別売スピードライトのFVロックについて

別売のスピードライトSB-800、SB-600、SB-400またはリモートスピードライトSB-R200 使用時も、FVロックを行うことができます。この場合、SB-800 の発光モードをTTL、AAに、SB-600の発光モードをTTLに設定してください（詳しくはそれぞれのスピードライトの使用説明書をご覧ください）。FV ロック中に、SB-800、SB-600のズーム位置を変更しても、スピードライトの発光量が補正されることにより、FV ロックは維持されます。カスタムメニューe3［**内蔵フラッシュ発光**］(P.291）を［**コマンダーモード**］にして、SB-800、SB-600、SB-R200を補助灯として用いる場合、［**コマンダーモード**］の設定画面で次のいずれかを行うことによりFV ロックを使用できます。

- 内蔵フラッシュ、A グループ、B グループのうち、いずれかの［**発光モード**］を［**TTL**］にする
- 補助灯が SB-800 のみで構成されているグループがある場合は、そのグループの［**発光モード**］を［**TTL**］または［**AA**］にする

別売スピードライトのFVロック時の測光エリアについて

別売スピードライトを使用したFVロック時の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央 φ4mm相当
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
	外部自動調光（マスタースピードライト）	

関連ページ

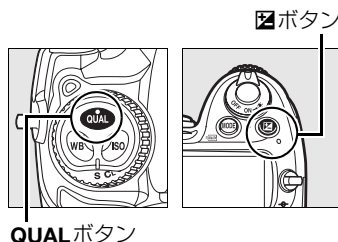
- プレビューボタンでFVロックをする → f5［**プレビューボタンの機能**］(P.306)
- AE/AF ロックボタンでFVロックをする → f6［**AE/AF ロックボタンの機能**］(P.306)

撮影の便利な機能

ここでは、カメラを初期設定の状態に戻すツーボタンリセットや、多重露出、インターバルタイマー撮影など、撮影に便利な機能を説明します。

基本的な機能を初期設定に戻す
（ツーボタンリセット）

ツーボタンリセットにより、簡単にカメラの設定を初期状態に戻すことができます。

QUALボタンと±ボタン（それぞれのボタンに緑色の●がついています）を2秒以上同時に押すと、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。

QUALボタン

±ボタン

機能	初期設定
フォーカスポイント	中央
露出モード	*P*
プログラムシフト	解除
露出補正	解除
AEロックのホールド状態	解除※1

機能	初期設定
オートブラケティング	解除※2
フラッシュモード	先幕シンクロ
調光補正	解除
FVロック	解除
多重露出	解除

※1 カスタムメニューf6［**AE/AFロックボタンの機能**］（P.306）はリセットされません。

※2 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュブラケティングの補正ステップは1段に、WBブラケティングの補正ステップは1になります。

ツーボタンリセットでは、撮影メニュー［**撮影メニュー切り換え**］（P.255）で選択されている撮影メニュー（A～Dのいずれか）の項目の内容も初期状態に戻ります。現在選択されていない撮影メニューの項目は初期状態に戻りません。

撮影メニュー項目	初期設定
画質モード	NORMAL
画像サイズ	サイズL
ホワイトバランス	オート
ホワイトバランス微調整	解除

撮影メニュー項目	初期設定
ピクチャーコントロールの調整値	解除※
ISO感度	200

※ 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

関連ページ

「初期設定一覧」（P.397）

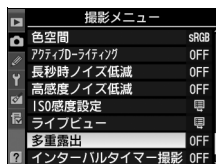
1つの画像に重ねて写し込む
（多重露出撮影）

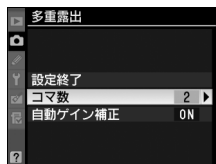
多重露出撮影は2～10コマまで重ねて写し込み、1つの画像として記録します。多重露出は全ての画質モードで撮影できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

■多重露出の撮影方法

多重露出撮影中に、何も操作しないで30秒経過すると、カメラが待機状態に入り、撮影は中断して、撮影した画像を記録します。

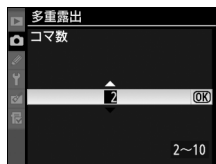
1 撮影メニューの［多重露出］を選ぶ

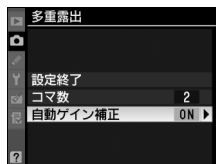
- ［**多重露出**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

2 ［コマ数］を選ぶ

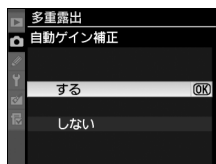
- ［**コマ数**］を選んで、▶を押します。

撮影間隔が長くなる場合について

撮影間隔が長くなる場合は、再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（P.251）を［**する**］に設定して、カスタムメニューc4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（P.280）を長めに設定することをおすすめします。カメラが待機状態に入るまでの時間が、c4で設定した時間に30秒を加えたものに延長されます。

3 露光回数（2～10コマ）を設定する

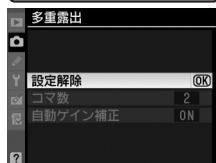
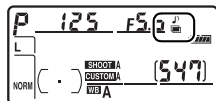
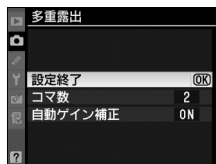
- ▲または▼を押して露光回数を設定し、㊋ボタンを押します。

4 ［自動ゲイン補正］を選ぶ

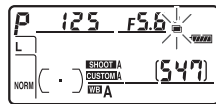
- ［**自動ゲイン補正**］を選んで、▶を押します。

5 自動ゲイン補正を設定する

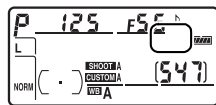
- 自動ゲイン補正の設定後、㊋ボタンを押します。

する （初期設定）	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。ただし、背景が暗いときは［**しない**］にすることをおすすめします。 • 各コマのゲインは、「1÷露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。
しない	ゲインを補正せず、全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。

6 ［設定終了］を選ぶ

- 設定が終了したら、［**設定終了**］を選んで、OKボタンを押します。
- 多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルに■マークが点灯します。

- 多重露出の設定を解除するには、［**多重露出**］で［**設定解除**］を選び、OKボタンを押してください。

7 1回目の撮影をする

- 撮影を始めると、■マークが点滅します。

8 2回目以降の撮影をする

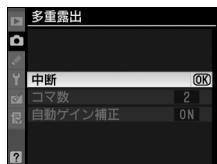
- 設定した回数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、■マークが消灯します。

多重露出撮影時のご注意

- 多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で液晶モニターを点灯した場合、液晶モニターが消灯してから操作のないまま30秒が経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。
- ライブビュー撮影中は、多重露出撮影ができません。
- 多重露出による撮影中は、メモリーカードを交換しないでください。
- レリーズモード（P.74）を**CL**または**CH**に設定して撮影する場合は、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数が終了した時点で画像が記録され、多重露出が解除されます。
- 多重露出の撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、1コマ目の内容になります。

多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影（P.191）を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影ができます。この場合、［**インターバルタイマー撮影**］で設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、［**多重露出**］で設定されたコマ数の撮影が終了すると、多重露出とインターバルタイマー撮影の両方が解除されます。

多重露出撮影を中断するには

多重露出撮影中に、撮影メニューの［**多重露出**］を選ぶと、右の画面が表示されます。この画面で［**中断**］を選んでⓄボタンを押すと、多重露出撮影は途中で終了し、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（［**自動ゲイン補正**］を［**する**］にしていたときは、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。多重露出撮影の設定も解除されるので、もう一度多重露出撮影を行うには、［**多重露出**］の設定を最初からやり直してください。

このほか、次の場合も、多重露出は中断されます。

- ツーボタンリセット（P.184）を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき

多重露出撮影時に利用できない機能について

多重露出撮影中は、次の機能を利用することができません。

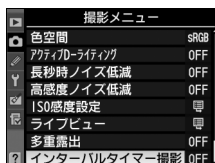
- ［**ホワイトバランス**］を除いた撮影メニュー全項目。ただし、多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影を開始した場合、［**インターバルタイマー撮影**］も選択できます
- オートブラケティング
- メモリーカードの初期化
- クリーニングミラーアップ
- イメージダストオフデータ取得

設定した間隔で撮影する
（インターバルタイマー撮影）

このカメラは、設定した開始方法（即時または設定時刻）と時間間隔で自動的に撮影を行う、インターバルタイマー撮影が可能です。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です。インターバルタイマー撮影は、レリーズモードを**S**、**CL**または**CH**に設定して撮影してください。

インターバルタイマー撮影の開始

1 撮影メニューの［インターバルタイマー撮影］を選ぶ

- ［**インターバルタイマー撮影**］を選んで、マルチセレクターの▶を押すと、［インターバルタイマー撮影］画面が表示されます。

2 ［開始トリガー］（開始方法）を設定する

- すぐに撮影する場合は［**即時スタート**］を、開始時刻を設定する場合は［**開始時刻設定**］を選んで▶を押します。

- ［**即時スタート**］：設定を終了した約3秒後に撮影を開始します。［**即時スタート**］を選んで▶を押すと［撮影間隔］画面が表示されます（手順4へ）。
- ［**開始時刻設定**］：手順3で設定した開始時刻に、撮影を開始します。［**開始時刻設定**］を選んで▶を押すと［開始時刻］画面が表示されます（手順3へ）。

3 ［開始時刻］を設定する

- ◀または▶を押して時、分を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- ［**開始トリガー**］で［**即時スタート**］を選んだ場合、この画面は表示されません。

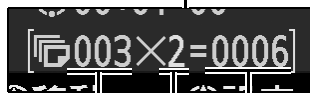
4 ［撮影間隔］（インターバル）を設定する

- ◀または▶を押して時間、分、秒を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- 実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。

インターバルタイマー撮影を開始する前のご注意

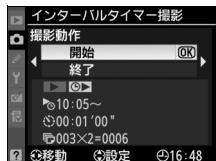
- 試し撮りをすることをおすすめします。特にフォーカスモードが**S**で撮影する場合、被写体にピントが合わないと、その回の撮影がキャンセルされますのでご注意ください。
- ［**開始時刻設定**］を指定する場合は、あらかじめセットアップメニューの［**ワールドタイム**］（P.36）で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーをお使いください。

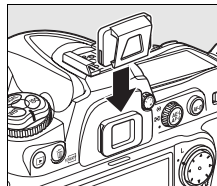
5 ［撮影回数×コマ数］を設定する

- ◀または▶を押して撮影回数と1回のコマ数を1桁ずつ選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。

撮影回数　コマ数　合計撮影コマ数

6 インターバルタイマー撮影を開始する

- ［**開始**］を選んで㊿ボタンを押すと、インターバル撮影が開始されます。

- 設定した開始方法で最初の設定コマ数が撮影され、設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。
- 設定した［**開始時刻**］が現在時刻の1分以内の場合や、シャッタースピードがbulb（バルブ）の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- 設定のみを行いたいときは、［**終了**］を選んで㊿ボタンを押すと、撮影メニューに戻ります。

アイピースキャップについて

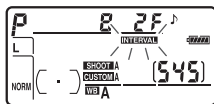
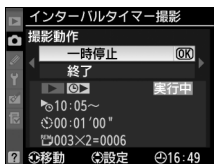
ファインダーから光が入り、適正露出に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップDK-5を取り付けることをおすすめします。
アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込んでください。

メモリーカードのメモリー残量がない場合は

メモリーカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるメモリーカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください（P.195）。

オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時に AE・フラッシュ、AE、フラッシュブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時にWBブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。

インターバルタイマー撮影の待機状態について

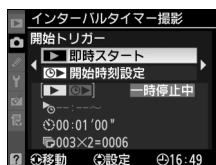
インターバルタイマー撮影の待機状態では、表示パネルに INTERVAL マークが点滅します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。

- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。
- 撮影メニューから［**インターバルタイマー撮影**］を選ぶと、液晶モニターのインターバル設定画面に撮影動作、開始時刻、撮影間隔、残りの撮影回数と撮影コマ数が表示されます。ただし、［**撮影動作**］（次ページ参照）以外の設定変更はできません。

インターバルタイマー撮影の一時停止と再開

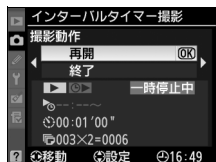
次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。

- 撮影待機中にOKボタンを押したとき
- ［**撮影動作**］で［**一時停止**］を選んで、OKボタンを押したとき
- 電源をOFFにして、再度ONにしたとき（電源がOFFの間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します。）
- レリーズモードをLv、⏲または**Mup**に切り換えたとき

インターバルタイマー撮影を再開する手順は次のとおりです：

1 ［開始トリガー］（P.191）を設定する

- ［**開始トリガー**］を選んですぐに撮影する場合は［**即時スタート**］を、開始時刻を設定する場合は［**開始時刻設定**］を選んで▶を押します。
- ［**開始時刻設定**］を選んだときは、開始時刻を設定します。

2 インターバルタイマー撮影を再開する

- ［**再開**］を選んでOKボタンを押すと撮影を再開します。
- 撮影途中の回で停止状態になった場合、その回の残りのコマはキャンセルされます。再開した場合は、次の回の1コマ目から撮影されます。

インターバルタイマー撮影の終了

次の場合はインターバルタイマー撮影が終了します。

- ［**撮影動作**］で［**終了**］を選び、Ⓚボタンを押したとき
- ツーボタンリセット（P.184）を行ったとき
- ［**撮影メニューのリセット**］（P.257）を［**する**］にしたとき
- オートブラケティング（P.118）を設定、または解除したとき
- バッテリーの残量がなくなったとき

インターバルタイマー撮影終了後は通常の撮影待機状態に戻ります。

撮影のキャンセル

前の回から設定撮影間隔が経過し、次の回の撮影開始時刻になったときに次の状態にある場合は、その回の撮影を全コマキャンセルします。撮影はその次の回から再開します。

- 前の回のコマを撮影中
- 連続撮影可能コマ数が0のとき
- メモリーカードに空きがないとき
- フォーカスモードが**S**で、被写体にピントが合わないとき（撮影ごとにピントを合わせます。）

レリーズモードについて

- レリーズモードに関係なく、1 回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。
- **CH**では6コマ/秒、**S**、**CL**ではカスタムメニュー d4［**低速連続撮影速度**］（P.282）で設定された速度で、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数を撮影します。

インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像を再生することができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に液晶モニターを消灯して、撮影に入ります。

✔ 撮影メニューの切り換えとリセットについて

インターバルタイマー撮影設定画面の内容は、全ての撮影メニュー（「A」～「D」）（P.255）で共通です。このため、撮影メニューの［**撮影メニュー切り換え**］で撮影メニューを切り換えても、インターバルタイマー撮影は続行します。また、［**撮影メニューのリセット**］を選ぶと、確認画面が表示されます。

- ［**はい**］を選ぶと、全ての撮影メニューでインターバルタイマー撮影設定が初期状態（開始トリガー：即時スタート、撮影間隔：1分、設定：1回/1コマ、撮影動作：開始しない）にリセットされ、実行中のインターバルタイマー撮影は終了します。
- ［**いいえ**］を選ぶと、撮影メニューのリセットは行われず、インターバルタイマー撮影は続行します。

非CPUレンズを使う
（レンズ情報手動設定）

レンズの情報をカメラに登録することにより、非CPUレンズを使って撮影するときに、次の機能が使用できます。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
  - 別売のスピードライトSB-800、SB-600の自動ズーミング
  - 再生画面での焦点距離表示（焦点距離に＊印が付きます）
- **開放絞り値を設定して使用できる機能：**
  - レンズで設定した絞り値表示（表示パネル、ファインダー内表示）
  - スピードライトの絞り連動外部自動調光
  - 再生画面での絞り値表示（絞り値に＊印が付きます）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
  - RGB マルチパターン測光※

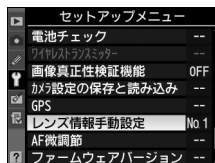
    ※ レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では充分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光に設定して撮影してください。
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
  - 中央部重点測光
  - スポット測光
  - i-TTL調光

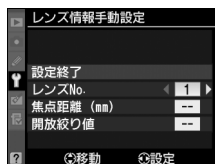
ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

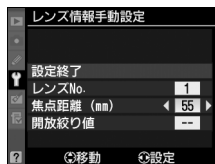
- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離にもっとも近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

▌レンズ情報の登録方法

1 セットアップメニューの［レンズ情報手動設定］を選ぶ

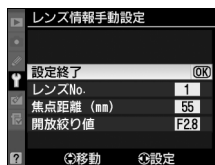
- ［**レンズ情報手動設定**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

2 ［レンズNo.］を選ぶ

- ◀または▶を押して、登録したいレンズNo.（1〜9）を選びます。

3 ［焦点距離（mm）］を選ぶ

- ◀または▶を押して、レンズの焦点距離（6〜4000）を選びます。

4 ［開放絞り値］を選ぶ

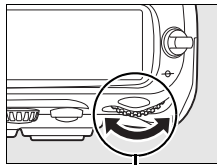
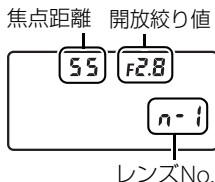
- ◀または▶を押して、レンズの開放絞り値（F1.2〜F22）を選びます。

5 設定を終了する

- ［**設定終了**］を選んでⓀボタンを押します。
- レンズの設定が保存されて、セットアップメニュー画面に戻ります。

▌手動設定済みレンズ情報の選択方法

1 カスタムメニュー f4［ファンクションボタンの機能］（P.303）の［コマンドダイヤル併用時の動作］を［手動設定済みレンズの選択］に設定する

- **Fn**ボタンとメインコマンドダイヤルの組み合わせに対して、レンズの選択機能が割り当てられます。

2 Fnボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回す

- レンズNo.は表示パネルに表示されます。使用したいレンズの番号が表示されるまでメインコマンドダイヤルを回します。

ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、再度レンズ情報を設定してください。

関連ページ

- プレビューボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える → f5［**プレビューボタンの機能**］（P.306）
- AE/AFロックボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（P.306）

GPS情報を画像に記録する

このカメラは、10ピンターミナル（P.4）に接続した別売のGPS変換コードMC-35を介してGPS機器と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）、撮影方位を記録できます。

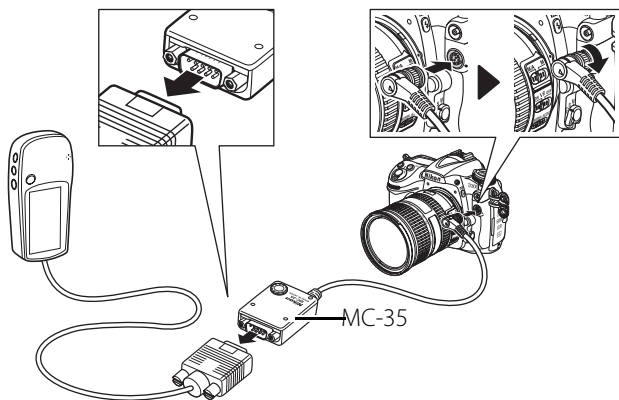
GPS機器との接続について

- データ形式がNMEA（National Marine Electronics Association）0183 ver.2.01およびver.3.01を満たすGPS機器※ と接続が可能です。

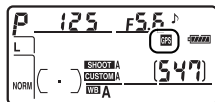
  ※ GARMIN社製:「eTrex」シリーズ、「geko」シリーズなど（PC-Interface Cableが接続可能な機種）

  対応するGPS機器の最新情報については、下記アドレスのホームページでご覧いただけます。

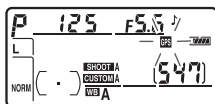
  http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

- GPS変換コードMC-35は、GPS機器メーカーのPCケーブル（D-sub9ピンタイプ）に接続します。詳しくはMC-35の使用説明書をご覧ください。

GPS機器との通信について

- GPS機器の通信形式を、NMEAに設定してください（Baud rateは4800です）。
- GPS機器の使用方法については、GPS機器の使用説明書をご覧ください。
- GPS機器との通信が開始されると、表示パネルにGPS通信マーク GPS が表示されます。この状態で撮影すると、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC、撮影方位が記録されます。

- GPS機器との通信が2秒以上途絶えると、表示パネルからGPS通信マーク GPS が消灯します。この状態で撮影した画像データにはGPSデータは記録されません。
- GPS 機器と通信して撮影した画像には、再生時の画像情報に GPS データのページ（P.215）が追加されます。

GPSを使用した撮影について

GPS機器と接続していても、GPS通信マーク GPS が点灯するまでGPSデータは記録されません。撮影時に表示パネルのGPS通信マーク GPS が点灯していることを確認してください。

- GPS機器の電源を入れた直後など、GPS通信マーク GPS が点滅する場合は、GPS機器が取得している情報が確定していないため、GPSデータは記録されません。GPS通信マーク GPS が点灯するまでお待ちください。

■GPS機器と接続中の半押しタイマーの設定や情報表示について

セットアップメニューの［**GPS**］で、GPS機器と接続中の半押しタイマーの設定や、取得したGPS情報を表示できます。

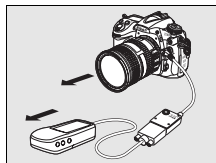
- ［**半押しタイマー**］では、カメラとGPS機器を接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

有効 （初期設定）	カメラを操作していないときは、カスタムメニューc2［**半押しタイマー**］で設定された時間でオフになります。カメラの電池の消耗を少なくすることはできますが、半押ししている時間が短いと、GPSデータを記録できないことがあります。
無効	GPS機器と接続中は、半押しタイマーがオフになりません。いつ撮影してもGPSデータを記録できます。

- ［**情報表示**］では、GPS機器接続時に取得した情報を表示します。

緯度	緯度を表示
経度	経度を表示
標高	標高を表示
方位	撮影方位を表示
UTC	UTC（協定世界時）を表示

撮影方位について

- 撮影方位は、電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ記録されます。
- 撮影方位を正確に記録したい場合は、カメラからGPS機器を20cm以上離し、撮影する方位にGPS機器の向きを合わせてください。

UTCについて

UTC（Coordinated Universal Time＝協定世界時）は、GPS機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

画像の再生

ここでは、撮影した画像を再生する方法や再生中の操作について説明します。

画像を1コマずつ再生する
(1コマ表示モード)

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

マルチセレクター

サブコマンドダイヤル

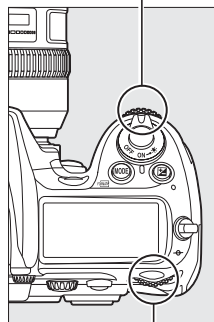
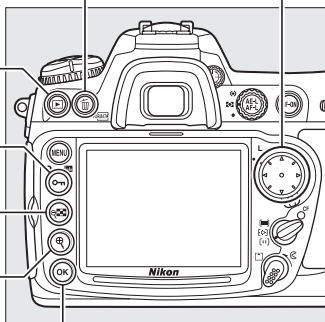
🗑ボタン

▶ボタン

O-nボタン

Q⊞ボタン

⊕ボタン

OKボタン

メインコマンドダイヤル

縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの［**縦位置自動回転**］(P.251)を［**する**］に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。

1コマ表示モードでの操作方法

前後の画像を見る	◀/▶	◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の表示	▲/▼	表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（P.208）。
複数画像を一覧表示する		サムネイル表示モード（P.218）に切り替わります。
画像を拡大する		表示中の画像を拡大表示します（P.220）。
画像を削除する		表示中の画像を削除します（P.222）。
画像を保護する		表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（P.221）。
撮影に戻る	/ ▶	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（P.245）。

撮影直後の画像確認について

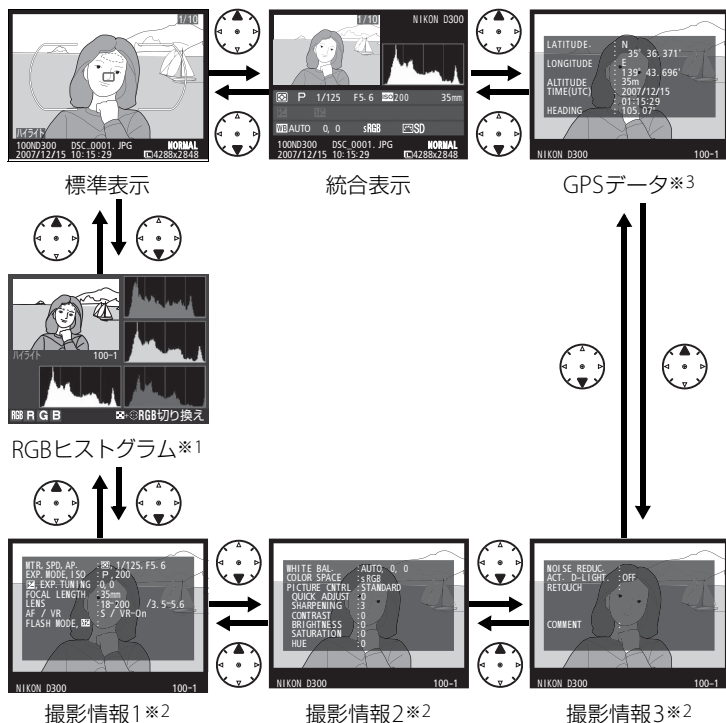
再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（P.251）を［**する**］に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に約20秒間（初期設定）液晶モニターに表示します。

- レリーズモードが**S**、、**MUP**のときは、1コマずつ表示されます。
- レリーズモードが**CH**や**CL**のときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。

関連ページ

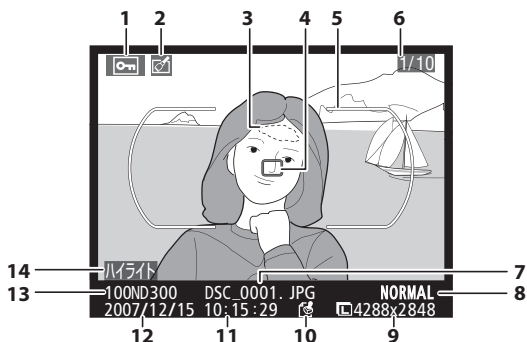
- 液晶モニターの点灯時間を変更する → c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（P.280）
- マルチセレクターの▲▼◀▶の機能を入れ換える → f3［**上下左右機能入れ換え**］（P.302）

画像情報を表示する

1コマ表示モードでは、マルチセレクターの▲または▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わり、画像についての詳しい情報を見ることができます。

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.250）で［**RGB ヒストグラム**］を設定している場合のみ表示。

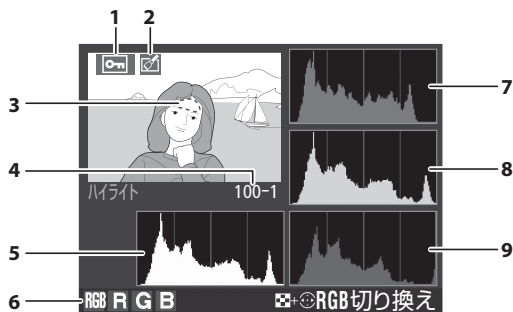
※2 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.250）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示。

※3 GPS（P.201）を使用して撮影した画像の場合のみ表示。

■標準表示

1	プロテクト設定の有無 221	7	ファイル名 260
2	画像編集の有無........................329	8	画質モード 56
3	画像のハイライト部分が点滅表示します※1 250	9	画像サイズ 60
4	フォーカスポイント※2 250	10	画像真正性検証情報の有無 324
5	AFエリアフレーム............43、84	11	撮影時刻 36
6	コマ番号/フォルダー内全画像数	12	撮影日付 36
		13	フォルダー名............................257
		14	ハイライト表示※1 250

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.250）で［**ハイライト**］を設定している場合のみ表示します。

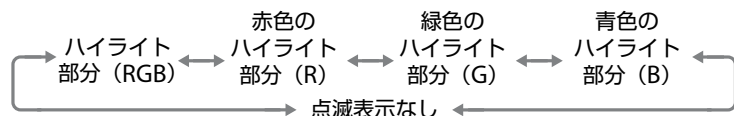
※2 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.250）で［**フォーカスポイント**］を設定している場合のみ表示します。

RGBヒストグラム※1

1	プロテクト設定の有無 221	6	ハイライト部分が点滅表示している色※2
2	画像編集の有無........................329	7	赤色（R）のヒストグラム
3	画像のハイライト部分が各色ごとに点滅表示します※2	8	緑色（G）のヒストグラム
4	フォルダー番号-コマ番号.......257	9	青色（B）のヒストグラム
5	RGBのヒストグラム		

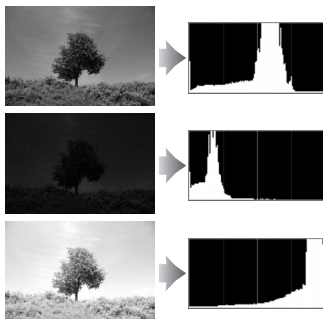
※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.250）で［**RGBヒストグラム**］を設定している場合のみ表示します。

※2 ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。

ハイライト部分（RGB） ↔ 赤色のハイライト部分（R） ↔ 緑色のハイライト部分（G） ↔ 青色のハイライト部分（B）

（両端 ↔ 点滅表示なし）

ヒストグラムについて

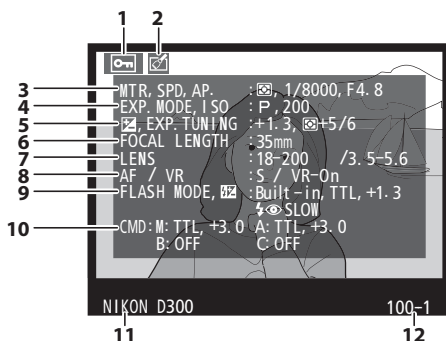
ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。

露出補正を＋側にすれば山が右側に寄り、－側にすれば山が左側に寄ります。

屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

D300のヒストグラム表示について

D300のヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてご使用ください。

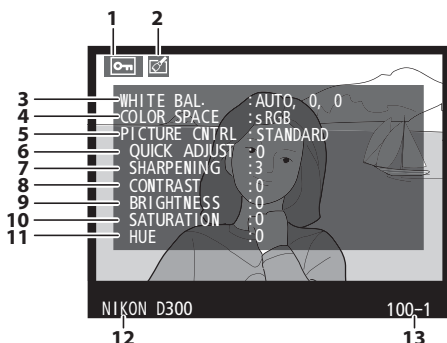
撮影情報1※1

1	プロテクト設定の有無 221
2	画像編集の有無........................329
3	測光モード...............................102 シャッタースピード.....108、111 絞り値 .... 109、111
4	露出モード...............................105 ISO感度※2 96
5	露出補正値...............................116 基準露出レベルの調節値※3 ...277
6	焦点距離..................................356
7	レンズ情報...............................198
8	フォーカスモード.....................62 レンズのVR（手ブレ補正）機能のON/OFF※4 35
9	フラッシュモード...................173 調光補正値 178
10	コマンダーモード/ 主灯（補助灯グループ名） 発光モード 調光補正量 293
11	カメラ名
12	フォルダー番号-コマ番号 257

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.250）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。

※2 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

※3 カスタムメニュー b6［**基準露出レベルの調節**］（P.277）を0以外に設定している場合のみ表示します。

※4 VRレンズ装着時のみ表示します。

▮▮撮影情報2※1

1	プロテクト設定の有無 221	7	輪郭強調 153
2	画像編集の有無........................329	8	コントラスト............................153
3	ホワイトバランス/ ホワイトバランス色温度 ホワイトバランス微調整 127	9	明るさ 153
4	色空間 169	10	色の濃さ（彩度）※4 ....153 フィルター効果※5 153
5	ピクチャーコントロール 150	11	色合い（色相）※4 ....153 調色※5 153
6	クイック調整※2 ....153 元になった ピクチャーコントロール※3 ...150	12	カメラ名
		13	フォルダー番号-コマ番号 257

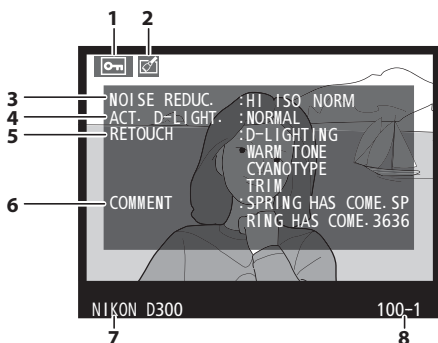
※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.250）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。

※2 ［**スタンダード**］、［**ビビッド**］のとき表示します。

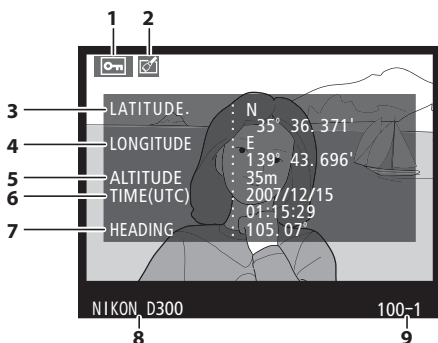
※3 ［**ニュートラル**］、［**モノクローム**］、カスタムピクチャーコントロールのとき表示します。

※4 ［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合、表示しません。

※5 ［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示します。

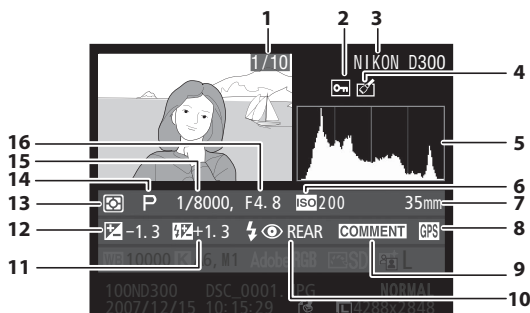
撮影情報3※

1	プロテクト設定の有無 221
2	画像編集の有無........................329
3	高感度ノイズ低減....................262 長秒時ノイズ低減....................262
4	アクティブD-ライティング....167
5	画像編集メニュー（P.329）で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。 複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
6	画像コメント............................317
7	カメラ名
8	フォルダー番号-コマ番号 257

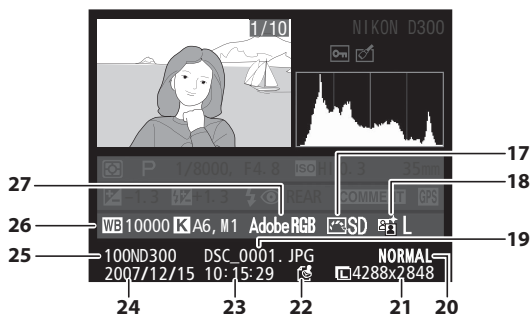
※再生メニューの［**再生画面設定**］(P.250) で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。

GPSデータ※1

1	プロテクト設定の有無 221	6	UTC（協定世界時）
2	画像編集の有無........................329	7	撮影方位※2
3	緯度	8	カメラ名
4	経度	9	フォルダー番号-コマ番号 257
5	標高		

※1 GPS（P.201）を使用して撮影した画像に対して表示します。

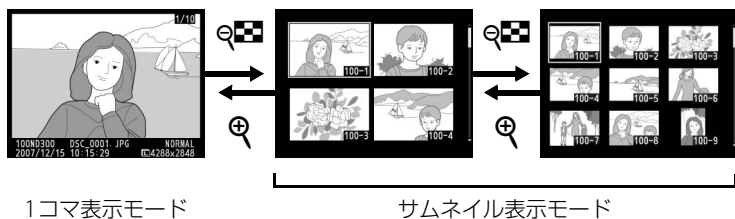
※2 電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ表示します。

統合表示

1	コマ番号/フォルダー内全画像数	
2	プロテクト設定の有無	221
3	カメラ名	
4	画像編集の有無	329
5	画像のヒストグラムを表示します。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を表します。	
6	ISO感度※	96
7	焦点距離	356
8	GPSデータの有無	201
9	画像コメントの有無	317
10	フラッシュモード	173
11	調光補正値	178
12	露出補正値	116
13	測光モード	102
14	露出モード	105
15	シャッタースピード	108、111
16	絞り値	109、111

※感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

17	ピクチャーコントロール 150	**23**	撮影時刻 36
18	アクティブD-ライティングの強度 168	**24**	撮影日付 36
19	ファイル名...............................260	**25**	フォルダー名...........................257
20	画質モード.................................56	**26**	ホワイトバランス/ ホワイトバランス色温度 ホワイトバランス微調整 127
21	画像サイズ.................................60	**27**	色空間 169
22	画像真正性検証情報の有無.....324		

複数の画像を一覧表示する
（サムネイル表示モード）

1コマ表示モードのときにボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。ボタンを押すたびに、4コマ表示、9コマ表示の順に切り替わります。

1コマ表示モード　　サムネイル表示モード

サムネイル表示モードでの操作方法

表示コマ数を増やす		1コマ表示時にボタンを押すと4 コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと9 コマ表示に切り替わります。
表示コマ数を減らす		9コマ表示時にボタンを押すと4 コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと1 コマ表示に切り替わります。
サムネイル表示と1コマ表示を切り換える		サムネイル表示で**中央**を押すと、1コマ表示画面に戻ります。もう一度**中央**を押すと、直前に表示していたコマ数でサムネイル表示します。
画像を選ぶ		マルチセレクターを操作すると、黄色の枠（カーソル）が動いて、拡大表示（P.220）や削除（P.222）の対象となる画像を選べます。
画像を削除する		選んだ画像を削除します（P.222）。
画像を保護する		選んだ画像にプロテクト（保護）を設定します（P.221）。
撮影に戻る	/	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（P.245）。

関連ページ

マルチセレクターの**中央**の機能を変更する → f1［**中央ボタンの機能**］（P.301）

画像を拡大表示する

画像の再生中に🔍ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズがＬの場合は約27倍、Ｍでは約20 倍、Sでは約13 倍です。

拡大表示中の操作方法

操作	ボタン	説明	
拡大率を上げる	🔍	ボタンを押すごとに拡大率が上がります。	拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下に画像全体が縮小表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えます。
拡大率を下げる		ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）させる		画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
前後の画像を見る		メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の画像を表示します。	
画像を保護する		表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（P.221）。	
撮影に戻る	/ ▶	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。	
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（P.245）。	

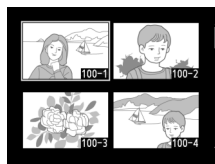
画像を保護する
（プロテクト）

大切な画像を誤って削除してしまうことを防ぐために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、メモリーカードを初期化（フォーマット：P.41、313）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

1 プロテクトする画像を選ぶ

【1コマ表示モード/拡大表示のとき】
プロテクトする画像を表示します。

【サムネイル表示モードのとき】
プロテクトする画像をマルチセレクターで選びます。

2 O-nボタンを押す

- O-nアイコン が表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、O-nボタンを押します。

プロテクトの一括解除について

O-nボタンと削除ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像を削除する

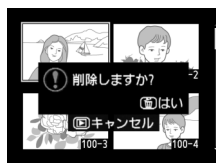
メモリーカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクトを設定した画像は削除できません。

1 削除する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、削除する画像を表示します。
- サムネイル表示モードのときは、削除する画像を選択します。

2 🗑ボタンを押す

- 削除確認の画面が表示されます。

1コマ表示モード

サムネイル表示モード

- 再度🗑ボタンを押すと、表示中の画像が削除されます。

- ▶ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。

関連ページ

複数の画像をまとめて削除する → ▶［**削除**］（P.248）

画像の削除後に表示される画像を変更する → ▶［**削除後の次再生画像**］（P.251）

パソコン、プリンター、テレビとの接続

ここでは、D300で撮影した画像をパソコンに転送したり、プリンターでプリントしたり、テレビで再生する方法について説明します。

画像をパソコンに転送する

D300では、付属のUSBケーブルUC-E4をカメラに接続して、撮影した画像をパソコンに転送できます。ここでは、USBケーブルを使って、付属のソフトウェアNikon Transferや別売のCamera Control Pro 2を使うときにカメラ側で必要な操作について説明します。

- 最初に付属のインストールガイドをよくお読みになり、必要なソフトウェアをインストールしてください。ソフトウェアの動作環境については、ソフトウェアのヘルプなどでご確認ください。
- カメラとパソコンを接続するときは、フル充電されたバッテリーまたは別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5をお使いになることをおすすめします。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

別売のCamera Control Pro 2について

別売のCamera Control Pro 2（P.367）で、パソコンからカメラをコントロールできます。Camera Control Pro 2を使用してカメラをパソコンからコントロールするときは、[**USB設定**]（P.225）を[**MTP/PTP**] にしてからパソコンと接続してください。Camera Control Pro 2を起動すると、表示パネルの記録可能コマ数表示部に、PCが表示されます。

カメラをパソコンに接続する前に

付属のUSBケーブルを使って接続する場合、パソコンのOS（オペレーティングシステム）に合わせて、USB通信方式を設定します。次の表を参考にして、セットアップメニューの［**USB設定**］（P.319）で設定してください。初期設定は、［**MTP/PTP**］です。

OS※	USB通信方式	
	Nikon Transfer	Camera Control Pro 2
32bit版のWindows Vista（Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate） Windows XP（Home Edition/ Professional）	［**MTP/PTP**］または［**Mass Storage**］	［**MTP/PTP**］
Mac OS X（Version 10.3.9、10.4.10）	［**MTP/PTP**］または［**Mass Storage**］	［**MTP/PTP**］
Windows 2000 Professional	［**Mass Storage**］	［**MTP/PTP**］

※対応OSに関する最新情報は、カスタマーサポート（P.xxiv）のホームページのサポート情報でご確認ください。

Windows 2000 Professionalをお使いの場合のご注意

Windows 2000 ProfessionalでNikon Transferをお使いになるときは、必ず［**USB設定**］を［**Mass Storage**］にしてください。

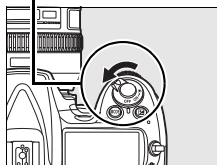
- ［**MTP/PTP**］で接続した場合は、「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」というダイアログが表示されます。「キャンセル（中止）」を選んでダイアログを閉じてから、カメラとパソコンの接続を外してください。［**Mass Storage**］に変更してから、再接続してください。

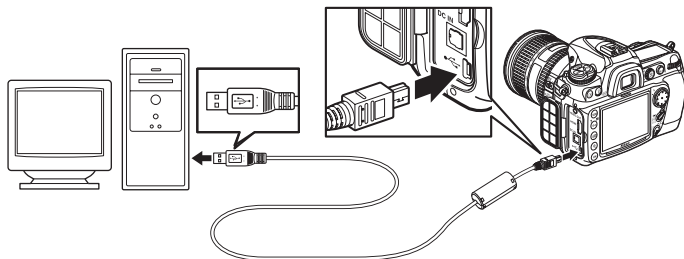
USB接続でパソコンに接続する

付属のUSBケーブルUC-E4を使ってカメラとパソコンを接続します。カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。

1 セットアップメニューの［USB設定］（P.225）でUSB通信方式を設定する

- カメラとパソコンを接続する前に、使用するソフトウェアや接続するパソコンのOSに合わせてUSB通信方式を選択します。

2 カメラの電源をOFFにする

3 パソコンを起動する

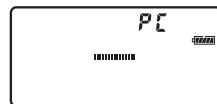
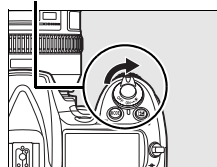
4 カメラとパソコンを接続する

USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

5 カメラの電源をONにする

電源スイッチ

- ［**USB設定**］（P.225）が［**Mass Storage**］の場合は、正しく接続されるとファインダー内表示にPCが表示され、表示パネルでPC接続中インジケーターが点滅します（［**MTP/PTP**］の場合、パソコンと接続しても表示は変化しません）。

PC

6 画像を転送する

- Nikon Transferの使い方については、Nikon Transferのヘルプ をご覧ください。
- ヘルプは、Nikon Transferを起動し、メニューバーの［**ヘルプ**］メニューから［**Nikon Transferヘルプ**］を選んで表示してください。

7 パソコンとカメラの通信を終了する

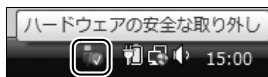
●USB通信方式が［MTP/PTP］の場合:

カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜いてください。

●USB通信方式が［Mass Storage］の場合:

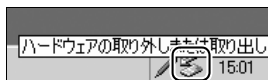
USBケーブルを外したり、カメラの電源をOFFにする前に必ず次の操作を行ってください。

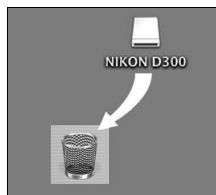
- **Windows Vista:**

パソコン画面右下の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコンをクリックして［**USB大容量記憶装置 - ドライブ（E:）※を安全に取り外します**］を選んでください。

- **Windows XP:**

パソコン画面右下の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコンをクリックして［**USB大容量記憶装置デバイス - ドライブ（E:）※を安全に取り外します。**］を選んでください。

- **Windows 2000 Professional:**

パソコン画面右下の［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］アイコンをクリックして［**USB大容量記憶装置デバイス - ドライブ（E:）※を停止します**］を選んでください。

- **Mac OS X:**

デスクトップ上の［NIKON D300］のアイコンをごみ箱に捨ててください。

※［ドライブ（E:）］の「E」は、ご使用のパソコンによって異なります。

ワイヤレストランスミッター WT-4を使って無線でパソコンに接続する

別売のワイヤレストランスミッター WT-4をカメラと接続して使うことにより、画像の転送や印刷を無線で行えます。また、イーサネットケーブルを接続することにより、有線でも同様の操作が可能です。

WT-4には次の4つの機能があります。

画像送信	メモリーカードに記録した画像や、撮影直後の画像をパソコンやFTPサーバーに保存できます。
サムネイルセレクトモード	撮影した画像をパソコン画面で確認しながら、必要な画像だけを選んでパソコンに保存できます。
PCモード	別売のCamera Control Pro 2で、カメラをコントロールしたり、撮影した画像をパソコンに保存できます。
プリンター接続	メモリーカード内のJPEG画像を送信して、パソコンに接続しているプリンターでプリントできます。

WT-4の使用方法などについては、WT-4の使用説明書をご覧ください。

✔ WT-4接続時のUSB通信方式について

ワイヤレストランスミッター WT-4を使用するときは、セットアップメニューの［**USB設定**］（P.225）を［**MTP/PTP**］に設定してください。

✔ WT-4使用時の画像編集メニューの制限について

画像送信モードでWT-4を使用するときは、画像再生時にⓀボタンを押す操作で選択画像を転送できます（WT-4を接続していないときは、転送設定のみを行います）。このため、［**編集前後の画像表示**］（P.342）など、画像再生時にⓀボタンを押して操作する画像編集メニュー（P.330）は使えなくなります。［**編集前後の画像表示**］を使うには、セットアップメニューの［**ワイヤレストランスミッター**］の［**接続モード**］を［**画像送信**］以外に設定してください。

画像をプリンターで印刷する

カメラで撮影した画像をプリント（印刷）します。画像をプリントするには、次のような方法があります。

a **カメラとプリンターを直接つないでプリントする（ダイレクトプリント）****...P.231**

b **メモリーカードをプリンターのカードスロットに挿入してプリントする**

プリンターの使用説明書をご覧ください。

DPOF（P.413）対応プリンターをお使いの場合は、事前にプリント指定（P.240）を行い、指定通りにプリントできます。

c **メモリーカードをプリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼する**

事前にプリント指定（P.240）を行ってから、DPOF対応のプリントサービス取扱店にお持ち込みください。

d **別売のワイヤレストランスミッター WT-4を使ってワイヤレスプリントする**

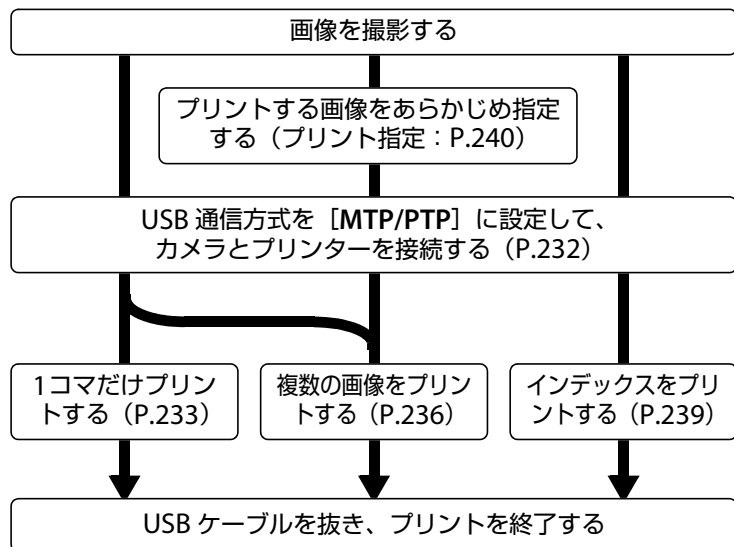
別売のワイヤレストランスミッター WT-4の使用説明書をご覧ください。

e **カメラの画像をパソコンに転送してからプリントする****......P.224**

画像の転送方法については「画像をパソコンに転送する」（P.224）をご覧ください。パソコンでのプリント方法はお使いになるソフトウェアのヘルプやプリンターの使用説明書をご覧ください。

- RAW画像およびTIFF画像は **e** の方法でパソコンに転送してから、付属のViewNXや別売のCapture NX（P.367）などのソフトウェアを使って、プリントしてください（**a**～**d**の方法では、RAW画像（P.56）はプリントできません。また、**a**、**b**、**d**の方法ではTIFF画像をプリントできません。**c**の方法でTIFF画像をプリントする場合は、ご利用のプリントサービス店でTIFF画像をプリントできるかあらかじめご確認ください）。

カメラとプリンターを直接つないでプリントする（ダイレクトプリント）

PictBridge（ピクトブリッジ：P.413）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接接続してメモリーカード内の画像をプリントできます。これを「ダイレクトプリント」といいます。ダイレクトプリントは、次の手順で行います。

次のページから、それぞれの手順について詳しく説明します。

ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5をお使いになることをおすすめします。
- 直接プリントする画像は、撮影メニューの［**色空間**］を［**sRGB**］に設定して撮影してください（P.169）。

USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

■USB通信方式を［MTP/PTP］に設定して、カメラとプリンターを接続する

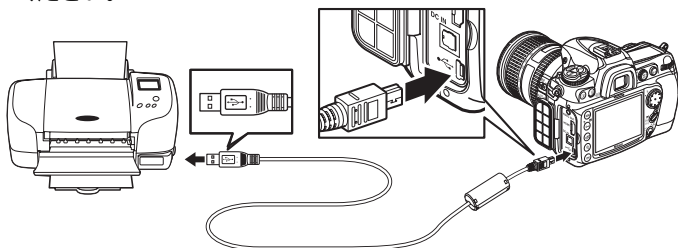
付属のUSBケーブルUC-E4を使ってカメラとプリンターを接続します。

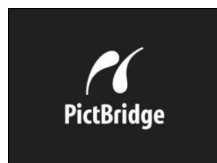
1　セットアップメニューの［USB設定］（P.225）を［MTP/PTP］に設定する

- 初期設定は［**MTP/PTP**］です。

2　カメラの電源をOFFにしてからプリンターの電源をONにする

3　カメラとプリンターを接続する

- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。

4　カメラの電源をONにする

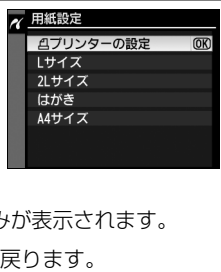
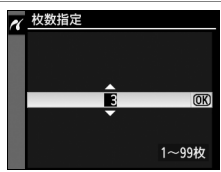
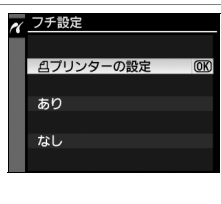
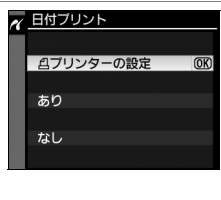
- 正しく接続されると、液晶モニターに①の画面が表示された後、②の画面が表示されます。

▌1コマだけプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（P.232）、次の手順でプリントしてください。

1 プリントしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターの◀または▶を押してプリントしたい画像を選びます。
- ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- を押すと、表示中の画像を拡大表示します（P.220）。▶ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

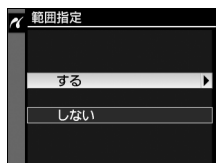
2 プリント設定画面を表示する

- ボタンを押すとプリント設定画面が表示されます。

ボタン

3 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押して、プリントする用紙のサイズを選びます。 ［**プリンターの設定**］、［**Lサイズ**］、［**2Lサイズ**］、［**はがき**］、［**100×150 mm**］、［**4×6 in.**］、［**203 × 254 mm**］、［**Letter**］、［**A3サイズ**］、［**A4サイズ**］のうち、プリンターが対応するサイズのみが表示されます。 Ⓚボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。
枚数指定	▼または▲を押して、プリントする枚数（1～99枚）を設定します。Ⓚボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。
フチ設定	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（フチありプリント）または［**なし**］（フチなしプリント）を選びます。 Ⓚボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。
日付プリント	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（日付を印刷する）または［**なし**］（日付を印刷しない）を選びます。 Ⓚボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

範囲指定	プリント範囲を指定します。 ［**する**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。 右のような画面が表示されます。 黄色の枠は、プリントされる範囲を示しています。 • ボタンを押すと枠が小さく（プリント範囲が狭く）なり、ボタンを押すと枠が大きく（プリント範囲が広く）なります。 • マルチセレクターを操作すると、プリント範囲が移動します。 • ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

4 プリントを開始する

- ［**プリント実行**］を選んで、ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度ボタンを押してください。

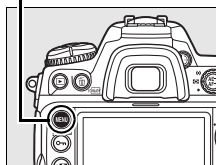
プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

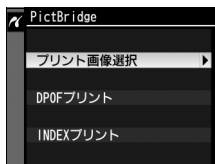
［**用紙設定**］、［**フチ設定**］、［**日付プリント**］の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に［**プリンターの設定**］を選んでください。

■複数の画像をプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（P.232）、次の手順でプリントしてください。

1 右の画面でMENUボタンを押す

MENUボタン

2 ［プリント画像選択］または［DPOFプリント］を選ぶ

- ［**プリント画像選択**］または［**DPOFプリント**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。
- 事前に再生メニューの［**プリント指定（DPOF)**］（P.240）を行った場合、［**DPOFプリント**］を選ぶと、手順3の画面にプリント指定で設定したプリント枚数が反映されます。

3 プリントする画像と枚数を設定する

O┳ボタン

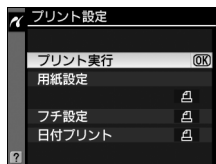
- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、O┳ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。

- プリントされる画像には、プリントアイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、プリントアイコンが消え、その画像はプリントされません。

- 拡大ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。

- 画像と枚数を設定したら、OKボタンを押します。

4 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押して、プリントする用紙のサイズを選びます。 ㊙ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。表示される用紙サイズはプリンターによって異なります（P.234）。
フチ設定	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（フチありプリント）、［**なし**］（フチなしプリント）を選びます。㊙ボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。
日付プリント	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（日付を印刷する）、［**なし**］（日付を印刷しない）を選びます。㊙ボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。

5 プリントを開始する

- ［**プリント実行**］を選んで㊙ボタンを押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを中断したいときは、もう一度㊙ボタンを押してください。

✔ ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像およびTIFF画像（P.56）はダイレクトプリントできません。
- ［**フチ設定**］と［**範囲指定**］は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選べません。なお、［**範囲指定**］で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

関連ページ

プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」（P.394）をご覧ください。

■INDEX（インデックス）プリントする

メモリーカード内の全てのJPEG画像（P.56）が一覧できる「インデックス」をプリントできます。

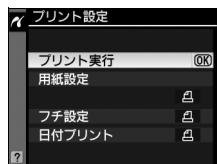
1 **［PictBridge］画面（P.236）で［INDEXプリント］を選ぶ**

- ［**INDEXプリント**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［INDEXプリント］画面が表示されます。

2 **プリント設定画面を表示する**

- OKボタンを押すと、プリント設定画面が表示されます。

3 **プリント設定の項目を設定する**

- 「複数の画像をプリントする」（P.238）の手順4と同様に、プリント設定の項目を設定してから、プリントしてください。
- 用紙サイズによっては、インデックスプリントができない場合があります（警告画面が表示されます）。
- インデックスプリントできるのは256コマまでです。メモリーカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

▮プリントしたい画像を指定する（プリント指定）

メモリーカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき（P.231）に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。プリント指定の方法は次の通りです。

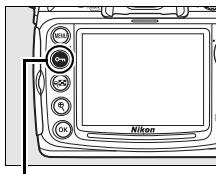
1 再生メニューの［プリント指定（DPOF)］で［設定］を選ぶ

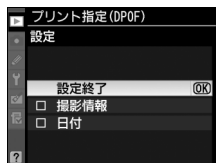
- ［**設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、プリント画像の選択画面が表示されます。

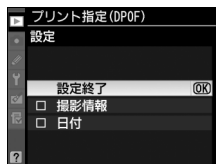
2 プリントする画像と枚数を設定する

Oπボタン

- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、Oπボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。
- 設定した画像には、🖨アイコンとプリント枚数が表示されます。
- 枚数を0にすると🖨アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- ⊕ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。
- 画像と枚数を設定したら、Ⓚボタンを押します。

- **MENU**ボタンを押すと、画像選択を中止して、再生メニューに戻ります。

3 プリント指定の項目を設定する

- 撮影情報や日付を画像に写し込まない場合は、そのまま［**設定終了**］を選んでⓄⓀボタンを押してください。
- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、［**撮影情報**］または［**日付**］を選んで▶を押して☐に✔を入れてください。

4 プリント指定を終了する

- ［**設定終了**］を選んで、ⓄⓀボタンを押します。

✔ プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、［**プリント指定（DPOF)**］の［**撮影情報**］、［**日付**］の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの［**日付プリント**］を［**あり**］にしてください。
- メモリーカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像（P.56）は、プリント指定ができません。
- プリント指定を行ったメモリーカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

画像をテレビで見る

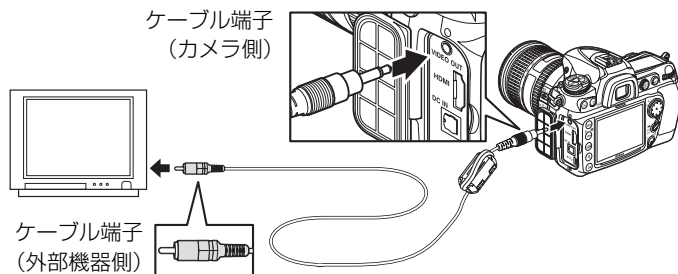
カメラをテレビやビデオなどに接続して、撮影した画像をテレビ画面に表示したり、ビデオデッキで録画したりできます。接続には付属の専用ビデオケーブルEG-D100（以下、ビデオケーブル）を使う方法と、市販のHDMIケーブル（Type A）を使う方法の2種類があります。

ビデオケーブルを使ってテレビと接続する

カメラをテレビやビデオデッキに接続する手順を説明します。
接続には付属のビデオケーブルをご使用ください。

1 カメラの電源をOFFにする

- ビデオケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 カメラとテレビを接続する

3 テレビの入力をビデオ入力に切り換える

4 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- カメラをテレビに接続している間、液晶モニターは点灯します。

画像がテレビに映らないとき

ビデオケーブルでカメラとテレビを正しくつないでも、画像がテレビに映らないときは、セットアップメニューの［**ビデオ出力**］（P.314）がお使いのテレビに合っているかを確認してください。

テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のAC アダプター EH-5aまたはEH-5をお使いになることをおすすめします。ACアダプター接続中は、液晶モニターのパワーオフ設定は10 分に固定されます。

スライドショー

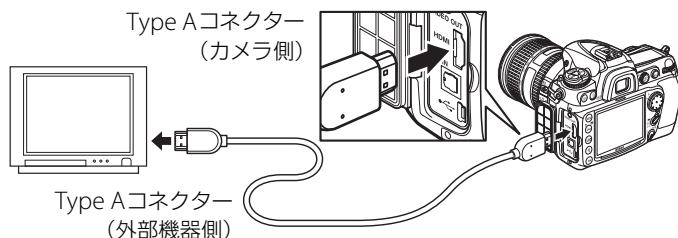
再生メニューの［**スライドショー**］（P.252）では、撮影した画像を1コマずつ連続再生できます。

HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビやビデオデッキと接続することができます。接続には市販のHDMI (Type A) ケーブルが必要です。別途お買い求めください。

1 カメラの電源をOFFにする

- HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 カメラとハイビジョンテレビを接続する

3 テレビの入力をHDMI入力に切り換える

4 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- カメラをテレビに接続している間、液晶モニターは消灯します。

HDMIについて

HDMIの初期設定は［**オート**］です。接続先のHDMI機器に合わせて自動で映像信号形式を設定します。セットアップメニューの［**HDMI**］（P.315）では、手動で設定することもできます。

メニューガイド

ここでは、カメラの各種設定を変更できる各メニューについて説明します。

▶ 再生メニュー：

再生で使える便利な機能

再生メニューには、次の項目があります。

• メニューの操作方法についてはP.24をご覧ください。

メニュー項目	ページ
削除	P.248
再生フォルダー設定	P.249
非表示設定	P.249
再生画面設定	P.250
撮影直後の画像確認	P.251
削除後の次再生画像	P.251
縦位置自動回転	P.251
スライドショー	P.252
プリント指定（DPOF）	P.240

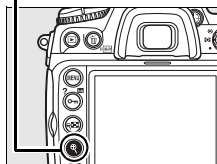
画像選択方法

再生メニューでの画像の削除（P.248）、非表示設定（P.249）、プリント指定（DPOF）（P.240）、ダイレクトプリント（P.236）などを行うときの画像の選択方法は次の通りです。

1 画像を選ぶ

- マルチセレクターを▲▼◀▶、ななめ方向に押して画像を選びます。

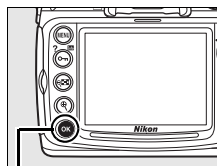
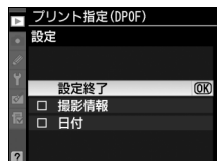
- ⊕ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。⊕ボタンを放すと元に戻ります。

⊕ボタン

2 設定する

- マルチセレクターの**中央**を押して設定します、設定するとアイコンが表示されます。
- プリント関連の設定の場合は、O┳ボタンを押しながらマルチセレクターの▲または▼を押すと、プリント枚数を設定できます。プリント枚数はアイコンの横に表示されます。

3 必要に応じて手順1～2を繰り返す

4 設定を完了する

- ㊚ボタンを押して、設定を終了します。

㊚ボタン

削除

複数の画像を一括して削除できます。

選択画像削除	選択した画像を削除します。
全画像削除	［**再生フォルダー設定**］（P.249）で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。

削除についてのご注意

プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。

再生フォルダー設定

画像はメモリーカード内のフォルダーに保存されます。

再生する画像のフォルダーを設定します。

ND300 （初期設定）	D300で作成された全てのフォルダー内の画像を再生します。
全てのフォルダー	メモリーカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

非表示設定

非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。

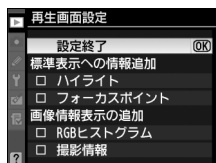
設定	非表示設定を画像ごとに設定します。
一括解除	非表示設定を一括で解除します。

☑ 非表示設定についてのご注意

プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

再生画面設定

画像情報（P.208）に、ハイライト表示やフォーカスポイント表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報を追加できます。

次の項目から、画像情報に表示したい項目を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。表示したい全ての項目に✔を入れてから、［**設定終了**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、設定を完了します。

標準表示への情報追加		
	ハイライト	標準表示にハイライトの情報を追加します。画像の中の非常に明るい部分を点滅表示します。
	フォーカスポイント	• フォーカスモードが**S**の場合、最初にロックしたフォーカスポイントを赤く表示します。 • フォーカスモードが**C**で、AFエリアモード（P.64）がシングルポイントAFおよびダイナミックAFモードの場合は、ピントが合ったときフォーカスポイントを赤く表示し、ピントが合っていないときは表示しません。 • フォーカスモードが**C**でオートエリアAFモードの場合は表示しません。
画像情報表示の追加		
	RGB ヒストグラム	画像情報表示にRGBおよび色別（赤、緑、青）のヒストグラム表示画面を追加します。
	撮影情報	画像情報表示にカメラ名、測光、露出、焦点距離、ホワイトバランス、画像の調整など、詳細な撮影情報画面を追加します。

撮影直後の画像確認

撮影直後に画像を自動的に表示することができます。

する	撮影直後に画像を表示します。
しない（初期設定）	画像を自動表示しません。撮影画像を確認するには▶ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

後ろのコマ（初期設定）	削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
前のコマ	削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
直前コマ送り方向に従う	• 直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、［**後ろのコマ**］と同じ動作になります。 • 直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、［**前のコマ**］と同じ動作になります。

縦位置自動回転

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示することができます。

する	縦位置で撮影した画像を自動的に縦位置で表示します。
しない（初期設定）	縦位置で撮影した画像でも、全て横位置で表示します。

☑ 縦位置自動回転についてのご注意

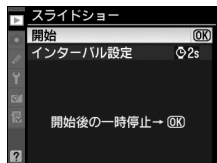
［**する**］にしたときも、セットアップメニューの［**縦横位置情報の記録**］（P.318）を［**しない**］にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。

スライドショー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。［**再生フォルダー設定**］（P.249）で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、［**非表示設定**］（P.249）されている画像は再生されません。

開始	スライドショーを開始します。
インターバル設定	1コマの画像を表示する時間を設定します。

■スライドショーを再生する

［**開始**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。

1コマ進む/戻る	◀ ▶	◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の切り換え	▲ ▼	画像情報の切り換えができます（P.208）。
一時停止	OK	スライドショーが一時停止します。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶	スライドショーを中止して、1コマ表示モード（P.206）またはサムネイル表示モード（P.218）に戻ります。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

再生が終わると、右のような画面が表示されます。[**再開**] を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが再開します。[**終了**] を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが終了します。

OKボタンを押して一時停止したときも同様にスライドショーを再開できます。この場合、一時停止時に表示していた次の画像から再開します。

プリント指定（DPOF）

プリントする画像や枚数など、あらかじめカメラで設定できます。設定方法については、「プリントしたい画像を指定する」（P.240）をご覧ください。

- [**一括解除**] を選ぶと、プリント指定（DPOF）で設定した内容を全て解除します。

撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

撮影メニューには、次の項目があります。

- メニューの操作方法についてはP.24をご覧ください。

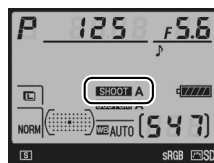
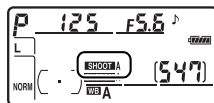
メニュー項目	ページ
撮影メニュー切り換え	P.255
撮影メニューのリセット	P.257
記録フォルダー設定	P.257
ファイル名設定	P.260
画質モード	P.56
画像サイズ	P.60
JPEG圧縮	P.58
RAW記録	P.58
ホワイトバランス	P.128
ピクチャーコントロール	P.148
カスタムピクチャーコントロール	P.156
色空間	P.169
アクティブD-ライティング	P.167
長秒時ノイズ低減	P.262
高感度ノイズ低減	P.262
ISO感度設定	P.96
ライブビュー	P.80
多重露出	P.186
インターバルタイマー撮影	P.191

撮影メニュー切り換え

それぞれの撮影メニューで設定した内容は、「A」、「B」、「C」、「D」の4種類に記憶でき、他の撮影メニューには反映されません。ただし、[**多重露出**]、[**インターバルタイマー撮影**]での設定は、全ての撮影メニューで共通になります。

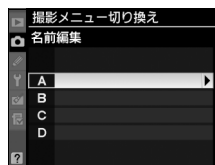
「A」～「D」には、[**名前編集**]でそれぞれ最長20文字の名前を付けられます。[**名前編集**]で編集した名前は、[撮影メニュー切り換え]画面に表示されます。

撮影メニュー設定表示について

表示パネルと情報画面には、SHOOTと撮影メニュー名（「A」～「D」）が表示されます。

名前編集

[撮影メニュー切り換え]画面から[**名前編集**]を選んで、マルチセレクターの▶を押すと、メニュー「A」～「D」の名前が一覧で表示されます。

1 名前を変更する項目を選ぶ

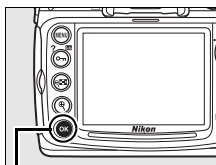
- 名前を変更する項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、[名前編集]画面が表示されます。

2 名前を入力する

- 20文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、マルチセレクターの**中央**を押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押します。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 名前を1文字削除する場合は、ボタンを押しながらマルチセレクターを操作して削除する文字の上にカーソルを移動させ、ボタンを押します。
- 名前を変更しない場合は、MENUボタンを押すと撮影メニューに戻ります。

3 名前の編集を終了する

- 名前を入力し終えたら㊊ボタンを押します。

㊊ボタン

- 編集した名前が反映され、撮影メニュー名の一覧表示画面に戻ります。

撮影メニューのリセット

撮影メニューをリセットします。

する	現在選択している撮影メニュー（「A」～「D」）の設定内容が初期設定に戻ります。
しない（初期設定）	設定をリセットしません。

ツーボタンリセットによる初期設定

画質モード、画像サイズ、ホワイトバランス、ISO 感度は、ツーボタンリセット（P.184）で初期設定に戻ります。

関連ページ

「初期設定一覧」（P.398）

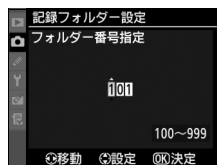
記録フォルダー設定

記録フォルダーの新規作成や既存フォルダーからの選択を行います。新規作成の場合は［**フォルダー番号指定**］でフォルダー番号を設定します。既存フォルダーから選択する場合は［**既存フォルダーから選択**］を選びます。

フォルダー番号指定

フォルダーを新規に作成します。

1 ［フォルダー番号指定］を選ぶ

- ［**フォルダー番号指定**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［フォルダー番号指定］画面が表示されます。

2 フォルダー番号の桁を選ぶ

- ◀または▶を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。

3 フォルダー番号を変更する

- ▲または▼を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

4 フォルダー番号を設定する

- ⓀボタンをKすと、新規フォルダーを作成して撮影メニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、作成した新規フォルダーに保存します。
- 作成済みのフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク（□、□、□）が表示されます。
  この場合、Ⓚボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定して撮影メニューに戻ります。
- キャンセルしたい場合は、MENUボタンを押すと撮影メニューに戻ります。

フォルダーマークについて

［フォルダー番号指定］画面では、フォルダー番号の左に、画像の入っていないフォルダーのときは□、フォルダー内のファイル数が999個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは□、その他のフォルダーのときは□のフォルダーマークが表示されます。□が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

■既存フォルダーから選択

既存のフォルダーから選択します。

1 ［既存フォルダーから選択］を選ぶ

- ［**既存フォルダーから選択**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［既存フォルダーから選択］画面が表示されます。

2 フォルダーを選ぶ

- ▲または▼を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

- Ⓚボタンを押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存します。

フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

フォルダー番号が999に達しているときに、ファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達した場合は、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。ただし、次の場合、メモリーカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。

- フォルダー番号が999以下で、その内のファイル数が999に達していないフォルダーを記録フォルダーとして選んだ場合
- フォルダー番号が 999 以下のフォルダーを新規に作成でき、それを記録フォルダーとして選んだ場合

大容量のメモリーカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているメモリーカードを使用する場合、メモリーカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。［**ファイル名設定**］では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。ファイル名の設定方法は、「撮影メニュー切り換え」の「名前編集」をご覧ください（P.256）。

ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
  - NEF：RAWの場合
  - TIF：TIFF(RGB)の場合
  - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
  - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 撮影メニューの［**色空間**］で［**Adobe RGB**］（P.169）を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

画質モード

画像を記録する際の画質モードを選択できます（P.56）。

画像サイズ

記録する際の画像サイズ（大きさ）を設定できます（P.60）。

JPEG圧縮

JPEG画像記録時にファイルサイズを優先するか、画質を優先するかどうかの圧縮方式を設定できます（P.58）。

RAW記録

RAW画像の記録方式と記録ビットモードを設定できます（P.58）。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを設定できます（P.128）。

ピクチャーコントロール

撮影する画像の仕上がりを簡単に設定できます（P.148）。

カスタムピクチャーコントロール

ピクチャーコントロールの設定を自由に編集して登録できます。また、メモリーカードに保存されているピクチャーコントロールの設定をカメラに登録することや、カメラで編集した設定をメモリーカードにコピーすることができます（P.156）。

色空間

色空間を［**sRGB**］または［**Adobe RGB**］から選べます（P.169）。

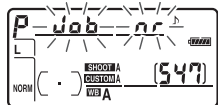
アクティブD-ライティング

撮影時にハイライトの白とびや、暗部の黒つぶれを軽減する機能です（P.167）。効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］の3段階に調整できます。初期設定は［**しない**］です。

長秒時ノイズ低減

低速シャッタースピードになったときに発生する「長秒時ノイズ」を低減します。

する	シャッタースピードが8秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない （初期設定）	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルとファインダー内表示にJob nrが表示されます。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理には、撮影時のシャッタースピードとほぼ同等の時間がかかります。

長秒時ノイズ低減についてのご注意

- 連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- ノイズ低減処理中に電源をOFFにすると、処理は行われません。

高感度ノイズ低減

高感度で撮影したときに発生する「ノイズ」を低減します。

HIGH 強め	ISO感度が800以上の高感度になると、高感度ノイズの低減処理が行われます。 ノイズ低減の効果は、強い順に[**強め**]、[**標準**]、[**弱め**]になります。
NORM 標準 （初期設定）	
LOW 弱め	
しない	高感度ノイズ低減処理を行いません。ただし、ISO感度がHI 0.3以上の高感度になったときは、常にノイズ低減処理が行われます。この場合のノイズ低減効果は[**弱め**]よりもさらに弱くなります。

ISO感度設定

ISO感度と感度自動制御を設定します（P.96、98）。

ライブビュー

レリーズモードをライブビュー撮影モードにすると、液晶モニターで被写体を見ながら撮影できます。状況に合わせて撮影方法を設定する［**ライブビューモード**］と、1コマ撮影か連続撮影かを設定する［**レリーズモード**］を設定します（P.80）。

多重露出

2～10コマまで連続して撮影した画像を重ねて、1コマの画像として記録します（P.186）。

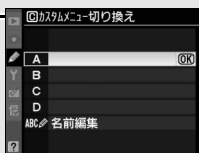
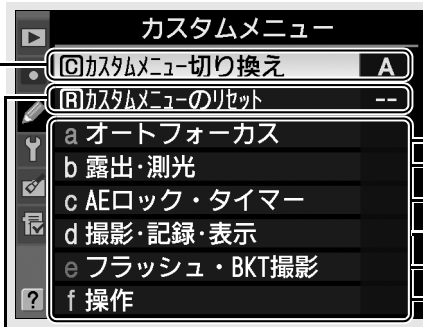
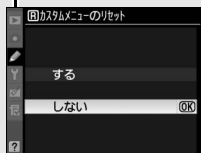
インターバルタイマー撮影

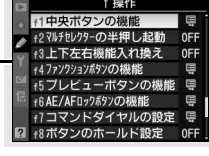
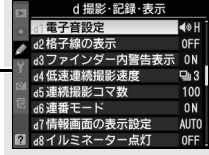
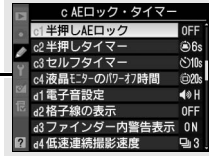
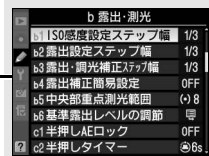
設定したコマ数と撮影間隔で自動的に撮影できます。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です（P.191）。

カスタムメニュー：

撮影に関するさらに詳細な設定

カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。

カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

Ⓒ：カスタムメニュー切り換え（P.266）

Ⓡ：カスタムメニューのリセット（P.266）

カスタムメニューでは、次のカスタムメニュー項目が表示されます。項目を選んで▶を押すと、選んだカスタムメニュー項目の設定画面が表示されます。

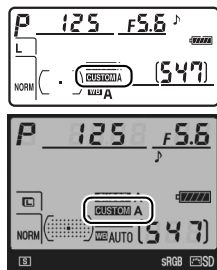
項目	ページ
Ⓒカスタムメニュー切り換え	P.266
Ⓡカスタムメニューのリセット	P.266
a オートフォーカス	
a1 AF-Cモード時の優先	P.267
a2 AF-Sモード時の優先	P.268
a3 ダイナミックAFエリア	P.269
a4 AFロックオン	P.271
a5 半押しAFレンズ駆動	P.271
a6 フォーカスポイント照明	P.271
a7 フォーカスポイント循環選択	P.272
a8 AF点数切り換え	P.272
a9 内蔵AF補助光の照射設定	P.273
a10 MB-D10のAF-ONボタン機能	P.274
b 露出・測光	
b1 ISO感度設定ステップ幅	P.275
b2 露出設定ステップ幅	P.275
b3 露出・調光補正ステップ幅	P.275
b4 露出補正簡易設定	P.276
b5 中央部重点測光範囲	P.277
b6 基準露出レベルの調節	P.277
c AEロック・タイマー	
c1 半押しAEロック	P.279
c2 半押しタイマー	P.279
c3 セルフタイマー	P.280
c4 液晶モニターのパワーオフ時間	P.280
d 撮影・記録・表示	
d1 電子音設定	P.281
d2 格子線の表示	P.281
d3 ファインダー内警告表示	P.282
d4 低速連続撮影速度	P.282
d5 連続撮影コマ数	P.282
d6 連番モード	P.283
d7 情報画面の表示設定	P.284
d8 イルミネーター点灯	P.285
d9 露出ディレーモード	P.285
d10 MB-D10電池設定	P.285
d11 電池の使用順序	P.287
e フラッシュ・BKT撮影	
e1 フラッシュ撮影同調速度	P.288
e2 フラッシュ時シャッタースピード制限	P.291
e3 内蔵フラッシュ発光	P.291
e4 モデリング発光	P.298
e5 オートブラケティングのセット	P.298
e6 BKT変化要素(Mモード)	P.299
e7 BKTの順序	P.300
f 操作	
f1 中央ボタンの機能	P.301
f2 マルチセレクターの半押し起動	P.302
f3 上下左右機能入れ換え	P.302
f4 ファンクションボタンの機能	P.303
f5 プレビューボタンの機能	P.306
f6 AE/AF ロックボタンの機能	P.306
f7 コマンドダイヤルの設定	P.307
f8 ボタンのホールド設定	P.310
f9 カードなし時レリーズ	P.310
f10 インジケーター表示の＋/－方向	P.311

C：カスタムメニュー切り換え

それぞれのカスタムメニューで設定した内容は、「A」、「B」、「C」、「D」の4種類に記憶でき、他のカスタムメニューには反映されません。

「A」～「D」には、［**名前編集**］でそれぞれ最長20文字の名前を付けることができます。編集した名前は、［カスタムメニュー切り換え］画面に表示されます。名前の編集方法については、撮影メニューの「撮影メニュー切り換え」の「名前編集」（P.255）をご覧ください。

カスタムメニュー設定表示について

設定内容が初期設定と異なる場合、変更された項目の左上にアスタリスク（*）を表示します。また、表示パネルと情報画面には、CUSTOMとカスタムメニュー名（「A」～「D」）を表示します。

R：カスタムメニューのリセット

カスタムメニューをリセットします。

する	現在選択しているカスタムメニュー（「A」～「D」）の設定内容を初期設定に戻します。
しない （初期設定）	設定をリセットしません。

- カスタムメニューは、ツーボタンリセットではリセットできません。

関連ページ

「初期設定一覧」（P.399）

a1：AF-Cモード時の優先

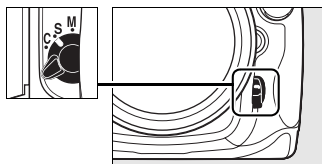
フォーカスモードセレクトダイヤルを**C**に設定してシャッターボタンを押したときの動作を設定できます。

レリーズ（初期設定）	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
レリーズ/フォーカス	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するときは、連続撮影速度を落としてピント合わせを行います。連続撮影時に撮影速度よりもピント合わせを優先したいときにお使いください。
フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを押してもシャッターをきることができません。

- フォーカスモードが**C**のときは、［**AF-Cモード時の優先**］の設定にかかわらず、ピント表示（●）が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2：AF-Sモード時の優先

フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**に設定してシャッターボタンを押したときの動作を設定できます。

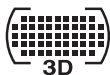
フォーカスモードセレクトダイヤル

レリーズ	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
フォーカス（初期設定）	ピントが合うまで、シャッターボタンを押してもシャッターをきることができません。

- フォーカスモードが**S**のときは、［**AF-Sモード時の優先**］の設定にかかわらず、ピント表示（●）が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスロックが行われます。

a3：ダイナミックAFエリア

ダイナミックAFモード（P.64）時にピント合わせを行うフォーカスポイントを、被写体の動きに合わせて設定できます。フォーカスモード**C**（P.62）との組み合わせで、選択したフォーカスポイントから被写体が一時的に外れたときでも、周辺のフォーカスポイントを利用してピントを合わせます。ピント情報を利用するフォーカスポイントを、被写体の動きに合わせて9点、21点、51点から選ぶと効果的です。

[·:·]9 **9点**※ （初期設定）		選択した1点のフォーカスポイントと、その周辺の8点のピント情報を利用してピントを合わせます。構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体を捉えやすい撮影に適しています。 • 例：陸上競技やモータースポーツ
[·:·]21 **21点**※		選択した1点のフォーカスポイントと、その周辺の20点のピント情報を利用してピントを合わせます。被写体の動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています。 • 例：フィールドスポーツ
[·:·]51 **51点**※		選択した1点のフォーカスポイントと、その周辺の50点のピント情報を利用してピントを合わせます。被写体の動きが速く、選択したフォーカスポイントで被写体を捉えにくい場合の撮影に適しています。 • 例：野鳥撮影

※ファインダー内のフォーカスポイントの表示は1点のみです。

[⊡]3D **51点（3D-トラッキング）**		51点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾する3D-トラッキングになります。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています。 • カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度被写体にフォーカスポイントを合わせてください。 • 例：テニス

3D-トラッキングについて

3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選択したフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいとうまく動作しない場合があります。

a4：AFロックオン

オートフォーカス撮影時に、被写体との距離が瞬時に大きく変わったときのピント合わせの動作について設定できます。

AF 強め	被写体との距離が瞬時に大きく変わったとき、一定時間経過してから被写体を追従するピント合わせを行います。被写体とカメラの間を障害物が横切るような撮影など、意図に反して障害物にピント合わせを行うことを防止します。 • 被写体との距離が瞬時に大きく変わってから、追従するピント合わせを開始するまでの時間が長い順に、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
AF 標準（初期設定）	
AF 弱め	
しない	被写体との距離が瞬時に大きく変わったときは、すぐに追従するようにピント合わせを行います。距離の異なる複数の被写体を次々と撮影するようなときに便利です。

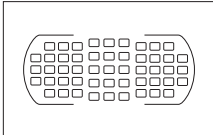
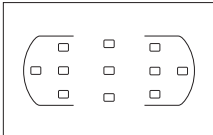
a5：半押しAFレンズ駆動

シャッターボタンを半押ししたときの、ピント合わせの動作を設定できます。

する（初期設定）	シャッターボタンの半押しまたは、**AF-ON**ボタンでピント合わせを行います。
しない	**AF-ON**ボタンだけでピント合わせを行います。

a6：フォーカスポイント照明

ファインダー内のフォーカスポイントの照明方法を設定できます。

オート（初期設定）	被写体が暗いときは、自動的にフォーカスポイントを赤色に照明します。
する	被写体の明るさにかかわらず常にフォーカスポイントが赤色に照明します。背景が明るいときは、照明が見えづらい場合があります。
しない	フォーカスポイントを照明しません。

a7：フォーカスポイント循環選択

フォーカスポイントをマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

する	フォーカスポイントを循環して選べます。一番端のフォーカスポイント（①）を選んでいるときに、さらにマルチセレクターを同方向（右図の場合は▶）に押すと、反対側の端のフォーカスポイント（②）に移動します。 ② ①
しない（初期設定）	フォーカスポイントは循環して選べません。

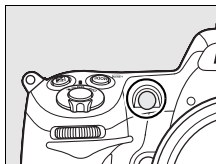
a8：AF点数切り換え

手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

AF51 **51点**（初期設定）	51点全てのフォーカスポイントを選べます。
AF11 **11点**	11点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置をすばやく動かしたいときに便利です。

a9：内蔵AF補助光の照射設定

被写体が暗いときなど、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためにAF補助光が自動的に点灯します。

暗い場所でもAF補助光を自動的に点灯させないように設定できます。

する （初期設定）	オートフォーカスでのピント合わせの際に、必要に応じて自動的にAF補助光が点灯します。AF補助光は、以下の条件が全て満たされた場合に、点灯します。 • 被写体が暗い場合 • フォーカスモード（P.62）が**S**の場合 • AFエリアモード（P.64）がシングルポイントAFモードまたはダイナミックAFモードで、中央のフォーカスポイントを選択したとき、またはオートエリアAFモードのとき
しない	条件にかかわらずAF補助光は点灯しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせはできなくなる場合があります。

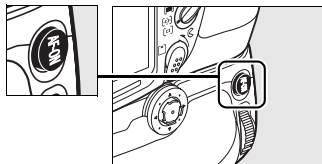
AF補助光について

- 使用できるAFレンズの焦点距離は24〜200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5〜3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

関連ページ

「AF補助光撮影に制限のあるレンズについてのご注意」（P.355）

a10：MB-D10のAF-ONボタン機能

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10の**AF-ON**ボタンの機能を設定します。

AF-ON	**AF-ON** （初期設定）	シャッターボタンの半押しと同様に自動的にピントを合わせます。
	AE-L/AF-L	AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
	AE-L	AEロックを行います。
	AE-L **（レリーズでリセット）**	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態を維持します。再度**AF-ON**ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
	AE-L **（ホールド）**	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態を維持します。シャッターをきってもAEロックを解除しません。ただし、再度**AF-ON**ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
	AF-L	フォーカスロックを行います。
Fn	**ファンクションボタンと同じ**	**Fn**ボタンと同じ機能になります。

b1：ISO感度設定ステップ幅

ISO感度のステップ幅を変更できます（P.97）。

1/3	**1/3段**（初期設定）
1/2	**1/2段**
1	**1段**

b2：露出設定ステップ幅

シャッタースピード、絞り、およびオートブラケティング補正量のステップ幅を変更できます。

1/3	**1/3段**（初期設定）	0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）から選ぶことができます。
1/2	**1/2段**	0.5（1/2段）、1.0（1段）から選ぶことができます。
1	**1段**	1.0（1段）になります。

b3：露出・調光補正ステップ幅

露出補正値と調光補正値のステップ幅を変更できます。

1/3	**1/3段**（初期設定）	0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）から選ぶことができます。
1/2	**1/2段**	0.5（1/2段）、1.0（1段）から選ぶことができます。
1	**1段**	1.0（1段）になります。

b4：露出補正簡易設定

☒ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

露出補正簡易設定を［**する（自動リセット）**］または［**する**］に設定すると、露出インジケーターの「0」が点滅します。

RESET **する（自動リセット）**	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 • コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
する	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 • 電源をOFFにしても、半押しタイマーがきれても、設定した露出補正値はリセットされません。
しない（初期設定）	☒ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

b4［露出補正簡易設定］とf7［メインとサブの入れ換え］の併用について

［**露出補正簡易設定**］とカスタムメニュー f7［**コマンドダイヤルの設定**］（P.307）の［**メインとサブの入れ換え**］との併用により、次の表で記載しているコマンドダイヤルで露出補正ができるようになります。

		カスタムメニュー f7→メインとサブの入れ換え	
		しない（初期設定）	**する**
露出モード	P	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	M	機能しません	

b5：中央部重点測光範囲

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光の範囲を変更できます。

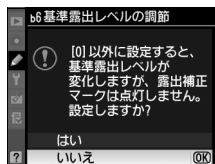
(•)6	**φ6mm**
(•)8	**φ8mm**（初期設定）
(•)10	**φ10mm**
(•)13	**φ13mm**
(•)Avg	**画面全体の平均**

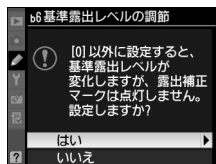
- 非 CPU レンズを装着している場合は、測光範囲は常に［**φ8mm**］となります。

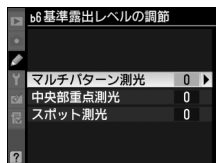
b6：基準露出レベルの調節

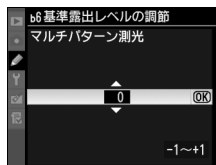
適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（＋側）または暗め（－側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。

1 カスタムメニューのb6［基準露出レベルの調節］を選ぶ

- マルチセレクターの▶を押すと、［**0以外に設定すると、基準露出レベルが変化しますが、露出補正マークは点灯しません。設定しますか？**］というメッセージが表示されます。

2 ［はい］を選ぶ

- ［**はい**］を選んで▶を押します。
- ［**いいえ**］を選ぶと、基準露出レベルを変更せずにカスタムメニュー画面に戻ります。

3 基準レベルを変更したい測光モードを選ぶ

- ［**マルチパターン測光**］、［**中央部重点測光**］、［**スポット測光**］から変更したい測光モードを選び、▶を押します。

4 基準露出レベルを設定する

- ▲または▼を押して基準露出レベルを－1～＋1段の範囲で設定し、㊍ボタンを押します。

☑ 基準露出レベルの調節について

- カスタムメニューb6［**基準露出レベルの調節**］は、カスタムメニュー「A」～「D」ごとに設定します。カスタムメニューを切り換えるときは、カスタムメニューb6の設定の違いにご注意ください。
- カスタムメニューb6［**基準露出レベルの調節**］を0以外に設定しても、⊠マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニューb6の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

c1：半押しAEロック

シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うように設定できます。

する	シャッターボタンを半押ししているときまたはAE/AFロックボタンを押しているときに、AEロックを行います。
しない （初期設定）	シャッターボタンの半押しではAEロックを行いません。AE/AFロックボタンを押しているときだけ、AEロックを行います。

c2：半押しタイマー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

4s **4秒**	1m **1分**
6s **6秒**（初期設定）	5m **5分**
8s **8秒**	10m **10分**
16s **16秒**	30m **30分**
30s **30秒**	∞ **制限なし**

- 待機状態になると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5を接続しているときは、半押しタイマーは［**制限なし**］の設定と同じになります。

c3：セルフタイマー

セルフタイマー撮影時（P.91）にシャッターがきれるまでの時間を変更できます。

2s	**2秒**
5s	**5秒**
10s	**10秒**（初期設定）
20s	**20秒**

c4：液晶モニターのパワーオフ時間

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

10s	**10秒**
20s	**20秒**（初期設定）
1m	**1分**
5m	**5分**
10m	**10分**

- 液晶モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5を接続しているときは、液晶モニターは操作終了後、約10分で自動的に消灯します。

d1：電子音設定

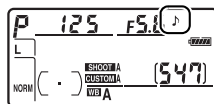
電子音を低音にしたり、鳴らないようにできます。

初期設定では次の場合に電子音が鳴ります。

- セルフタイマー作動中
- オートフォーカスのピントが合ったとき（フォーカスモードが**S**でカスタムメニュー a2［**AF-Sモード時の優先**］が［**フォーカス**］の場合のみ）

🔊H **高音**（初期設定）	高音の電子音が鳴ります。
🔊L **低音**	低音の電子音が鳴ります。
電子音なし	電子音は鳴りません。

電子音設定時の表示について

［**高音**］または［**低音**］のときは、表示パネルと情報画面に♪マークが表示されます。

d2：格子線の表示

格子線を表示するように設定できます。

する	ファインダーや液晶モニター（ライブビュー撮影時のみ）に格子線を表示します。構図を厳密に決めたいときに便利です。
しない（初期設定）	格子線は表示しません。

d3：ファインダー内警告表示

警告表示をファインダーに表示するかどうかを設定します。［**する**］（初期設定）のときは、以下の警告表示をファインダーに表示します。［**しない**］にすると、ファインダーに警告を表示しません。

▭	バッテリーの残量が少なくなると表示されます。

d4：低速連続撮影速度

CL（低速連続撮影）時の連続撮影速度を［**7コマ**］※～［**1コマ**］の間で設定できます。初期設定は［**3コマ**］です。

※別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10を装着していない場合、約6コマ/秒になります。

連続撮影速度について

シャッタースピードが低速の場合、設定した連続撮影速度で撮影できないことがあります。

インターバル撮影速度について

レリーズモードを**S**に設定してインターバルタイマー撮影を行った場合、カスタムメニュー d4で設定した連続撮影速度で撮影されます。

d5：連続撮影コマ数

連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。マルチセレクターの▲または▼を押して、1コマ～100コマの間で設定します。

連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d5［**連続撮影コマ数**］で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります（P.402）。このコマ数を超えると、連続撮影速度は低下します。

d6：連番モード

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する （初期設定）	メモリーカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	メモリーカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 • 連番モードを［**する**］から［**しない**］に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に［**する**］に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
RESET　**リセット**	カメラが記憶しているファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

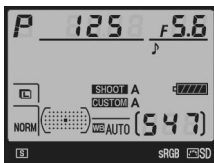
ファイル番号について

- ファイル番号が 9999 に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときにファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は、［**連番モード**］を［**リセット**］した後、メモリーカードを初期化するか、交換してください。

フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号＋1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 撮影中にファイル番号が 9999 となった場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号＋1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。

d7：情報画面の表示設定

明るい場所や暗い場所で液晶モニターが見づらいときに情報画面（P.12）の見え方を設定できます。

黒文字表示

白文字表示

AUTO 自動（初期設定）	情報画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。	
手動	手動で情報画面の表示を切り換えます。	
	B 黒文字	明るい場所で撮影するときに情報画面が見やすいように、液晶モニターが点灯し、文字を黒く表示します。
	W 白文字	暗い場所で撮影するときに情報画面が見やすいように、液晶モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。

d8：イルミネーター点灯

半押しタイマー（P.46）の作動中は、常に表示パネルのイルミネーター（照明）を点灯するように設定できます。

する	半押しタイマーの作動中は、イルミネーターが点灯します（バッテリーの消耗は早くなります）。
しない （初期設定）	電源スイッチを☀に合わせると、イルミネーターが点灯します。

d9：露出ディレーモード

ライブビューモードが［**三脚撮影**］（P.86）のときや顕微鏡撮影時などに、カメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1秒後にシャッターがきれるように変更できます。

する	ミラーの作動後、約1秒後にシャッターがきれます。
しない （初期設定）	シャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれます。

d10：MB-D10電池設定

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10に単3形電池（8本）を入れて使用するときに、カメラが電池残量をより正確に表示できるように、電池の種類を指定してください。ただし、Li-ion リチャージャブルバッテリーEN-EL3e 、別売のEN-EL4aまたはEN-EL4を使用する場合は、設定する必要がありません。

MB-D10で使える単3形電池は、アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池です。次ページの表に合わせて正しく設定してください。

• 電池設定を正しく設定していない場合、カメラが正常に作動しない恐れがあります。

	対応する電池
LR6 アルカリ単3形電池（初期設定）	アルカリ単3形電池
Ni-MH Ni-MH単3形充電池	ニッケル水素単3形充電池
FR6 リチウム単3形電池	リチウム単3形電池
ZR6 ニッケルマンガン単3形電池	ニッケルマンガン単3形電池（オキシライド乾電池、ニッケル乾電池を含む）

単3形電池の使用について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10に単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池）を電源として使用するときは、次のことにご注意ください。

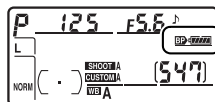
• アルカリ電池、ニッケルマンガン電池（オキシライド乾電池、ニッケル乾電池を含む）を電源として使用した場合、他の電源を使用した場合と比較して撮影できるコマ数が極端に減少します。通常の撮影では他の電源を使用し、アルカリ電池、ニッケルマンガン電池は緊急用として使用してください。また、低温時は使用しないでください。
• 電池のメーカーや銘柄によっては、撮影できるコマ数が少なかったり、使用できない場合があります。
• 周囲の温度が20℃よりも低い環境では、撮影できるコマ数が極端に減少する場合があります。
• 電池の使用推奨期間内であっても、保管状態によっては撮影できるコマ数が減少したり、使用できない場合があります。
• 単3形電池を使っているときは、表示パネルとファインダー内の電池残量表示は次のようになります。

表示パネル	ファインダー	意味
[電池残量表示：満]	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
[電池残量表示：少]	[電池残量表示：少]	バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
[電池残量表示：空]（点滅）	[電池残量表示：空]（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

d11：電池の使用順序

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10装着時に、MB-D10側とカメラ側のどちらの電池から使用するかを設定します。

MB-D10 MB-D10から（初期設定）	MB-D10に入っている電池から使用し、残量がなくなり次第、カメラ側のバッテリーを使用します。
D300 カメラから	カメラに入っているバッテリーから使用し、残量がなくなり次第、MB-D10側の電池を使用します。

- MB-D10 側のバッテリーを使用しているときのみ、表示パネルにBPアイコンが表示されます。

マルチパワーバッテリーパックMB-D10について

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10では、カメラに付属のLi-ion リチャージャブルバッテリーEN-EL3eの他に、別売のLi-ion リチャージャブルバッテリーEN-EL4a、EN-EL4、および単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池）が使えます。
- 別売のLi-ion リチャージャブルバッテリーEN-EL4a、EN-EL4または単3形電池を電源として使用した場合、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3eを使用した場合よりも、連続撮影速度が速くなります（P.77）。ただし、単3形電池の場合、電池残量が減るとともに連続撮影速度が遅くなります。

e1：フラッシュ撮影同調速度

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

1/320秒（オートFP）	フラッシュ撮影時の同調速度を、1/320に設定します。別売のスピードライトSB-800、SB-600またはリモートスピードライトSB-R200使用時は1/320秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります。※
1/250秒（オートFP）	フラッシュ撮影時の同調速度を1/250秒に設定します。別売のスピードライトSB-800、SB-600またはリモートスピードライトSB-R200使用時は1/250秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります。※
1/250秒（初期設定）	フラッシュ撮影時の同調速度を、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。
1/200秒	
1/160秒	
1/125秒	
1/100秒	
1/80秒	
1/60秒	

※露出モードがPまたはAで、表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードがカスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］で設定した同調速度を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが同調速度よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。

シャッタースピードの同調速度を固定するには

露出モードがSまたはMのときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］で設定した値に固定するには、最も低速側（30秒またはbulb）の次の位置を選んでください。表示パネルとファインダー内表示に**X**（フラッシュシンクロマーク）と設定した同調速度が表示されます。

［1/320秒（オートFP）］時の調光範囲について

カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］（P.288）を［**1/320秒（オートFP）**］に設定すると、内蔵フラッシュや別売のスピードライト（SB-800、SB-600、SB-R200）を使って1/320秒までフラッシュ同調ができます。また、別売のスピードライト使用時にシャッタースピードが1/320秒より速くなると、自動的にFP発光に切り替わります。

シャッタースピード	1/320秒（オートFP）		1/250秒（オートFP）		1/250秒	
	内蔵フラッシュ	スピードライト（別売）	内蔵フラッシュ	スピードライト（別売）	内蔵フラッシュ	スピードライト（別売）
1/8000～1/320秒	—	FP発光	—	FP発光	—	—
1/320～1/250秒	フラッシュ同調※	フラッシュ同調※	—	FP発光	—	—
1/250～30秒	フラッシュ同調	フラッシュ同調	フラッシュ同調	フラッシュ同調	フラッシュ同調	フラッシュ同調

※ ガイドナンバーは、シャッタースピードが速くなるほど小さくなりますが、FP発光時よりは大きくなります。

露出不足のときの警告表示について

［**1/320秒（オートFP）**］時は、スピードライトがフル発光して露出不足のおそれがある場合でも、スピードライト側のレディライトは点滅警告しません。ファインダー内のレディライトで確認してください。

FP発光について

スピードライト撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます（P.108）。［**1/320秒（オートFP）**］や［**1/250秒（オートFP）**］に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中の撮影でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影がお楽しみいただけます。

フラッシュ撮影同調速度が1/320～1/250秒のときは、照射角度ごとにガイドナンバーが下表のように制限されますので、遠距離側の調光範囲は次のガイドナンバー計算によって算出してください。

調光範囲の求め方

D（遠距離側の撮影距離）＝GN（ガイドナンバー）÷F（絞り値）

照射角度	14mm	17mm	24mm	28mm	35mm	50mm	70mm	85mm	105mm
ガイドナンバー※	17	19	30	32	38	44	50	53	56

※ ISO 200・m、20℃、別売のスピードライトSB-800使用時のとき

例（ISO 200、照射角度35mm、絞り値F5.6のとき）

遠距離側の調光範囲は、D ＝ 38 ÷ 5.6 ＝ 6.7 となります。
（近距離側の調光範囲は、調光範囲バーグラフや露出計算パネルからそのまま読み取ってください。）

- ISO 200以外の感度に設定する場合は、上表のガイドナンバーに下表の係数を乗じて算出してください。

ISO 感度	400	800	1600	3200
係数	×1.4	×2	×2.8	×4

e2：フラッシュ時シャッタースピード制限

露出モードがPまたはAの場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を、［**1/60秒**］（初期設定）～［**30秒**］の範囲で1段刻みで設定できます。

- スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や露出モードがS、Mの場合には、シャッタースピードの低速側の制限が自動的に30秒まで延長されます。

e3：内蔵フラッシュ発光

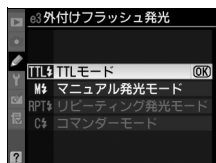
内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。

TTL⚡ **TTLモード**（初期設定）	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
M⚡ **マニュアル発光モード**	指定した発光量で内蔵フラッシュが発光します。モニター発光は行いません。詳しくはP.292をご覧ください。
RPT⚡ **リピーティング発光モード**	1回の露光中に、内蔵フラッシュを繰り返し連続発光させます。被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込みます。詳しくはP.292をご覧ください。
C⚡ **コマンダーモード**	内蔵フラッシュを、カメラから離れた別売のスピードライト（SB-800など）をワイヤレス制御するためのコマンダーとして利用します。詳しくはP.293をご覧ください 。

調光補正マークの表示について

［**マニュアル発光モード**］、［**リピーティング発光モード**］にすると、表示パネルとファインダー内表示に⚡±マークが点滅します。

別売スピードライトSB-400を装着している場合について

- 別売スピードライト SB-400 を装着してスピードライトの電源をONにすると、カスタムメニューe3［**内蔵フラッシュ発光**］がe3［**外付けフラッシュ発光**］に変わり、SB-400の発光方式を［**TTLモード**］または［**マニュアル発光モード**］に設定できます。［**リピーティング発光モード**］と［**コマンダーモード**］は選択できません。

マニュアル発光モード

「Full」（フル発光）のほか、「1/1.3」～「1/128」の21段階の発光量を選べます。

- 「Full」（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約18（ISO200・m、20℃）となります。

リピーティング発光モード

［**リピーティング発光モード**］を選ぶと、右のような画面が表示されます。

マルチセレクターの◀または▶で［**発光量**］、［**回数**］、［**間隔**］の各設定項目を切り換え、▲または▼で数値を設定してください。

発光量	1回あたりの発光量を設定します。発光量は、1/4～1/128の6段階で設定できます。
回数	1回の露光中に発光する回数を設定します。設定できる発光回数は、発光量によって変わります。
間隔	発光間隔を、Hz（ヘルツ；1秒あたりの発光回数）単位で設定します。設定できる発光間隔は1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、20、30、40、50Hzのいずれかです。

リピーティング発光モードの発光回数について

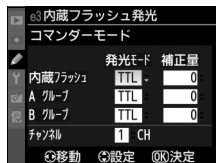
- ［**回数**］で設定する数値は、最大の発光回数です。シャッタースピードを高速にしたり、発光間隔を長くすると、実際の発光回数は設定よりも少なくなることがあります。
- 設定できる発光回数は、［**発光量**］によって次のように変わります。

発光量	回数													
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	25	30	35
1/4	○													
1/8	○	○	○	○										
1/16	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
1/32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
1/64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1/128	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

コマンダーモード

内蔵フラッシュを主灯（マスターフラッシュ）として、カメラから離れた別売のスピードライトSB-800、SB-600、リモートスピードライトSB-R200 で構成される補助灯グループを、ワイヤレス（アドバンストワイヤレスライティング）で制御するためのモードです。

内蔵フラッシュ、2つの補助灯グループスピードライトのそれぞれに、発光モードと、調光補正量（または発光量）を設定できます。

［**コマンダーモード**］を選ぶと、右のような画面が表示されます。

マルチセレクターの◀または▶で項目を切り換え、▲または▼で発光モードや補正量（または発光量）を設定してください。

<table>
<tr><th></th><th>発光モード</th><th>内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">内蔵フラッシュ</td><td>TTL</td><td>内蔵フラッシュは、i-TTL調光を行います。右側の［補正量］欄で、内蔵フラッシュの調光補正量を設定（1/3 段ステップで± 3 段）してください。</td></tr>
<tr><td>M</td><td>内蔵フラッシュはマニュアル調光を行います。右側の［補正量］欄で、内蔵フラッシュの発光量を［1/1］（フル発光）、または［1/1.3］～［1/128］から選んでください。</td></tr>
<tr><td>－ －</td><td>内蔵フラッシュは発光せず、補助灯だけが発光します。ただし、撮影時にモニター発光を行えるよう、フラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュを上げておいてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Aグループ</td><td>TTL</td><td>A グループの全ての補助灯が、i-TTL調光を行います。右側の［補正量］欄で、Aグループの補助灯の調光補正量を設定（1/3 段ステップで±3 段）してください。</td></tr>
<tr><td>AA※</td><td>Aグループの全ての補助灯が、絞り連動外部自動調光を行います。右側の［補正量］欄で、A グループの補助灯の調光補正量を設定（1/3 段ステップで±3 段）してください。</td></tr>
<tr><td>M</td><td>Aグループの全ての補助灯が、マニュアル調光を行います。右側の［補正量］欄で、A グループの補助灯の発光量を［1/1］（フル発光）、または［1/1.3］～［1/128］から選んでください。</td></tr>
<tr><td>－ －</td><td>A グループの補助灯は発光しません。</td></tr>
<tr><td>Bグループ</td><td colspan="2">Bグループの補助灯について、A グループと同様の設定を行います。</td></tr>
<tr><td>チャンネル</td><td colspan="2">補助灯と通信を行うためのチャンネルを、1～4のいずれかに設定します。全ての補助灯のチャンネルを、ここで設定したチャンネルに合わせる必要があります。</td></tr>
</table>

※ SB-800の場合のみ発光します。

コマンダーモードでの撮影手順は、次のとおりです。

1 右の画面で、［内蔵フラッシュ］の［発光モード］と［補正量］を設定する

- 発光モードを［－ －］（非発光）にした場合は、［**補正量**］が設定できません。

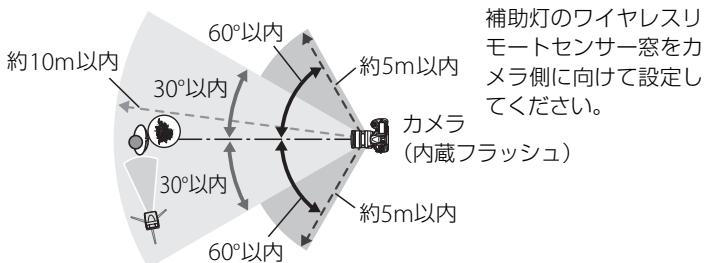
2 同様に［A グループ］の［発光モード］と［補正量］を設定する

3 Bグループの補助灯を使用する場合は、同様に［Bグループ］の［発光モード］と［補正量］を設定する

4 ［チャンネル］を設定する

5 ㉂ボタンを押して設定を有効にする

6 構図を決め、カメラと補助灯（別売のスピードライト）を配置する

- 補助灯は下図の範囲内に配置してください。

- 周辺環境により、上図内の距離は多少変化します。

7 使用する全ての補助灯の電源をON にし、グループとチャンネルを設定する

- 補助灯の設定方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- 補助灯のチャンネルは、必ずカメラで設定したものと同じチャンネル（1～ 4）に設定してください。

8 フラッシュロック解除ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる

- 内蔵フラッシュの［**発光モード**］を［**– –**］に設定した場合も、撮影時にモニター発光を行えるよう、内蔵フラッシュを上げておいてください。

9 カメラのファインダー内表示と全ての補助灯でレディーライトが点灯していることを確認し、ピントを合わせて撮影する

- コマンダーモードはFV ロック（P.180）と組み合わせて撮影することもできます。

内蔵フラッシュを発光させない場合の表示について

手順1で［**内蔵フラッシュ**］の［**発光モード**］を［– –］にして内蔵フラッシュを上げると、表示パネルのフラッシュモード表示から⚡が消灯します。

コマンダーモード時の調光補正と表示について

- コマンダーモード時に、⚡±（⚡）ボタンとサブコマンドダイヤルで調光補正を行うと、［**内蔵フラッシュ**］、［**A グループ**］、「**B グループ**」のそれぞれの［**補正量**］に加算されます。
- ［**内蔵フラッシュ**］を［**TTL**］にして、［**補正量**］を**0**以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に⚡±が点灯します。
- ［**内蔵フラッシュ**］を［**M**］に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に⚡±が点滅します。

コマンダーモードについてのご注意

- 補助灯は、内蔵フラッシュのモニター発光の光がセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、モニター発光の光が確実にセンサー窓に入るように、補助灯はカメラより前に構えてください。
- 補助灯の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（［**TTL**］設定時）や他の補助灯の外部自動調光用受光窓（［**AA**］設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる補助灯の台数に制限はありません。しかし、センサーに他の補助灯の強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は3 台程度が限度です。
- ［**内蔵フラッシュ**］の［**発光モード**］を［– –］にした場合でも、補助灯の発光タイミングを合わせるため、モニター発光とは別に、撮影中に内蔵フラッシュが少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影するか、別売の内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。少量発光の光量が大きくなる後幕シンクロ撮影では、内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

e4：モデリング発光

内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-800、SB-600またはリモートスピードライトSB-R200使用時にカメラのプレビューボタンで、陰影の状況を把握するためのモデリング発光を行うかどうかを設定します。

する （初期設定）	内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-800、SB-600またはリモートスピードライトSB-R200使用時にプレビューボタンを押すと、プレビュー動作（P.105）とともに、モデリング発光します。
しない	モデリング発光しません。

e5：オートブラケティングのセット

オートブラケティング（P.118）の種類を設定できます。

AE⚡	**AE・フラッシュブラケティング** （初期設定）	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AE	**AEブラケティング**	露出値を変えながら撮影します。
⚡	**フラッシュブラケティング**	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
WB	**WBブラケティング** （P.123）	1回の撮影でホワイトバランス（WB）を変えた画像を記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスを決めにくいときや、微妙な白の色味を好みで選びたいときなどに便利です。RAW画像を含む画質モードを設定したときは、WBブラケティングは使用できません。

e6：BKT変化要素（Mモード）

オートブラケティング時に変化する内容は、カスタムメニューe5［**オートブラケティングのセット**］との組み合わせによって次のようになります。露出モードMでオートブラケティングを行うときに、変化する内容を設定できます。

カスタムメニューe6 ［BKT変化要素（Mモード）］	カスタムメニューe5 ［オートブラケティングのセット］	
	AE・フラッシュブラケティング※	AEブラケティング※
フラッシュ・シャッタースピード（初期設定）	シャッタースピードとフラッシュの調光レベル	シャッタースピード
フラッシュ・シャッタースピード・絞り値	シャッタースピード、絞り値、フラッシュの調光レベル	シャッタースピードと絞り値
フラッシュ・絞り値	絞り値とフラッシュの調光レベル	絞り値
フラッシュ	フラッシュの調光レベル	−

※カスタムメニューe6が［**フラッシュ・シャッタースピード**］、［**フラッシュ・シャッタースピード・絞り値**］、［**フラッシュ・絞り値**］のいずれかのときに、［**感度自動制御**］（P.98）が［**する**］に設定され、フラッシュを使用していない場合、ブラケティング1コマ目のISO感度で固定されます。

［フラッシュブラケティング］または［WBブラケティング］の場合

カスタムメニューe5［**オートブラケティングのセット**］が［**フラッシュブラケティング**］のときはフラッシュの調光レベルが、［**WB ブラケティング**］のときはホワイトバランスが変化します。

フラッシュ調光レベルについて

フラッシュブラケティング中は、フラッシュ調光レベルは、i-TTL調光時または絞り連動外部自動調光時のみ変化します。

e7：BKTの順序

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

N　［0］→［−］→［+］（初期設定）	「補正なし」→「ー側に補正」→「＋側に補正」の順になります。
−→+　［−］→［0］→［+］	「ー側に補正」→「補正なし」→「＋側に補正」の順になります。

f1：中央ボタンの機能

撮影時と再生時にマルチセレクターの**中央**を押したときの機能を設定できます。

撮影モード

RESET **フォーカスポイント中央リセット**（初期設定）	マルチセレクターの**中央**を押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
選択フォーカスポイント表示	マルチセレクターの**中央**を押すと、選択中のフォーカスポイントが点灯します。
使用しない	マルチセレクターの**中央**は機能しません。

再生モード

1コマとサムネイルの切り換え（初期設定）	マルチセレクターの**中央**を押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマまたは9コマ）を切り換えます。
ヒストグラム表示	マルチセレクターの**中央**を押している間、ヒストグラム（P.211）を表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
拡大画面との切り換え	マルチセレクターの**中央**を押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。再度**中央**を押すと、元の表示に戻ります。 • ［**拡大画面との切り換え**］を選んで▶を押すと、拡大率を［**低倍率**］（初期設定）、［**中倍率**］、［**高倍率**］から選べます。 • サムネイル表示時も拡大表示できます。

フォルダー指定	マルチセレクターの**中央**を押すと、画像を再生するフォルダーを選択できます。 • Ⓚ ボタンを押すと、選択したフォルダー内の画像を表示します。 • フォルダーが 1 つしかない場合や、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］（P.249）で再生設定されていないフォルダーは、フォルダー指定できません。

f2：マルチセレクターの半押し起動

半押しタイマー（P.46）がきれたときに、マルチセレクターで半押しタイマーが起動するように変更できます。

する	マルチセレクターを操作すると、半押しタイマーが起動します。
しない （初期設定）	マルチセレクターを操作しても、半押しタイマーは起動しません。

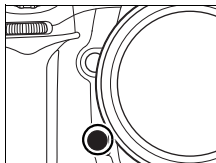
f3：上下左右機能入れ換え

1コマ表示時のマルチセレクターの機能を変更できます。

する	マルチセレクターの◀または▶を押して画像情報のページを、▲または▼を押して表示画像を切り換えます。
しない （初期設定）	マルチセレクターの▲または▼を押して画像情報のページを、◀または▶を押して表示画像を切り換えます。

• 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10のマルチセレクターの機能も、同時に変更されます。

f4：ファンクションボタンの機能

Fn ボタンを単独で押したときの機能と、**Fn** ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

ファンクションボタン押し時の動作

Fnボタンを押したときの機能を設定できます。

プレビュー※	レンズの絞り羽根が絞り込まれ、被写界深度が確認できます（P.105）。
FV-L※	内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-800、SB-600、SB-400、またはリモートスピードライトSB-R200使用時は、FVロック（P.180）を行い、再度押すと解除します。
AE-L/AF-L	AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
AE-L	AEロックを行います。
AE-L（レリーズでリセット）※	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。再度**Fn**ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがきれると、解除されます。
AE-L（ホールド）※	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、再度**Fn**ボタンを押すか、半押しタイマーがきれると、解除されます。
AF-L	フォーカスロックを行います。
フラッシュ発光禁止	フラッシュは発光禁止になります。

BKT	BKT自動連写	レリーズモードがCHまたはCLのとき、Fnボタンを押しながらシャッターボタンを押している間、1回分のブラケティング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きブラケティング撮影をします。 レリーズモードがSのとき、Fnボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、1回分のブラケティング設定コマ数を連続撮影します。ただし、WBブラケティング撮影時は、CHのときと同様に高速連続撮影の速度で連続撮影して、各コマに対してWBブラケティングを行います。
	マルチパターン測光簡易設定	測光モードがマルチパターン測光になります。
	中央部重点測光簡易設定	測光モードが中央部重点測光になります。
	スポット測光簡易設定	測光モードがスポット測光になります。
	設定しない（初期設定）	Fnボタンは機能しません。

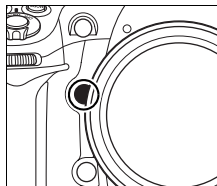
※これらの機能は、［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（P.305）とは併用できません。設定すると、メッセージが表示され、［**コマンドダイヤル併用時の動作**］が自動的に［**設定しない**］になります。また、これらの機能が選ばれているときに［**コマンドダイヤル併用時の動作**］を［**設定しない**］以外に設定すると、［**ファンクションボタン押し時の動作**］の設定が自動的に［**設定しない**］になります。

▌コマンドダイヤル併用時の動作

Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

シャッター・絞り値1段選択	**Fn**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出モードが**S**または**M**のときはシャッタースピードを、サブコマンドダイヤルを回すと、**A**または**M**のときは絞り値を1段ステップで設定できます。
Non-CPU **手動設定済みレンズの選択**	**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（P.198）で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
BKT **オートブラケティング**（初期設定）	**Fn**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定します。
ダイナミックAFエリア	AFエリアモードセレクトダイヤルを（ダイナミックAFモード）に合わせ、フォーカスモードセレクトダイヤルを**C**に設定した場合、**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して、ダイナミックAFエリア（P.269）を切り換えます。
設定しない	**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f5：プレビューボタンの機能

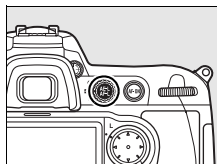
プレビューボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。

▮▮プレビューボタン押し時の動作

プレビューボタンを押したときの機能は、カスタムメニューf4［**ファンクションボタンの機能**］→［**ファンクションボタン押し時の動作**］（P.303）と同じです。ただし、初期設定は［**プレビュー**］です。

▮▮コマンドダイヤル併用時の動作

プレビューボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニュー f4［**ファンクションボタンの機能**］→［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（P.305）と同じです。初期設定は［**設定しない**］です。

f6：AE/AFロックボタンの機能

AE/AF ロックボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。

▌AE/AFロックボタン押し時の動作

AE/AFロックボタンを押したときの機能は、カスタムメニューf4［**ファンクションボタンの機能**］→［**ファンクションボタン押し時の動作**］（P.303）とほぼ同じですが、その他に［**AF-ON**］も選べます。［**AF-ON**］に設定した場合、AE/AFロックボタンを押している間、**AF-ON**ボタンを押し続けたときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。この機能は、［**コマンドダイヤル併用時の動作**］とは併用できません。

初期設定は［**AE-L/AF-L**］です。

▌コマンドダイヤル併用時の動作

AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニューf4［**ファンクションボタンの機能**］→［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（P.305）とほぼ同じですが、［**シャッター・絞り値1段選択**］は選べません。初期設定は［**設定しない**］です。

f7：コマンドダイヤルの設定

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルに関する設定ができます。

▌回転方向の変更

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの回転方向を逆方向に変更できます。

する	逆方向の回転操作となります。
しない（初期設定）	通常通りの回転操作となります。

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10のコマンドダイヤルの回転方向も、同時に変更されます。

メインとサブの入れ換え

シャッタースピードを設定するメインコマンドダイヤルと、絞り値を設定するサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。

する	メインコマンドダイヤルで絞りを、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。
しない（初期設定）	メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを、サブコマンドダイヤルで絞りを設定します。

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10のコマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に露出モードがAまたはMの場合、レンズの絞りリングで絞りを設定できるように変更できます。

サブコマンドダイヤル（初期設定）	サブコマンドダイヤルで絞りをセットします（［**メインとサブの入れ換え**］を［**する**］に設定した場合は、メインコマンドダイヤルでセットします）。
絞りリング	レンズの絞りリングで絞りをセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞りの表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ（Gタイプレンズ）装着時は、［**絞り値の設定方法**］での設定にかかわらず、絞りはサブコマンドダイヤルで設定します。
- 非CPUレンズ装着時は、［**絞り値の設定方法**］での設定にかかわらず、絞りはレンズの絞りリングで設定します。
- 絞りリングのあるCPUレンズ（P.352）装着時は、［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定すると、ライブビュー撮影ができません。

■再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセレクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

<table>
<tr><td rowspan="1">する</td><td>再生時：
• 1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルで画像情報の表示ページを切り換えます。
• サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、選択した画像が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、上下に移動します。
メニュー画面表示時※：
メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。</td></tr>
<tr><td>しない
（初期設定）</td><td>再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセレクターを操作して行います。</td></tr>
</table>

※サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、OKボタンか、マルチセレクターの▶または**中央**を押してください。

f8：ボタンのホールド設定

ボタンを押しながらコマンドダイヤルを操作するときに、指を放しても設定できる状態が維持できます。

［**ボタンのホールド設定**］の対象ボタンは、**MODE**ボタン、☒ボタン、⚡ボタン、**ISO**ボタン、**QUAL**ボタンおよび**WB**ボタンです。

する	一度ボタンを押すと、ボタンを放しても設定できる状態が維持され、コマンドダイヤルで設定できます。再度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがきれると、解除されます。 • カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］が［**制限なし**］に設定されている場合や別売のACアダプターEH-5aまたはEH-5接続時には、自動的に解除されません。
しない （初期設定）	ボタンを押し続けている間のみ設定できる状態となります。

f9：カードなし時レリーズ

カメラにメモリーカードを入れていないときのレリーズ操作を設定できます。

LOCK レリーズ禁止	メモリーカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK レリーズ許可 （初期設定）	メモリーカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には［デモモード］と表示され、画像は記録できません。

• 別売のCamera Control Pro 2使用時には、記録先がパソコンになるため、［**レリーズ禁止**］でメモリーカードを入れていなくても、シャッターをきることができます。

f10：インジケーター表示の＋/－方向

ファインダー内表示、表示パネルおよび情報画面（info）での露出、露出補正、オートブラケティングのインジケーターの＋と－方向を入れ換えることができます。

+0－ ＋◀‥‥‥0‥‥‥▶－（初期設定）	インジケーターの＋側を左に、－側を右に表示します。
－0+ －◀‥‥‥0‥‥‥▶＋	インジケーターの－側を左に、＋側を右に表示します。

セットアップメニュー：
カメラを使いやすくする基本設定

セットアップメニューには次の項目があります。

- メニューの操作方法についてはP.24をご覧ください。

メニュー項目	ページ
カードの初期化（フォーマット）	P.313
液晶モニターの明るさ	P.313
イメージセンサークリーニング	P.371
クリーニングミラーアップ※1	P.374
ビデオ出力	P.314
HDMI	P.315
ワールドタイム	P.316
言語（Language）	P.316
画像コメント	P.317
縦横位置情報の記録	P.318
USB設定	P.319
イメージダストオフデータ取得	P.319
電池チェック	P.322
ワイヤレストランスミッター※2	P.229
画像真正性検証機能	P.324
カメラ設定の保存と読み込み	P.325
GPS	P.203
レンズ情報手動設定	P.199
AF微調節	P.327
ファームウェアバージョン	P.328

※1 バッテリー残量表示が[電池アイコン]以下のときは選べません。

※2 別売のワイヤレストランスミッター WT-4接続時でも、［**USB設定**］が［**Mass Storage**］のときは選べません。

カードの初期化（フォーマット）

メモリーカードを初期化（フォーマット）します。**初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。

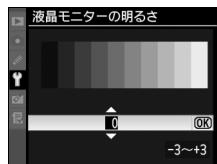
カードの初期化についてのご注意

［カードの初期化（フォーマット）中です。］のメッセージが液晶モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、メモリーカードを取り出さないでください。

ボタン操作による初期化

FORMATボタン（🗑ボタンとMODEボタンの2つを約2秒間同時に押す）を操作して初期化することもできます（P.41）。

液晶モニターの明るさ

液晶モニターの明るさを、マルチセレクターの▲または▼を押して－3～＋3の7段階で調整できます。＋にすると明るく、－にすると暗くなります。

イメージセンサークリーニング

撮像素子上のローパスフィルター表面に付いたゴミをカメラが自動で取り除きます（P.371）。

クリーニングミラーアップ

撮像素子上のローパスフィルターの汚れを調べたり、ブロアーなどを使って手動でクリーニングするために、ミラーを上げた状態で固定します（P.374）。

ビデオ出力

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を設定します。

NTSC （初期設定）	NTSC方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。通常、日本国内でご使用の場合は、こちらを選択します。
PAL	PAL方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。通常、日本では使用されません。

HDMI

HDMI端子を備えたハイビジョンテレビやモニターへの出力方式を設定できます。

設定	説明
AUTO **オート**（初期設定）	出力先の映像信号形式を自動的に検出します。
480p **480p（プログレッシブ）**	640×480 pixelのプログレッシブ出力方式です。
576p **576p（プログレッシブ）**	720×576 pixelのプログレッシブ出力方式です。
720p **720p（プログレッシブ）**	1280×720 pixelのプログレッシブ出力方式です。
1080i **1080i（インターレース）**	1920×1080 pixelのインターレース出力方式です。

- 画像をHDMIで再生しているときは、カメラの液晶モニターでは再生できません。

HDMIとは

High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。D300では市販のHDMI（Type A）ケーブルを使ってHDMI対応機器と接続できます。

ワールドタイム

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。日時設定の手順については、「日付と時刻を設定する」をご覧ください（P.36）。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、［**日時の設定**］で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	［**現在地の設定**］で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、［**年/月/日**］、［**月/日/年**］、［**日/月/年**］から選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は［**する**］に、そうでない場合は［**しない**］に設定します。［**する**］にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は［**しない**］です。

言語（Language）

メニュー画面やメッセージの表示言語を、次の中から選べます。

De	**Deutsch**	ドイツ語
En	**English**	英語
Es	**Español**	スペイン語
Fi	**Suomi**	フィンランド語
Fr	**Français**	フランス語
It	**Italiano**	イタリア語
Nl	**Nederlands**	オランダ語
Pl	**Polski**	ポーランド語

Pt	**Português**	ポルトガル語
Ru	**Русский**	ロシア語
Sv	**Svenska**	スウェーデン語
繁	中文(繁體)	繁体中国語
简	中文(简体)	簡体中国語
日	**日本語**	日本語
한	**한글**	韓国語

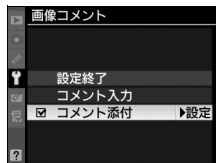
画像コメント

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、付属のViewNXや別売のCapture NX（P.367）の撮影情報表示エリアに表示されます。

コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。［**コメント入力**］を選ぶと、画像コメントの入力画面が表示されます。コメントを入力し、Ⓚボタンを押すと、コメントが登録されます。入力画面での文字の入力方法については、「撮影メニュー切り換え」の「名前編集」をご覧ください（P.256）。

コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、［**コメント添付**］を選んでマルチセレクターの▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。［**設定終了**］を選んでⓀボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。

画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報3」の「画像コメント」に表示されます（P.214）。

縦横位置情報の記録

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する （初期設定）	液晶モニターや、付属のViewNXまたは別売のCapture NX（P.367）で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。 記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3 種類です。 横位置 / 縦位置 時計回りに90º回転 / 縦位置 反時計回りに90º回転
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

縦横位置情報記録についてのご注意

- レリーズモードが**CH**（高速連続撮影）または**CL**（低速連続撮影）（P.74）の場合、最初の1コマを撮影した姿勢が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、縦横位置情報には反映されません。
- カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

再生メニュー［縦位置自動回転］

再生メニューの［**縦位置自動回転**］（P.251）では、［**縦横位置情報の記録**］を［**する**］に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

USB設定

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続するときのUSB 通信方式を設定します。

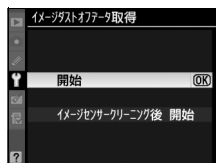
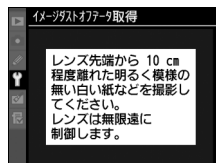
- 付属の Nikon Transfer を使って画像をパソコンに転送するときは、お使いのOS（オペレーションシステム）に合わせて正しい通信方式を選んでください（P.225）。
- PictBridge規格対応プリンターに直接接続してプリントするときや、別売のCamera Control Pro 2（P.367）でパソコンからカメラをコントロールするときは、初期設定の［**MTP/PTP**］を選んでください。

イメージダストオフデータ取得

別売のCapture NX（P.367）の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子上にあるローパスフィルターに付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX の使用説明書をご覧ください。

イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

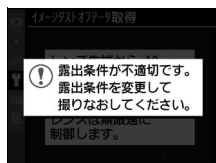
- ［**開始**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、［イメージダストオフデータ取得］画面が表示されます。
- ［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、［イメージダストオフデータ取得］画面が表示されます。
- 液晶モニターと表示パネル、ファインダー内表示に、右のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、MENUボタンを押してください。

イメージセンサークリーニングについてのご注意

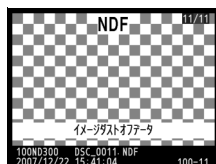
撮影後にイメージセンサークリーニングを行ってからイメージダストオフデータを取得すると、ローパスフィルター上のゴミの位置を正確に取得できず、ゴミの写り込みを取り除くことができません。このため、撮影後にイメージダストオフデータを取得するときは、［**開始**］を選択してください。イメージダストオフデータを取得してから撮影するときは、［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選択してください。

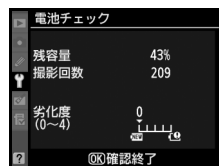
2 レンズ先端から10cm 程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを押し込んで撮影する

- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、ステップ1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。

イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、［**イメージダストオフデータ取得**］を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のものをおすすめします（P.350）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。

電池チェック

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。

残容量	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
撮影回数	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
キャリブレーション	別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10装着時に、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a、EN-EL4が入っている場合に、キャリブレーションの必要性の有無を表示します。キャリブレーションはバッテリー容量をより正確に測定するための機能で、充放電をある程度繰り返すと［CAL］が表示されます。 • ［CAL］が表示されているときは、キャリブレーションをすることをおすすめします。 • [--] が表示されているときは、キャリブレーションの必要はありません。
劣化度	バッテリーの劣化度合いが5 段階のバーグラフで表示されます。 • バーグラフが「0」（NEW）のときは、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」（）のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

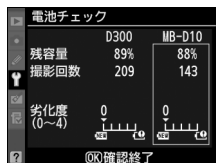
撮影回数について

［**撮影回数**］に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1 ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、［**電池チェック**］で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

マルチパワーバッテリーパックMB-D10 装着時の表示について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10を装着している場合、MB-D10に入れたバッテリーがLi-ion リチャージャブルバッテリーEN-EL3eのときは、カメラに装着したバッテリーと同様に表示されます。バッテリーがEN-EL4aまたはEN-EL4の場合、キャリブレーション情報が追加され、キャリブレーションの必要性の有無を表示します。単3形電池を使用しているときは、残容量のみが表示されます。

ワイヤレストランスミッター

別売のワイヤレストランスミッター WT-4を接続してパソコンやFTPサーバーと通信をするための設定を行います。詳しくは「ワイヤレストランスミッター WT-4を使って無線でパソコンに接続する」をご覧ください（P.229）。

画像真正性検証機能

画像が撮影後に改ざんされていないことを判別する「真正性検証情報」を画像に埋め込むことができます（真正性を検証するには、別売の「画像真正性検証ソフトウェア」が必要です）。高い信頼性が求められる業務などでの使用に便利です。詳しくは画像真正性検証ソフトウェアの使用説明書（PDF）をご覧ください。なお、すでに撮影した画像には、後から真正性検証情報を埋め込むことはできません。

する	撮影する全ての画像に真正性検証情報を埋め込むことができます。
しない （初期設定）	真正性検証情報を埋め込むことができません。

真正性検証情報が埋め込まれた画像には、画像情報の「標準表示」と「統合表示」に を表示します（P.209、217）。

転送時のご注意

別売のCamera Control Pro 2を用いてパソコンに画質モードが［**TIFF (RGB)**］の撮影画像を転送する場合、［**画像真正性検証機能**］は無効となります。

画像編集機能で作成された画像について

画像編集メニュー（P.329）の各機能で作成した画像には、真正性検証情報は埋め込まれません。

カメラ設定の保存と読み込み

カメラの各機能の設定データをメモリーカードに保存できます。また、メモリーカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数のD300を同じ設定で使う場合などに便利です。

設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

<table>
<tr><th rowspan="4">再生メニュー</th><td>再生画面設定</td></tr>
<tr><td>撮影直後の画像確認</td></tr>
<tr><td>削除後の次再生画像</td></tr>
<tr><td>縦位置自動回転</td></tr>
<tr><th rowspan="15">撮影メニュー
（A～D全メニュー）</th><td>撮影メニュー切り換え</td></tr>
<tr><td>ファイル名設定</td></tr>
<tr><td>画質モード</td></tr>
<tr><td>画像サイズ</td></tr>
<tr><td>JPEG圧縮</td></tr>
<tr><td>RAW記録</td></tr>
<tr><td>ホワイトバランス（微調整量、プリセットマニュアルデータ）</td></tr>
<tr><td>ピクチャーコントロール</td></tr>
<tr><td>色空間</td></tr>
<tr><td>アクティブD-ライティング</td></tr>
<tr><td>長秒時ノイズ低減</td></tr>
<tr><td>高感度ノイズ低減</td></tr>
<tr><td>ISO感度設定</td></tr>
<tr><td>ライブビュー</td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><th>カスタムメニュー
（A～D全メニュー）</th><td>[カスタムメニューのリセット]を除く全メニュー</td></tr>
</table>

セットアップメニュー	イメージセンサークリーニング
	ビデオ出力
	HDMI出力
	ワールドタイム（日時の設定を除く）
	言語（Language）
	画像コメント
	縦横位置情報の記録
	USB設定
	画像真正性検証機能
	GPS
	レンズ情報手動設定
マイメニュー	マイメニューに登録したメニュー項目

■保存

カメラの設定データをメモリーカードに保存します。メモリーカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

■読み込み

メモリーカードからカメラの設定データを読み込みます。メモリーカードが装着されていないときや、メモリーカードに設定データが記録されていないときは、［**読み込み**］は選べません。

☑ 設定データについてのご注意

メモリーカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSETUP1」です。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

GPS

GPS機器を接続したときの半押しタイマーの動作の設定と、取得したGPS情報の表示を行います（P.201）。

レンズ情報手動設定

非CPUレンズの焦点距離や開放絞り値をカメラに登録することにより、非CPUレンズ使用時にもRGBマルチパターン測光やi-TTL-BL調光が使用できます。非CPUレンズの情報は、最大9本までカメラに登録できます（P.198）。

AF微調節

装着したレンズごとに最適なピント合わせを行いたいときに、自分でピント位置を調節できます。通常はAF微調節を行う必要はありません。必要な場合のみ調節を行ってください。

AF微調節 (する/しない)	**する**	AF微調節の設定が有効になります。
	しない（初期設定）	AF微調節を行いません。
個別レンズの登録	装着しているCPUレンズの微調節値を登録できます。マルチセレクターの▲または▼を押して、＋20〜－20の範囲で調節できます。最大12種類のレンズを登録できます。 • 非CPUレンズは登録できません。	
その他レンズの登録	［**個別レンズの登録**］で登録していない全てのレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。▲または▼を押して、＋20〜－20の範囲で調節できます。	

個別レンズ登録リスト	［**個別レンズの登録**］で登録したレンズを一覧表示します。現在装着しているレンズには、レンズ名の左側に▮が表示されます。登録リストからレンズを選んで▶を押すと、右の画面が表示されます。 • ［識別番号入力］画面では、レンズの識別番号を変更できます。▲または▼を押して識別番号を選んで、OKボタンを押します。たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号の末尾2桁などを設定しておくと、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。

AF微調節設定時のご注意

AF微調節を行うと、レンズの無限遠側または至近側で、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

ライブビュー撮影（三脚撮影）時のAF微調節について

［**三脚撮影**］（P.86）でのライブビュー撮影時にコントラストAFでピント合わせを行うときは、［**AF微調節**］で設定した微調節値は適用されません。

個別レンズの登録について

同じレンズは複数登録できませんが、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。

登録したレンズを削除するには

［**個別レンズの登録**］で登録したレンズを削除するには、［個別レンズ登録リスト］画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、🗑ボタンを押します。

ファームウェアバージョン

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー：

撮影した画像に行う編集機能

画像編集メニューでは、メモリーカード内の撮影済み画像に、さまざまな特殊効果を加えたり、必要な部分だけの切り抜きをするなどの編集を行えます。画像編集を行うと、元の画像とは別に、新しい画像として記録されます。画像編集メニューには、次の項目があります。

- カメラにメモリーカードが入っていない場合やメモリーカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューは表示されません。
- メニューの操作方法についてはP.24をご覧ください。

メニュー項目	ページ
D-ライティング※	P.334
赤目補正※	P.335
トリミング	P.336
モノトーン※	P.337
フィルター効果※	P.338
カラーカスタマイズ※	P.338
画像合成	P.339
編集前後の画像表示	P.342

※撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］（P.150）を［**モノクローム**］にして撮影した画像に対して、これらの画像編集を行うことはできません。

画像編集メニューの操作手順

画像編集を行うには、

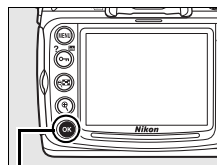
① 画像を選んでからメニュー項目を選ぶ

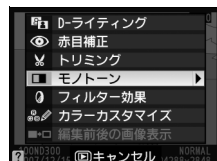
② メニュー項目を選んでから画像を選ぶ

の2通りの手順があります。ただし、[**編集前後の画像表示**]（P.342）は①のみ、[**画像合成**]（P.339）は手順②のみの操作手順になります。

■手順①：画像を選んでからメニュー項目を選ぶ

1　1コマ表示モード（P.207）で編集したい画像を選ぶ

2　Ⓞボタンを押す

Ⓞボタン

- 画像編集メニューが表示されます。

関連ページ

「WT-4使用時の画像編集メニューの制限について」（P.229）

3 メニュー項目を選ぶ

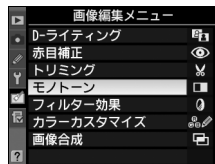
- マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選んで▶を押すと、選んだ項目の編集画面が表示されます。
- 編集画面の操作方法については、各項目の説明をご覧ください。
- メニュー項目によっては、さらに詳細なメニューが表示される場合があります。
- 画像編集を途中でやめるには、▶ボタンを押してください。1コマ表示モードに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- ㊍ボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には✍が付きます。

■手順②：メニュー項目を選んでから画像を選ぶ

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

- マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選んで▶を押します。
- 画像の選択画面が表示されます。
- メニュー項目によっては、さらに詳細なメニューが表示される場合があります。

2 画像を選ぶ

- マルチセレクターを▲▼◀▶、ななめ方向に押して画像を選びます。
- ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

3 編集画面を表示させる

- 画像を選んでⓄⓀボタンを押すと、編集画面が表示されます。
- 編集画面の操作方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、MENUボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- ⓄⓀボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像にはが付きます。

繰り返し画像編集を行う場合

画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。また、次の画像編集はできません。

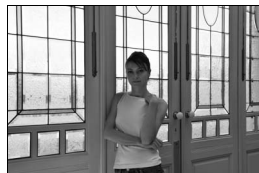
- 同じ画像編集を繰り返し行うこと
- ［**トリミング**］で作成した画像に対してさらに画像編集を行うこと
- ［**モノトーン**］で作成した画像に対して、さらに［**D-ライティング**］、［**赤目補正**］、［**フィルター効果**］、［**カラーカスタマイズ**］の画像編集を行うこと

画質モードと画像サイズについて

- ［**D-ライティング**］、［**赤目補正**］、［**モノトーン**］、［**フィルター効果**］、［**カラーカスタマイズ**］で作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録します。ただし、元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、［**画質モード**］が［**FINE**］、［**画像サイズ**］が［**サイズL**］のJPEG 画像を作成します。TIFF（RGB）で撮影された画像の場合、画質モードは［**FINE**］になりますが、元画像と同じ画像サイズで記録します。また、どの画質モードで撮影した画像も、［**JPEG圧縮**］は［**サイズ優先**］になります。
- ［**トリミング**］で作成した画像については、P.337をご覧ください。

D-ライティング

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。

D-ライティング前

D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクターの▲または▼を押して、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］の3段階から選びます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- ㊍ボタンを押すと、編集した画像を記録します。

赤目補正

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

編集画面では、プレビュー画像が表示され、次の操作ができます。

操作	ボタン	説明	
拡大率を上げる	⊕	ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。	拡大表示中にこれらの操作を行うと、画面の右下に画像全体が表示され、拡大部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、再度操作すると表示されます。
拡大率を下げる	⊖	ボタンを押すごとに、プレビュー画像の拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）する	マルチセレクター	拡大再生中に画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
拡大表示を終了する	OK	拡大表示中にOKボタンを押すと、拡大表示を終了します。	
画像を保存する	OK	補正した画像を記録します。	

✔ 赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。
  赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

切り抜く範囲を狭くする		ボタンを押すごとに枠が小さくなります。 • トリミングで切り抜かれる範囲は狭くなります。
切り抜く範囲を広くする		ボタンを押すごとに枠が大きくなります。 • トリミングで切り抜かれる範囲は広くなります。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、縦横比を3：2、4：3、5：4に変更できます。
画面をスクロール（移動）する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。
画像のプレビューを見る		トリミングした画像のイメージを見ることができます。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像を記録します。

トリミング画像の画質モードと画像サイズについて

- トリミング画像の画質モード（P.56）は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードや［**TIFF（RGB）**］のときは［**FINE**］になり、［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］のときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは、トリミング時の拡大率とアスペクト比により、次のうちのいずれかになります。

アスペクト比	画像サイズ
3：2	3424×2280、2560×1704、1920×1280、1280×856、960×640、640×424
4：3	3424×2568、2560×1920、1920×1440、1280×960、960×720、640×480
5：4	3216×2568、2400×1920、1808×1440、1200×960、896×720、608×480

モノトーン

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

［**モノトーン**］を選ぶと、右のメニューが表示され次の色調を選ぶことができます。

白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

編集画面では、プレビュー画像を表示します。

- ［**セピア**］または［**クール**］を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整（3段階）できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- Ⓞボタンを押すと、編集した画像を記録します。

フィルター効果

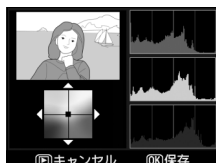
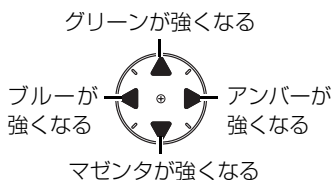
画像全体の色調を演出できます。

スカイライト	スカイライトフィルターと同様に、画像の青みを抑える効果があります。	 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
ウォームトーン	画像を暖色にする効果があります。	

- ㊇ボタンを押すと、編集した画像を記録します。

カラーカスタマイズ

画像全体の色調を調整できます。

右のような画面が表示され、マルチセレクターで画像全体の色調を調整できます。▲▼◀ ▶を押すたびに、画面全体の色調が次のように変わります。 グリーンが強くなる ブルーが強くなる アンバーが強くなる マゼンタが強くなる	 色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム（色の分布図：P.211）に反映されます。

- ㊇ボタンを押すと、編集した画像を記録します。

撮影したRAW画像からJPEG画像を作るには

RAW画像をJPEG画像に変換するには、［**カラーカスタマイズ**］でRAW画像を選び、調整を行わずに㊇ボタンを押してください。画質モードがFINE、画像サイズがLのJPEG画像のコピーを作成します。

画像合成

メモリーカードに記録されているRAW 画像2 コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

画像合成の手順は次の通りです。

1 ［画像合成］を選ぶ

- ［**画像合成**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、右のような画面が表示され、［**画像1**］欄がハイライト表示されます。

2 RAW画像を一覧表示する

- ㊚ボタンを押すと、RAW画像のサムネイル一覧が表示されます。

3 合成する画像の1 コマ目を選ぶ

- ▲▼◀▶で1コマ目の画像を選びます。
- ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。

4 1コマ目の画像を決定する

- ㊚ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、［**画像1**］欄にプレビューが表示されます。

5 ［画像1］のゲイン（出力）を設定する

- 合成画像の明るさが適正になるように、ゲインを設定します。
- ゲインは0.1 ～ 2.0 の範囲で、0.1 刻みで設定できます。

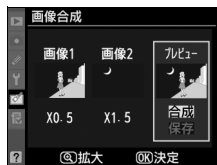
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。

- ［**プレビュー**］欄で、合成後のイメージを確認できます。

6 ［画像2］を選び、［画像1］と同様に、2 コマ目を選び、ゲインを設定する

- 手順2～5と同じ手順で［**画像2**］を設定します。

7 ［プレビュー］欄に移動する

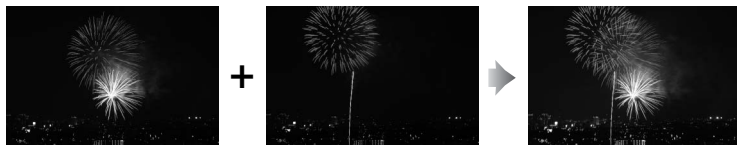
- 画像1、画像2の設定が終わったら、◀または▶で［プレビュー］欄に移動します。

8 合成画像を確認する

- ［**合成**］を選び、Ⓚボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。

- 設定をやり直したいときは、Q⊞を押してください。手順7の画面に戻ります。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、［**保存**］を選んでⓀボタンを押してください。

9 合成画像を保存する

- もう一度OKボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。

＋

✓ 画像合成についてのご注意

- 合成できる画像は、D300で撮影したRAW 画像だけです。機種の異なるカメラやRAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- ［**記録ビットモード**］が同じRAW画像のみ合成できます。
- 非表示設定されている画像は選べません。
- 合成画像の画質モード（P.56）と画像サイズ（P.60）は、合成時のカメラの設定になります（合成画像は全ての画質モード、画像サイズで保存できます）。画像合成を行う前に、これらの設定をご確認ください。合成した画像をさらに別のRAW 画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。
- 合成時に RAW を含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、記録方式は合成時のカメラの設定になります。
- 合成時の画質モードがJPEGの場合、［**JPEG圧縮**］は［**サイズ優先**］になります。
- 合成画像のホワイトバランス、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、［**画像1**］で選んだ画像の内容を引き継ぎます。

編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、編集元の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。

■編集前後の画像表示方法

1　1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像を選んでOKボタンを押すと、画像編集メニュー項目を表示します。
- 画像編集で作成した画像（ が表示されている画像）または画像編集の元画像のみを選べます。

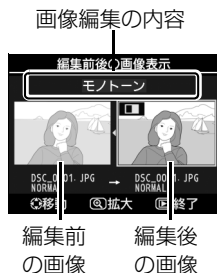
2　［編集前後の画像表示］を選ぶ

- ［**編集前後の画像表示**］を選んでOKボタンを押すと、［編集前後の画像表示］画面を表示します。

3 編集前と編集後の画像を比較する

画像編集の内容

編集前の画像　編集後の画像

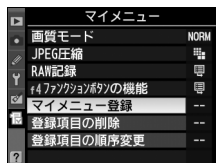
- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- 画像を囲んでいる黄色の枠上の矢印（▲▼◀ ▶）の方向にマルチセレクターを操作すると、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲または▼で2枚の元画像を切り換えられます。
- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ㊊ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。
- ▶ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

マイメニュー：よく使うメニューを登録する

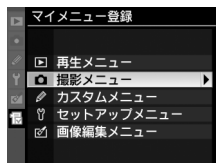
再生、撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、マイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

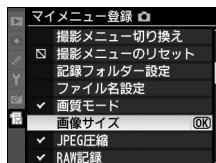
• メニューの操作方法については、P.24をご覧ください。

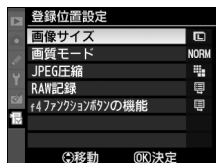
■マイメニューを登録する

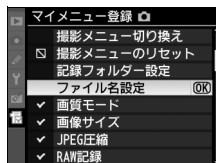
1 ［マイメニュー］画面で［マイメニュー登録］を選ぶ

• ［**マイメニュー登録**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

2 登録したいメニューを選ぶ

• 登録したいメニューを選んで▶を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。

3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

• マイメニューに登録する項目を選んでOKボタンを押します。

4 登録する項目の表示位置を選ぶ

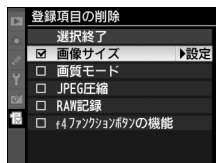
• ▲または▼で登録する項目の表示位置を選んで、OKボタンを押します。

5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

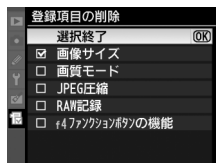
- ✔が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に⧅が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録しOKボタンを押すと、マイメニューに一覧表示されます。

登録した項目を削除する

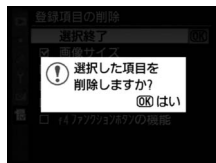
1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の削除］を選ぶ

- ［**登録項目の削除**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- ▶を押すと、項目の左側のチェックボックスが☑になります。
- 削除したい全ての項目に✔を入れます。

3 ［選択終了］を選ぶ

- ［**選択終了**］を選んでOKボタンを押すと、確認画面が表示されます。

4 選んだ項目を削除する

- OKボタンを押すと、選択した項目が削除されます。

ボタン操作で登録した項目を削除するには

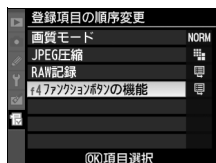
［マイメニュー］画面で削除したい項目を選んで🗑ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

登録した項目の表示順序を変える

1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の順序変更］を選ぶ

- ［**登録項目の順序変更**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、Ⓞボタンを押します。

3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

- ▲または▼で移動したい位置を選んで、Ⓞボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。

- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。

資料

この章は次の9部で構成されています。

使用できるレンズ

	モード	フォーカスモード			露出モード		測光モード		
							マルチパターン測光		中央部重点測光/スポット測光
レンズ		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	P S	A M	3D-RGB	RGB	
CPUレンズ※1	Gタイプレンズ※2、Dタイプレンズ※2、AF-Iレンズ、AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	○	×	○※3
	PCマイクロ 85mm F2.8D※4	×	○※5	○	×	○※6	○	×	○※3
	AF-S/AF-Iテレコンバーター※7	○※8	○※8	○	○	○	○	×	○※3
	Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○※9	○※9	○	○	○	×	○	○※3
	AI-Pニッコール	×	○※10	○	○	○	×	○	○※3
非CPUレンズなど※11	AI-S、AI、シリーズEレンズ、※12 AI改造レンズ	×	○※10	○	×	○※13	×	○※14	○※15
	メディカル120mm f/4	×	○	○	×	○※16	×	×	×
	レフレックスレンズ	×	×	○	×	○※13	×	×	○※15
	PCニッコール	×	○※5	○	×	○※17	×	×	○
	AI-S、AIテレコンバーター※18	×	○※8	○	×	○※13	×	○※14	○※15
	ベローズPB-6 ※19	×	○※8	○	×	○※20	×	×	○
	オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	×	○※8	○	×	○※13	×	×	○

※1　IXレンズは装着できません。
※2　このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※3　フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（P.102）。
※4　カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフトまたはティルト）をしているとき、または開放絞り以外に絞りが設定されているときには、正しく機能しません。

※5　あおり操作をしていない場合のみ可能。
※6　露出モードはMで使用可能。
※7　AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用（P.353）。
※8　合成絞り値がF5.6 以上明るい場合に使用可能。
※9　AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S（New）、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※10 開放絞りがF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
※11 一部装着不可能なレンズ（P.352）があります。
※12 AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。
※13 レンズ情報手動設定（P.198）でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内表示に絞り値が表示されます。
※14 レンズ情報手動設定（P.198）でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても充分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選択して撮影してください。
※15 レンズ情報手動設定（P.198）で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。
※16 露出モードがMでシャッタースピードが1/125 秒以下のときに使えます。レンズ情報手動設定（P.198）でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内表示に絞り値が表示されます。
※17 絞り込み測光で使用します。露出モードが A の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後あおりを行ってください。露出モードがMの場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。
※18 AI 28–85mm f/3.5–4.5S、AI 35–105mm f/3.5–4.5S、AI 35–135mm f/3.5–4.5S、AF-S 80–200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。詳細はテレコンバーターの使用説明書をご覧ください。
※19 オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。
※20 絞り込み測光で使用可能、露出モードがAの場合はベローズ側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。

• 複写装置PF-4へはカメラアダプター PA-4を併用すると装備できます。

使用できないレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 旧21mm f/4
- K2リング
- ED180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360–1200mm f/11 （製品 No.174031～174127）
- 200–600mm f/9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品 No.180900以前の製品）
- PC35 mm f/2.8（製品 No.851001～906200）
- 旧PC35 mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品 No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品 No.200111～200310）

レンズの開放F値とは

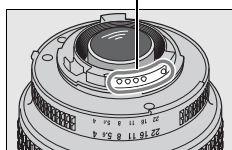
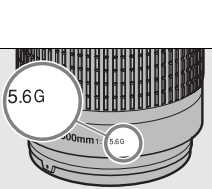
レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5–5.6」などと記されています。

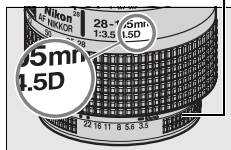
CPUレンズ、Gタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

CPUレンズにはCPU 信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。G タイプレンズには、絞りリングがありません。

CPU信号接点

CPUレンズ

5.6G

Gタイプレンズ

絞りリング

Dタイプレンズ

AF-S/AF-Iテレコンバーターについて

AF-S/AF-Iテレコンバーターは、AF-SレンズとAF-Iレンズ専用のテレコンバーターです。使用できるレンズは、次の通りです。

AF-S VR マイクロED 105mm f/2.8G ※1
AF-S VR ED 200mm f/2G
AF-S VR ED 300mm f/2.8G
AF-S ED 300mm f/2.8D II
AF-S ED 300mm f/2.8D
AF-I ED 300mm f/2.8D
AF-S ED 300mm f/4D ※2
AF-S ED 400mm f/2.8D II
AF-S ED 400mm f/2.8D
AF-I ED 400mm f/2.8D
AF-S ED 500mm f/4D II ※2
AF-S ED 500mm f/4D ※2
AF-I ED 500mm f/4D ※2
AF-S ED 600mm f/4D II ※2
AF-S ED 600mm f/4D ※2
AF-I ED 600mm f/4D ※2
AF-S VR ED 70–200mm f/2.8G
AF-S ED 80–200mm f/2.8D
AF-S VR ED 200–400mm f/4G ※2
AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR※2
AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR※2

※1 AF撮影はできません。
※2 AF-Sテレコンバーター TC-17E II/TC-20E II との組み合わせでは、AF撮影はできません。

非CPUレンズを使用する場合は

非CPUレンズを使用する場合は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（P.198）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などCPUレンズをカメラに装着した場合の機能の一部が使用できるようになります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、RGBマルチパターン測光が使用できなくなり、RGBマルチパターン測光にセットした場合は、自動的に中央部重点測光で測光されます。

また、非CPUレンズは、露出モードが**A**、**M**のときのみ使用できます。絞り値はレンズの絞りリングでのみ設定できます。［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値を設定しない場合、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞り値は、レンズの絞りリングで確認してください。露出モードを**P**または **S**に設定したときは、露出モードを自動的に**A**に切り換えて制御します。この場合は、表示パネルの**P**または**S**が点滅して警告し、ファインダー内表示に**A**が点灯します。

内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについてのご注意

- 内蔵フラッシュには、18mm から300mm までのCPUレンズが使用できます。
  - ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
  - 撮影距離60cm未満では使用できません。
  - マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
  - 次のAFレンズではフラッシュの光がさえぎられるため、焦点距離や撮影距離に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S DX ED 12–24mm f/4G	焦点距離18mm時の撮影距離1.5m以上、 焦点距離20mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S ED 17–35mm f/2.8D	焦点距離24mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S DX ED 17–55mm f/2.8G	焦点距離24mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF ED 18–35mm f/3.5–4.5D	焦点距離18mm時の撮影距離1.5m以上で使用可能
AF-S DX 18–135mm f/3.5–5.6G	焦点距離18mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S DX VR ED 18–200mm f/3.5–5.6G	焦点距離18mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF 20–35mm f/2.8D	焦点距離20mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S 24–70mm f/2.8G	焦点距離28mm時の撮影距離1.5m以上、 焦点距離35mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S ED 28–70mm f/2.8D	焦点距離28mm時の撮影距離1.5m以上、 焦点距離35mm時の撮影距離1m以上で使用可能

  - AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED使用時は、全ての撮影距離でケラレが発生します。
- 内蔵フラッシュ撮影時に使用可能な非CPUレンズは、18mmから300mm までのニッコール（Ai-S、Ai、改造Ai）、ニコンレンズシリーズEが使用できます。ただし、次のレンズは使用に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AI 50–300mm f/4.5 AI改 50–300mm f/4.5 AI-S ED 50–300mm f/4.5	焦点距離135mm 以上で使用可能
AI ED 50–300mm f/4.5	焦点距離105mm 以上で使用可能

赤目軽減モードについてのご注意

レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に充分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

AF 補助光撮影に制限のあるレンズについてのご注意

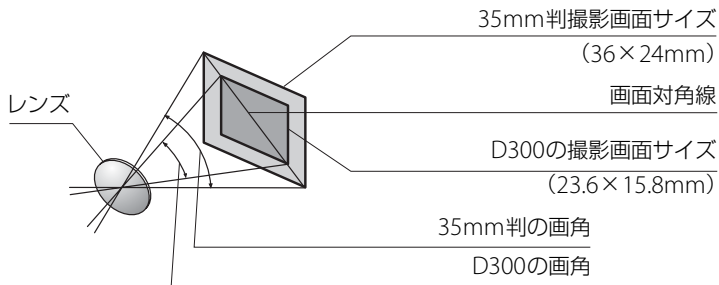
AF補助光撮影に制限のあるレンズは次の通りです。

AF補助光を使ってオートフォーカス撮影ができないレンズ
AF-S VR 200mm f/2G
AF-S VR ED 200–400mm f/4G

撮影距離によってAF補助光を使ったオートフォーカス撮影に制限のあるレンズ	
AF Micro 200mm f/4D	0.7m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。
AF-S VR ED 24–120mm f/3.5–5.6G	
AF Micro ED 70–180mm f/4.5–5.6D	
AF-S 17–35mm f/2.8D	
AF-S 17–55mm f/2.8G	
AF-S 24–70mm f/2.8G	
AF-S ED 28–70mm f/2.8D	
AF-S DX VR 55–200mm f/4–5.6G	1.1m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。
AF-S VR ED 70–200mm f/2.8G	1.5m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。
AF-S 80–200mm f/2.8D	
AF ED 80–200mm f/2.8D	
AF-S VR 70–300mm f/4.5–5.6G	
AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED	
AF VR ED 80–400mm f/4.5–5.6D	2.3m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。

レンズの画角と焦点距離について

D300ではさまざまなニコン一眼レフカメラ用レンズが使用できます。ただし、これらのレンズをD300に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは35 mm判カメラの撮影画面サイズ（36×24 mm）に対して、D300の撮影画面（約23.6×15.8 mm）が小さいためです。

例：D300に24 mmのレンズを装着した場合の画角は、35 mm判カメラ換算でおおよそ36 mmの焦点距離となります。

使用できるスピードライト（別売フラッシュ）

このカメラは、ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで、さまざまな機能が利用できます。

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、様々な機能を提供します。ニコンクリエイティブライティングシステムの主な機能は、次のとおりです。

- **i-TTLモード**：ニコンクリエイティブライティングシステム用のTTL調光モードです（P.172）。必ずモニター発光を行い、被写体からの反射光を測光して発光制御します。そのため、周辺光の影響を受けにくい特徴を持っています。
- **アドバンストワイヤレスライティング**：ワイヤレス増灯撮影時に、TTLモード（i-TTLモード）を使用できます。
- **FVロック撮影**：フラッシュの調光量を固定することで、同じ調光量を維持したまま撮影できます（P.180）。
- **オート FP ハイスピードシンクロ**：スピードライト撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます（P.289）。開放側の絞りが使用できるので、被写界深度をより浅くしたフラッシュ撮影ができます。

ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト

SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200の主な仕様

	SB-800	SB-600	SB-400	SB-R200※
ガイドナンバー（ISO 100・m/ISO 200・m、20℃）	38/53（照射角35mm時）	30/42（照射角35mm時）	21/30（照射角35mm時）	10/14
オートズーム機構	オートズーム機構（24～105mm）	オートズーム機構（24～85mm）	27mmレンズに対応	24mmレンズに対応
ワイドパネル使用時	14mm、17mmのレンズに対応	14mmのレンズに対応	—	—
バウンス	**垂直方向**：下7°～正面～上90° **水平方向**：右90°～正面～左180°	**垂直方向**：正面～上90° **水平方向**：右90°～正面～左180°	**垂直方向**：正面～上90°	**正位置を基準に下方（レンズ光軸側）**：60° **上方（レンズ光軸反対側）**：45°

※リモート発光用スピードライト SB-R200 を使用するには、内蔵フラッシュをコマンダーモードに設定するか、SB-800、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。

SU-800

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800は、CLS対応カメラに装着すると、ワイヤレスでSB-800、SB-600、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー=絞り値×撮影距離（m）」（ISO感度が100の場合）という関係があります。SB-800はガイドナンバーが38（ISO感度100、20℃）なので、ISO 感度が100 で絞り値がF5.6 なら、38 ÷ 5.6 = 約6.8mまでフラッシュの光が届くことになります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4 倍（$\sqrt{2}$ 倍）になります。たとえば、D300 でISO感度200 でSB-800 を使用すると、絞り値がF5.6 なら38 ÷ 5.6 × 1.4 = 約9.5mまで光が届きます。

SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200との組み合わせで使用できる機能

スピードライトSB-800、SB-600、SB-400、SB-R200 を使用する場合、スピードライトとレンズの組み合わせによって次の機能が使用できます。

			1灯のみで使用			アドバンストワイヤレスライティング				
						主灯として使用		補助灯として使用		
スピードライト			SB-800	SB-600	SB-400	SB-800	SU-800※1	SB-800	SB-600	SB-R200
発光モード	i-TTL	i-TTL-BL調光	○※2	○※2	○※2	○	○	○	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○※3	○※3	○※3					
	AA	絞り連動外部自動調光	○※4			○※5	○※5	○※5		
	A	外部自動調光	○※4			○※5		○※5		
	GN	距離優先マニュアル発光	○							
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○	○	○	○
	RPT	リピーティングフラッシュ	○			○	○	○	○	
機能		オートFPハイスピードシンクロ※6	○	○		○	○	○	○	○
		FVロック	○	○	○	○	○	○	○	○
		マルチエリアアクティブ補助光※7	○	○		○	○			
		発光色温度情報伝達	○	○	○	○				
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○
		赤目軽減発光	○	○	○	○				
		オートズーム	○	○		○				

※1 SU-800本体に発光機能はありません。表中の○は、SU-800がコマンダーとして補助灯を制御できる機能です。

※2 スポット測光時は設定できません。

※3 SB-800、SB-600の場合は、スピードライト側でも設定できます。

※4 **AA** モードと **A** モードの選択は、SB-800 のカスタム設定で行います。ただし、**AA**モード設定時でも、非CPUレンズを装着し、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない場合は、自動的に**A**モードになります。

※5 SB-800のカスタム設定にかかわらず、優先的に**AA**モードになります。ただし、非CPUレンズを装着し、［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない場合は、自動的に**A**モードになります。

※6 カスタムメニュー e1［**フラッシュ撮影同調速度**］（P.288）を［**1/320 秒（オートFP）**］または［**1/250秒（オートFP）**］に設定してください。

※7 非CPUレンズ装着時は機能しません。

その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。TTLにセットすると、カメラのシャッターボタンはロックされ、撮影できません。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト			**SB-80DX** **SB-28DX**	**SB-50DX**	**SB-28** **SB-26** **SB-25** **SB-24**	**SB-30** **SB-27**※1 **SB-22S** **SB-22** **SB-20** **SB-16B** **SB-15**	**SB-23** **SB-29**※2 **SB-21B**※2 **SB-29S**※2
区分	**A**	外部自動調光	○		○	○	
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
		マルチフラッシュ	○		○		
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 D300とSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードになりますが、TTLモードでは使えません。SB-27を強制Aモードに設定しなおしてください。

※2 SB-29S・29・21B使用時のオートフォーカス撮影は、一部のAFマイクロ（60mm・105mm・200mm）レンズ装着時のみ可能です。

スピードライト使用時のご注意

- スピードライトを装着すると、撮影状況にかかわらず、撮影時は常に発光します。
- 詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、D300はSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にレディーライト⚡が約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。
- i-TTL モード時のISO 感度連動範囲はISO200～ 3200 相当です。
- ISO感度を3200よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- スピードライトSB-800、SB-600、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- D300とSB-800、SB-600以外のスピードライトの組み合わせでは、カメラのAF補助光が発光します（P.273）。
- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800の使用時に、AF補助光の発光条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光（アクティブ補助光）が自動的に発光します。AF 補助光は焦点距離が24～105mmまでのAFレンズに対応しています。照射可能なフォーカスポイントは以下の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が24～34mmの場合		AF レンズの焦点距離が35 ～ 49mm の場合	
AFレンズの焦点距離が50～105mmの場合			

- 露出モードが**P**の場合、カメラが自動で設定する開放側の限界絞りは、使用するISO感度によって次のように制御されます。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）				
200	**400**	**800**	**1600**	**3200**
5	5.6	7.1	8	10

※感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

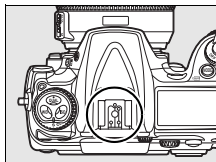
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

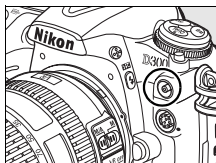
他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

アクセサリーシューとシンクロターミナル

アクセサリーシュー

別売のスピードライト（P.358）をアクセサリーシューに装着するとコードレスで使用することができます。このカメラは、セーフティーロック機構（ロック穴）を備えていますので、SB-800、SB-600、SB-400などのセーフティーロックピン付きのスピードライトを取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

シンクロターミナル

シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時に、シンクロコードをシンクロターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、後幕シンクロ撮影ができるスピードライトをアクセサリーシューに装着して後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行わないでください。

スピードライトSB-800、SB-600、SB-400 装着時の感度自動制御について

［**感度自動制御**］（P.98）を［**する**］に設定してスピードライトSB-800、SB-600またはSB-400 を装着すると、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし［**感度自動制御**］が［**する**］に設定されていても、次のような場合は手前の被写体が露出アンダーになることがあります。

- 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）を行う場合
- 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）を行う場合
- 背景が明るい場合

このようなときは、絞りを開くか、スローシンクロを解除する（P.173）と、露出アンダーが改善されます。

使用できるアクセサリー

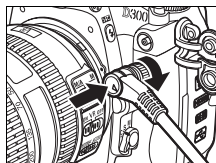
D300には撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

電源	• **Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e**（P.30、32） ニコンデジタルカメラD300用のバッテリーです。EN-EL3eを充電するには、クイックチャージャーMH-18aまたはMH-18を使用します。 • **マルチパワーバッテリーパックMB-D10** Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e、EN-EL4aまたはEN-EL4を1個※、単3形電池(アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池)8本を使用してカメラに電源を供給できます。MB-D10には縦位置シャッターボタンとメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤル、マルチセレクター、AF作動ボタンが装備されているので、縦位置での撮影に便利です。カメラ本体のMB-D10 用接点カバーを取り外して装着します。 ※ EN-EL4aおよびEN-EL4を使用する場合は、別売のバッテリー室カバー BL-3が必要です。 • **クイックチャージャー MH-18a**（P.30） Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e用のチャージャーです。 • **ACアダプター EH-5a、EH-5** D300で使用できるACアダプターです。
無線LAN アダプター	• **ワイヤレストランスミッター WT-4** - USB ケーブルでカメラと接続することにより、カメラで撮影した画像をパソコンでモニタリングして、パソコンに保存したい画像だけをワイヤレスで転送したり、別売のCamera Control Pro 2を使ってパソコンからカメラを遠隔操作できます。また、イーサネットケーブルを接続することにより有線でも通信できます。

無線LAN アダプター	- WT-4 には、カメラ本体とは別に電源が必要です。別売の Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e または AC アダプター EH-6をお使いください。 - WT-4をご使用になる場合は、無線LANの知識および環境が必要です。WT-4の詳細については、WT-4の使用説明書をご覧ください。
ファインダー用 アクセサリー	• **接眼補助レンズDK-20C** 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。－ 5、－ 4、－ 3、－ 2、0、＋ 0.5、＋1、＋2、＋3m^{-1}の9種類が用意されていますが、いずれもD300 の視度調節ノブが調節範囲の中央（－ 1m^{-1}）の場合の値です。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。D300 には視度調節機能がついています（－2～＋1m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにご使用ください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。 • **マグニファイングアイピースDK-21M** D300のファインダー倍率を約1.10倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・－1.0 m^{-1}のとき) に拡大します。 • **マグニファイヤー DG-2** ファインダー中央部の像を拡大します。接写や複写、超望遠撮影時など、より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。 • **アイピースアダプター DK-22** D300 にマグニファイヤー DG-2 を取り付けるためのアダプターです。 • **アングルファインダー DR-6** アングルファインダーDR-6をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。

フィルター	• ニコンフィルターには、ネジ込み式、後部交換式、および組み込み式の3種類があります。他社製の特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL）をご使用ください。 • フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターのご使用をおすすめします。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生する恐れがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。
スピードライト	• **ニコンスピードライトSB-800、SB-600、SB-400** • **ニコンワイヤレスリモートスピードライトSB-R200** • **ニコンワイヤレススピードライトコマンダー SU-800** D300 で使用できるスピードライトについては、「ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト」をご覧ください（P.358）。
PCカードアダプター	• **PCカードアダプター EC-AD1** CFカード（タイプ1）と組み合わせて、PC Card Standard-ATAに準拠したPCカードとして使用できます。CF カードの画像を、PCMCIAカードスロットを装備したパソコンに直接読み込めます。

ニコンデジタルカメラ専用ソフトウェア	• **Capture NX** 画像を詳細に編集できる、画像編集用ソフトウェアです。ホワイトバランス調整やカラーコントロールポイントなどさまざまな機能を備えています。必ず最新版※にバージョンアップしてお使いください。 • **Camera Control Pro 2** パソコンからカメラを操作して画像を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。 • **画像真正性検証ソフトウェア** 「画像真正性検証機能」（P.324）を使用して撮影した画像の真正性を判定するソフトウェアです。必ず最新版※にバージョンアップしてお使いください。 ※ ご使用のパソコンがインターネットに接続されていれば、ソフトウェアの起動時にニコンメッセージセンター（Nikon Message Center）が自動的に更新情報をチェックします。
ボディーキャップ	• レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

10ピンターミナルに接続するアクセサリー	10ピンターミナルに次のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影や無人撮影などができます。 • 使用しない場合は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。 • 10ピンターミナルへの接続は、図のように指標を合わせて接続します。

アクセサリー	用途	長さ
リモートコード MC-22	コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。	約1 m
リモートコード MC-30	カメラブレを避けたいときや、カメラから離れてレリーズ操作をしたいときに便利です。また、長時間露出（バルブ）撮影用に、シャッターボタンをロックする機能も備えています。	約80 cm
リモートコード MC-36	一定間隔で撮影するインターバルタイマー機能を備えたリモート撮影用コードです。露光時間を指定した長時間露出（バルブ）撮影もできます。照明付きの表示パネルや、レリーズボタンのロック機構、レリーズ時間を電子音で知らせる機能を備えています。	約85 cm
延長コード MC-21	MC-20、MC-22、MC-23、MC-25、MC-30、MC-36、ML-3に併用できる延長コードです（MC-21を2本以上接続して使用することはできません）。	約3 m
接続コード MC-23	10ピンターミナルを装備するカメラを2台同時に作動させるための接続コードです。	約40 cm
変換コード MC-25	2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーター MT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。	約20 cm
GPS変換コード MC-35	カメラとGPS機器で通信を行うための接続コードです。対応するGPS機器と通信することにより、撮影時の緯度、経度、標高、標準時（UTC）、撮影方位が画像データに記録されます（P.201）。MC-35とGPS機器との接続には、GPSメーカーのPC接続ケーブルが必要です。	約35 cm
ルミコントロールセット ML-3	最大で約8m離れたところから、信号（赤外パルス光）による遠隔操作ができます。また、あらかじめ設定した撮影位置に被写体が入ると自動的に撮影するオートトリガー撮影もできます。	—

使用できるCFカードとマイクロドライブ

次のCFカードとマイクロドライブが使用できます。

• CFカード（SanDisk）

Extreme IV	SDCFX4	8GB
		4GB
		2GB
Extreme III	SDCFX3	8GB
		4GB
		2GB
		1GB
Ultra II	SDCFH	8GB
		4GB
		2GB
		1GB
Standard	SDCFB	4GB
		2GB
		1GB

• CFカード（LEXAR MEDIA）

Professional UDMA	300×	8GB
		4GB
		2GB
Platinum II	80×	2GB
		1GB
		512MB
	60×	4GB
Professional	133×WA	8GB
		4GB
		2GB
		1GB
	80×Lt	2GB
		512MB

• マイクロドライブ

DSCM-11000	1GB
3K4-2	2GB
3K4-4	4GB
3K6	6GB

- 上記メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のメモリーカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%をこえる場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 **ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。**
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶タイプのブロアーは、缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

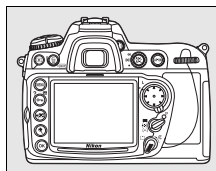
ローパスフィルターを自動で掃除する（イメージセンサークリーニング）

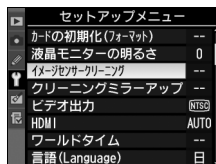
レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の表面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミを払い落とすことができます。

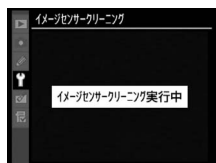
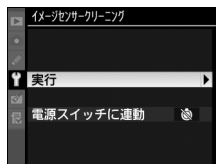
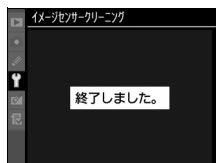
イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］から操作する

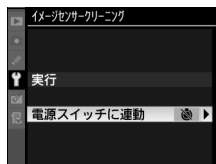
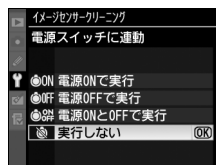
1 カメラを右図のように正位置に置く

- 効果的にゴミを払い落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてイメージセンサークリーニングを行ってください。

2 セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］を選ぶ

- ［**イメージセンサークリーニング**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［イメージセンサークリーニング］画面が表示されます。

3 ［実行］を選ぶ

- ［**実行**］を選んで▶を押すと、右の画面が表示され、イメージセンサークリーニングを開始します。

- イメージセンサークリーニングが完了すると、右の画面が表示されます。

電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニングする

1 ［イメージセンサークリーニング］画面で［電源スイッチに連動］を選ぶ

- ［**電源スイッチに連動**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［電源スイッチに連動］画面が表示されます。

2 次の項目から選んで、㊍ボタンを押す

ON 電源ONで実行	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
OFF 電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
ON/OFF 電源ONとOFFで実行	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない（初期設定）	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

イメージセンサークリーニングについてのご注意

- イメージセンサークリーニング作動中に次の操作をすると、イメージセンサークリーニングは中断します。
  - シャッターボタン半押しまたは全押しする
  - プレビューボタンを押す
  - **AF-ON**ボタンを押す
  - FVロックを行う
  - フラッシュロック解除ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のブロアーで掃除する（P.374）か、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

ローパスフィルターをブロアーで掃除する

イメージセンサークリーニング（P.371）でゴミやほこりをとりきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

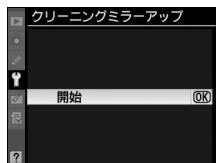
作業中のバッテリー切れを防ぐため、フル充電したバッテリー、または別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5をお使いください。

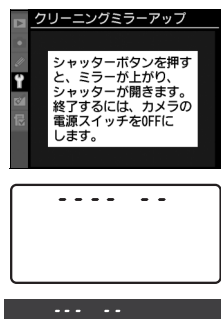
1 レンズを取り外す

レンズの取り付け、取り外しの際には、カメラの電源をOFFにしてください。

2 セットアップメニューで［クリーニングミラーアップ］※を選ぶ

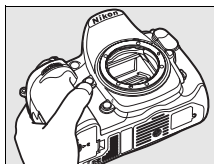
- ［**クリーニングミラーアップ**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

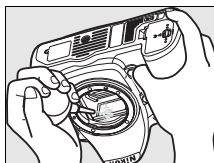
  ※バッテリー残量表示が（60%）以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

3 ㊀ボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 液晶モニター、表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されます。
- ローパスフィルターのお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。

4 シャッターボタンを押し込む

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは右のような点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。

5 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。

6 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払う

- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✓ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、ただちに作業を終了してください。

✓ ローパスフィルター上のゴミ付着について

ニコンデジタルカメラは撮像素子上のローパスフィルターに付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造しています。しかし、このカメラはレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子上のローパスフィルターに付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。その際、ボディーキャップのゴミも必ず除去してください。ローパスフィルターに付着したゴミを、イメージセンサークリーニング（P.371）で取り除ききれないときは、上記の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のCapture NX（P.367）や画像加工アプリケーションなどで修正できます。

✓ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- とくに業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやホコリが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について

撮像素子表面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法についてはP.371、P.374ページをご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液漏れなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFする

カメラの電源がONの状態で、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、常時点灯あるいは非点灯の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。予めご了承ください。また、記録される画像には影響ありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。
- カメラをご使用にならない場合や持ち運ぶ場合は、汚れ、傷を防ぐため液晶モニターに付属のモニターカバーを取り付けてください。

バッテリーの取り扱いについて

● 接点の汚れについて

バッテリーの接点が汚れている場合は、乾いた布などで拭いてください。

● 使用上のご注意

バッテリーの使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

- バッテリーはカメラの電源を OFF にしてから入れる。
- バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
- 必ず指定のバッテリーを使う。
- バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
- カメラから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。

● 撮影の前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影の前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● **予備バッテリーを用意する**

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● **低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する**

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● **バッテリーの残量について**

電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してご使用ください。

● **充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない**

バッテリー性能が劣化します。

● **バッテリーのリサイクルについて**

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは廃棄せず、再利用のためリサイクルにご協力ください。端子カバーを装着してからテープなどで固定して、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へご持参ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

表示関連

症状	ここをご確認ください	ページ
ファインダー内がはっきり見えない	視度調節ダイヤルで調節してください。調節後も見え方が不充分な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いください。	P.43
ファインダー内が暗い	バッテリー残量は充分ですか？　バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量が無い場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります。	P.44
ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう	カスタムメニューC2［**半押しタイマー**］やC4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］で、表示が消えるまでの時間を設定できます。	P.279、280
表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しない	下記の「デジタルカメラの特性について」をご覧ください。	P.381
表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い	低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。	—
ファインダー内に線や模様が見える	液晶の特性上、フォーカスポイントなどから外側に延びる細い線が見えたり、フォーカスポイントを照明するときにファインダー内が赤くなることがありますが、いずれも故障ではありません。	—

デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し（ACアダプター使用時はいったん外してから付け直し）、もう一度電源をONにしてください。このときバッテリーが熱くなっていることがあるので、取り扱いには充分にご注意ください。さらに不具合が続く場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

症状	ここをご確認ください	ページ
電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる	メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。	—
シャッターがきれない	• 残量のあるメモリーカードが入っていますか？	P.39、45
	• G タイプレンズ以外の CPU レンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（もっとも大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。表示パネルにFEEと表示されている場合、カスタムメニューf7［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます。	P.308
	• 露出モードMでシャッタースピードをbulbに設定し、そのまま露出モードをSに変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。	P.108
ピントが合わない	• マニュアルフォーカスになっていませんか？オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**、または**C**に合わせてください。	P.62
	• 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください。 明暗差がはっきりしない/遠くのものと近くのものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい	P.68、71
画像サイズが変更できない	［**画質モード**］が［**RAW**］のときは、画像サイズを変更できません。	P.59

症状	ここをご確認ください	ページ
設定できるシャッタースピードの範囲が狭い	フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］で、1/320～ 1/60秒の範囲で設定できます。［**1/320秒（オートFP）**］または［**1/250秒（オートFP）**］に設定して、別売のスピードライトSB-800、SB-600、SB-R200を使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です。	P.288
シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない	フォーカスモードセレクトダイヤルが**C**に設定されている場合、AE/AFロックボタンを押してフォーカスをロックしてください。	P.69
フォーカスポイントを選択できない	• フォーカスポイントロックレバー（マルチセレクター）が**L**（ロック）の位置になっていませんか？ • AFエリアモードがオートエリアAFモードのときは、選択できません。 • 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選択できません。 • カメラが待機状態になっていませんか？フォーカスポイントを選択するには、シャッターボタンを半押しして待機状態を解除してください。	P.66 P.64 — P.46
画像の記録に時間がかかる	撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］が［**する**］になっていませんか？	P.262
ライブビューで撮影した画像が記録されていない	• ［**手持ち撮影**］でシャッターボタンを半押しすると、ミラーがダウンしてピントを合わせられるようになります。シャッター音はしますが、全押ししない限り撮影されません。 • ［**手持ち撮影**］でフォーカスモードが**S**の場合、ピントが合っていないとシャッターボタンを全押ししても画像は記録されません。カスタムメニューa2［**AF-Sモード時の優先**］を［**レリーズ**］に設定すると、ピント状態に関係なくシャッターがきれます。	P.85 P.85、P.268

症状	ここをご確認ください	ページ
画像がざらつく	• ISO感度が高くなっていませんか？ ISO 800以上の高感度で撮影する場合、撮影メニュー［**高感度ノイズ低減**］を［**しない**］以外にすれば、ざらつきを軽減できます。	P.262
	• シャッタースピードが8秒より低速な場合は、ノイズが発生しやすくなります。撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］にして撮影すると、ざらつきを軽減できます。	P.262
AF補助光ランプが光らない	• 次の場合、AF補助光は発光しません。	
	- フォーカスモードセレクトダイヤルが**C**に設定されている場合	P.62
	- シングルポイントAFまたはダイナミックAF時に中央以外のフォーカスポイントが選択された場合	P.64
	• カスタムメニューa9［**内蔵AF補助光の照射設定**］が［**しない**］になっていませんか？	P.273
	• AF 補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に点灯が制限されます。少し時間をおくと再び点灯するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。	—
画像にゴミが写り込む	• レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？	—
	• 撮像素子の表面にあるローパスフィルターにゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください。	P.371
画像の色合いがおかしい	• ホワイトバランスは正しく設定されていますか？	P.128
	• 撮影メニュー［**ピクチャーコントロール**］は正しく設定されていますか？	P.148

症状	ここをご確認ください	ページ
ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない	被写体が明るすぎるか、暗すぎます。	P.140
ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある	この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません。	P.142
ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない	• ［**画質モード**］が［**RAW**］、［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC**］の場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません。 • ホワイトバランスブラケティングと多重露出による撮影を同時に行うことはできません。	P.56 P.190
［**ピクチャーコントロール**］の効果が安定しない	［**ピクチャーコントロール**］、［**カスタムピクチャーコントロール**］の調整画面で、［**輪郭強調**］、［**コントラスト**］、［**色の濃さ（彩度）**］のいずれかが［**A**］（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を［**A**］（オート）以外に設定してください。	P.154
測光モードが変更できない	AEロック中は測光モードを変更できません。	P.115
露出補正ができない	露出モードがMの場合、露出補正を行っても、露出インジケーターの表示が変化するだけで、シャッタースピードと絞りは変化しません。	P.116
画像の一部が赤っぽくなる	シャッタースピードをbulbにした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］にすることで軽減できます。	P.262
連続撮影できない	内蔵フラッシュが上がっているときは、連続撮影できません。	P.175

再生関連

症状	ここをご確認ください	ページ
画像の一部がチカチカと点滅する	画像情報の設定がハイライト表示になっています。	P.208、250
画像と重なって文字が表示される	画像情報の設定が撮影情報表示になっています。	P.208、250
グラフが表示される	画像情報の設定がRGBヒストグラム表示になっています	P.208、250
RAW画像が表示されない	［**画質モード**］を［**RAW ＋ FINE**］、［**RAW ＋ NORMAL**］、［**RAW＋BASIC**］にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません。	P.57
全ての画像が表示されない	再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。	P.249
画像の縦位置・横位置が正しく表示されない	• 再生メニュー［**縦位置自動回転**］が［**しない**］になっていませんか？ • セットアップメニュー［**縦横位置情報の記録**］が［**しない**］になっていませんか？ • 連続撮影したときの縦横位置は、最初の1コマを撮影した構図で固定されます。 • カメラを上向き・下向きにして撮影すると、姿勢情報が正しく得られない場合があります。	P.251 P.318 P.77 P.318
画像が削除できない	画像にプロテクトが設定されていませんか？	P.221
［撮影画像がありません］と表示される	メモリーカードを交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。	P.249
プリント指定ができない	メモリーカードの空き容量が不足していませんか？	P.45
ダイレクトプリントができない	セットアップメニュー［**USB設定**］が［**MTP/PTP**］になっていますか？	P.319
RAW画像をプリントできない	RAW画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアや別売のCapture NXなどのソフトウェアを使ってプリントしてください。	P.230
画像がテレビに映らない	セットアップメニュー［**ビデオ出力**］が正しく設定されていますか？	P.314

症状	ここをご確認ください	ページ
画像が HDMI 機器で再生できない	市販のHDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください。	P.244
画像をパソコンに転送できない	セットアップメニュー［**USB設定**］が正しく設定されていますか？	P.225
Capture NXで画像が表示されない	ソフトウェアのバージョンが最新になっていますか？	P.367
Camera Control Pro 2でカメラを操作できない	セットアップメニュー［**USB設定**］が正しく設定されていますか？	P.225

その他

症状	ここをご確認ください	ページ
撮影日時が正しく表示されない	カメラの内蔵時計は合っていますか？　カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	P.36
表示されているメニュー項目が選択できない	• 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選択できない場合があります。 • セットアップメニュー［**電池チェック**］は電源に別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5を使用している場合は選択できません。	— P.322

警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

こんなとき		原因	対処方法	ページ
表示パネル	ファインダー内表示			
FE E（点滅）	FE E（点滅）	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	P.35
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	P.44
（点滅）	（点滅）	• バッテリーが消耗しています。	• バッテリーを交換してください。 • バッテリーを充電してください。	P.30、32
		• バッテリーとの情報通信ができません。	• このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。	P.33
		• 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10装着時に、極端に消耗しているLi-ion リチャージャブルバッテリー（EN-EL3e、EN-EL4a、EN-EL4）、またはカメラと通信できないバッテリーをカメラかMB-D10 のいずれかで使用しています。	• 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。	P.30
			• カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。	P.xxiv、P.33、P.364

こんなとき		原因	対処方法	ページ
表示パネル	ファインダー内表示			
CLOCK（点滅）	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	P.36
⊿F	⊿F	開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	P.198
—	●（点滅）	オートフォーカスでピント合わせができません。	マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	P.71
H I	H I	被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を低くしてください。 • 露出モードがPのときはND（光量調節用フィルター）を使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 露出モードがSのときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 露出モードがAのときは絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。	P.96 P.366 P.108 P.109

こんなとき		原因	対処方法	ページ
表示パネル	ファインダー内表示			
Lo	Lo	被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を高くしてください。 • 露出モードがPのときはフラッシュを使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 露出モードがSのときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 露出モードがAのときは絞りを開いて（より小さい数値にして）ください。	P.96 P.173 P.108 P.109
bulb（点滅）	bulb（点滅）	露出モードがSのときにシャッタースピードがbulbにセットされています。	bulb以外のシャッタースピードにセットするか、露出モードをMにセットしてください。	P.108、111
（点滅）	（点滅）	i-TTL対応していないスピードライト（別売）をTTLモードにセットしています。	TTLモード以外のモードにセットしてください。	P.360

こんなとき		原因	対処方法	ページ
表示パネル	ファインダー内表示			
—	ϟ（点滅）	フラッシュがフル発光しました。	撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り、調光範囲、ISO 感度などをご確認ください。	P.405
FuLL（点滅）	FuL（点滅）	• 画像を記録する空き容量がありません。 • カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。	• カードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。	P.248 P.39
Err（点滅）	Err（点滅）	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	P.427

こんなとき		原因	対処方法	ページ
液晶モニター	表示パネル			
メモリーカードが入っていません。	[-E-]	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。	メモリーカードを正しくセットしてください。	P.39
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	[CHA] （点滅）	• メモリーカードへのアクセス異常です。	• このカメラ用のメモリーカードであるかどうかを確認してください。	P.369
			• メモリーカードがこわれている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。	P.427
		• 新規フォルダーが作成できません。	• メモリーカードに記録されている画像を削除して、メモリーカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。	P.248
			• 新しいメモリーカードに交換してください。	P.39

こんなとき		原因	対処方法	ページ
液晶モニター	表示パネル			
このメモリーカードは初期化(フォーマット)されていません。フォーマットしてください。	〔For〕(点滅)	メモリーカードが正しく初期化されていません。	• メモリーカードを初期化してください。 • 正しく初期化されたメモリーカードに交換してください。	P.41 P.39
撮影画像がありません。	—	• 撮影画像がありません。 • 再生するフォルダーの指定に問題があります。	• 画像が記録されているメモリーカードを入れてください。 • 再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で、表示可能な画像があるフォルダーを選択してください。	P.39 P.249
全ての画像が非表示に設定されています。	—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニューの［**非表示設定**］で、画像の非表示設定を解除してください。	P.249
このファイルは表示できません。	—	• アプリケーションソフトで編集された画像やDCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。	—

こんなとき		原因	対処方法	ページ
液晶モニター	表示パネル			
このファイルは選択できません。	—	メモリーカード内に画像編集できる画像がありません。	このカメラで作成した画像しか画像編集できません。	P.330
プリンターの状態を確認してください。	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んで ㊋ ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、［**継続**］を選べない場合があります）。	P.231
用紙を確認してください。※	—	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んで ㊋ ボタンを押して、プリントを再開してください。	P.231
紙詰まりです。※	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んで ㊋ ボタンを押して、プリントを再開してください。	P.231
用紙がありません。※	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んで ㊋ ボタンを押して、プリントを再開してください。	P.231

こんなとき		原因	対処方法	ページ
液晶モニター	表示パネル			
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］を選んで ㊿ ボタンを押して、プリントを再開してください。	P.231
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［**継続**］を選んで ㊿ ボタンを押して、プリントを再開してください。	P.231

※プリンターの使用説明書もあわせてご覧ください。

資料集

次のような情報を資料として掲載しています。

初期設定一覧

ご購入時のカメラの設定に戻すには、ツーボタンリセット（P.184）、撮影メニュー［**撮影メニューのリセット**］（P.257）またはカスタムメニュー［**カスタムメニューのリセット**］（P.266）を行います。これらのリセット操作を行うと、次の項目が初期設定に戻ります。

ツーボタンリセット（P.184）で初期設定に戻る項目

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">項目</th><th>初期設定</th></tr>
<tr><td rowspan="7">撮影メニュー項目※1</td><td colspan="2">［ISO感度］（P.96）</td><td>200</td></tr>
<tr><td colspan="2">［画質モード］（P.56）</td><td>NORMAL</td></tr>
<tr><td colspan="2">［画像サイズ］（P.60）</td><td>サイズL</td></tr>
<tr><td colspan="2">［ホワイトバランス］（P.128）</td><td>オート</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>微調整値（P.131）</td><td>解除</td></tr>
<tr><td>色温度設定（P.135）</td><td>5000K</td></tr>
<tr><td colspan="2">［ピクチャーコントロール］の調整値（P.152）※2</td><td>解除</td></tr>
<tr><td rowspan="10">撮影関連の設定</td><td colspan="2">フォーカスポイント（P.66）</td><td>中央</td></tr>
<tr><td colspan="2">露出モード（P.105）</td><td>P</td></tr>
<tr><td colspan="2">プログラムシフト（P.107）</td><td>解除</td></tr>
<tr><td colspan="2">AEロックのホールド状態（P.114）</td><td>解除</td></tr>
<tr><td colspan="2">露出補正（P.116）</td><td>解除</td></tr>
<tr><td colspan="2">調光補正（P.178）</td><td>解除</td></tr>
<tr><td colspan="2">オートブラケティング（P.118）</td><td>解除</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュモード（P.176）</td><td>先幕シンクロ</td></tr>
<tr><td colspan="2">FVロック（P.180）</td><td>解除</td></tr>
<tr><td colspan="2">多重露出（P.186）</td><td>解除</td></tr>
</table>

※1 初期設定に戻るのは、撮影メニューの［**撮影メニュー切り換え**］(P.255)で選択されている撮影メニュー（「A」～「D」のいずれか）の内容だけです。

※2 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

■［撮影メニューのリセット］（P.257）で初期設定に戻る項目※1

撮影メニュー項目		初期設定
［**ファイル名設定**］（P.260）		DSC
［**画質モード**］（P.56）		NORMAL
［**画像サイズ**］（P.60）		サイズL
［**JPEG圧縮**］（P.58）		サイズ優先
［**RAW記録**］（P.58）		
	［**記録方式**］（P.58）	ロスレス圧縮RAW
	［**記録ビットモード**］（P.59）	12ビット記録
［**ホワイトバランス**］（P.128）		オート
	微調整値（P.131）	解除
	色温度設定（P.135）	5000K
［**ピクチャーコントロール**］（P.148）		スタンダード
［**色空間**］（P.169）		sRGB
［**アクティブD-ライティング**］（P.168）		しない
［**長秒時ノイズ低減**］（P.262）		しない
［**高感度ノイズ低減**］（P.262）		標準
［**ISO感度設定**］（P.96）		
	［**ISO感度**］（P.96）	200
	［**感度自動制御**］（P.98）	しない
［**ライブビュー**］		
	［**ライブビューモード**］（P.80）	手持ち撮影
	［**レリーズモード**］（P.81）	1コマ撮影
［**多重露出**］（P.186）		設定解除※2
［**インターバルタイマー撮影**］（P.191）		設定解除※3

※1 初期設定に戻るのは、撮影メニューの［**撮影メニュー切り換え**］(P.255)で選択されている撮影メニュー（「**A**」～「**D**」のいずれか）の内容だけです（［**多重露出**］、［**インターバルタイマー撮影**］を除く）。

※2 全ての撮影メニューで初期状態（解除、コマ数：2、自動ゲイン補正：する）にリセットされます。なお、多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから解除されるまで［**撮影メニューのリセット**］を選択できません。

※3 実行中のインターバル撮影は終了します。全ての撮影メニューで初期状態（開始トリガー：即時スタート、時間間隔：1分、設定：1回×1コマ、撮影動作：開始しない）にリセットされます。

［カスタムメニューのリセット］（P.266）で初期設定に戻る項目※

項目		初期設定
a1	［**AF-Cモード時の優先**］（P.267）	レリーズ
a2	［**AF-Sモード時の優先**］（P.268）	フォーカス
a3	［**ダイナミックAFエリア**］（P.269）	9 点
a4	［**AFロックオン**］（P.271）	標準
a5	［**半押しAFレンズ駆動**］（P.271）	する
a6	［**フォーカスポイント照明**］（P.271）	オート
a7	［**フォーカスポイント循環選択**］（P.272）	しない
a8	［**AF点数切り換え**］（P.272）	51点
a9	［**内蔵AF補助光の照射設定**］（P.273）	する
a10	［**MB-D10のAF-ONボタン機能**］（P.274）	AF-ON
b1	［**ISO感度設定ステップ幅**］（P.275）	1/3 段
b2	［**露出設定ステップ幅**］（P.275）	1/3 段
b3	［**露出・調光補正ステップ幅**］（P.275）	1/3 段
b4	［**露出補正簡易設定**］（P.276）	しない
b5	［**中央部重点測光範囲**］（P.277）	φ 8 mm
b6	［**基準露出レベルの調節**］（P.277）	
	［**マルチパターン測光**］	0
	［**中央部重点測光**］	0
	［**スポット測光**］	0
c1	［**半押しAEロック**］（P.279）	しない
c2	［**半押しタイマー**］（P.279）	6 秒
c3	［**セルフタイマー**］（P.280）	10 秒
c4	［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（P.280）	20 秒

項目		初期設定
d1	［**電子音設定**］（P.281）	高音
d2	［**格子線の表示**］（P.281）	しない
d3	［**ファインダー内警告表示**］（P.282）	する
d4	［**低速連続撮影速度**］（P.282）	3コマ/ 秒
d5	［**連続撮影コマ数**］（P.282）	100
d6	［**連番モード**］（P.283）	する
d7	［**情報画面の表示設定**］（P.284）	自動
d8	［**イルミネーター点灯**］（P.285）	しない
d9	［**露出ディレーモード**］（P.285）	しない
d10	［**MB-D10電池設定**］（P.286）	アルカリ単3形電池
d11	［**電池の使用順序**］（P.287）	MB-D10から
e1	［**フラッシュ撮影同調速度**］（P.288）	1/250 秒
e2	［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］（P.291）	1/60 秒
e3	［**内蔵フラッシュ発光**］（P.291）	TTLモード
e4	［**モデリング発光**］（P.298）	する
e5	［**オートブラケティングのセット**］（P.298）	AE・フラッシュブラケティング
e6	［**BKT変化要素(Mモード)**］（P.299）	フラッシュ・シャッタースピード
e7	［**BKTの順序**］（P.300）	[0]→[－]→[+]

項目		初期設定
f1	［**中央ボタンの機能**］（P.301）	
	［**撮影モード**］	フォーカスポイント中央リセット
	［**再生モード**］	1コマとサムネイルの切り換え
f2	［**マルチセレクターの半押し起動**］（P.302）	しない
f3	［**上下左右機能入れ換え**］（P.302）	しない
f4	［**ファンクションボタンの機能**］（P.303）	
	［**ファンクションボタン押し時の動作**］	設定しない
	［**コマンドダイヤル併用時の動作**］	オートブラケティング
f5	［**プレビューボタンの機能**］（P.306）	
	［**プレビューボタン押し時の動作**］	プレビュー
	［**コマンドダイヤル併用時の動作**］	設定しない
f6	［**AE/AFロックボタンの機能**］（P.306）	
	［**AE/AFロックボタン押し時の動作**］	AE-L/AF-L
	［**コマンドダイヤル併用時の動作**］	設定しない
f7	［**コマンドダイヤルの設定**］（P.307）	
	［**回転方向の変更**］（P.307）	しない
	［**メインとサブの入れ換え**］（P.308）	しない
	［**絞り値の設定方法**］（P.308）	サブコマンドダイヤル
	［**再生/メニュー画面で使用**］（P.309）	しない
f8	［**ボタンのホールド設定**］（P.310）	しない
f9	［**カードなし時レリーズ**］（P.310）	レリーズ許可
f10	［**インジケーター表示の＋/－方向**］（P.311）	＋◀ ıııı 0 ıııı ▶－

※ 初期設定に戻るのは、カスタムメニューの［**カスタムメニュー切り換え**］(P.266)で選択されているカスタムメニュー（「A」～「D」のいずれか）の内容だけです。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮影された画像のファイルサイズは、画質モード（P.56）、画像サイズ（P.60）によって決まります。そのため、メモリーカードに記録できる画像のコマ数は、画質モード、画像サイズの組み合わせによって変化します。SanDisk社のExtreme III（SDCFX3）の2GBのメモリーカードを使用した場合、撮影できるコマ数は次のようになります。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※1	連続撮影可能コマ数※2
RAW（ロスレス圧縮RAW/12ビット記録）	—	約13.6MB	98コマ	18コマ
RAW（ロスレス圧縮RAW/14ビット記録）※3	—	約16.7MB	75コマ	21コマ
RAW（圧縮RAW/12ビット記録）	—	約11.3MB	135コマ	21コマ
RAW（圧縮RAW/14ビット記録）※3	—	約14.2MB	112コマ	27コマ
RAW（非圧縮RAW/12ビット記録）	—	約19.4MB	98コマ	17コマ
RAW（非圧縮RAW/14ビット記録）※3	—	約25.3MB	75コマ	16コマ
TIFF（RGB）	L	約36.5MB	52コマ	16コマ
	M	約21.2MB	93コマ	20コマ
	S	約10.2MB	208コマ	29コマ
FINE※4	L	約5.8MB	276コマ	43コマ
	M	約3.3MB	488コマ	89コマ
	S	約1.5MB	1000コマ	100コマ
NORMAL※4	L	約2.9MB	548コマ	90コマ
	M	約1.6MB	946コマ	100コマ
	S	約0.7MB	2000コマ	100コマ
BASIC※4	L	約1.5MB	1000コマ	100コマ
	M	約0.8MB	1800コマ	100コマ
	S	約0.4MB	3900コマ	100コマ

※1　撮影条件により、記録可能コマ数は増減することがあります。

※2　ISO感度がISO 200の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- ［**JPEG圧縮**］を［**画質優先**］に設定してJPEG画像を撮影した場合
- ISO感度（P.96）をH 0.3以上に設定した場合
- ISO 感度を ISO 800 以上に設定し、［**高感度ノイズ低減**］（P.262）を［**しない**］以外に設定した場合
- ［**アクティブD-ライティング**］（P.167）を［**しない**］以外に設定した場合
- ［**長秒時ノイズ低減**］（P.262）を［**する**］に設定した場合
- ［**感度自動制御**］（P.98）を［**する**］に設定し、［**高感度ノイズ低減**］を［**しない**］以外に設定した場合
- ［**画像真正性検証機能**］（P.324）を［**する**］に設定した場合

※3　連続撮影速度は、最大2.5コマ/秒になります。

※4　1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、［**JPEG圧縮**］（P.58）が［**サイズ優先**］に設定されている場合です。［**JPEG圧縮**］を［**画質優先**］に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。

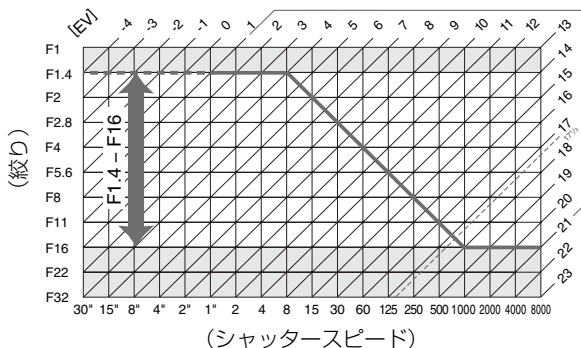
カスタムメニュー d5［連続撮影コマ数］（P.282）

カスタムメニューd5［**連続撮影コマ数**］では、連続撮影時の連続撮影コマ数を1～100コマの範囲で設定できます。

露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、露出モードがPのとき（P.106）の露出制御プログラム（ISO 200の場合）を表しています。

ISO200、開放絞りF1.4・最小絞りF16のレンズ（例：AF50mm f/1.4D）の場合

測光範囲：EV 1－21

- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 200の場合17 1/3を超えるEV値では、全て17 1/3として制御されます。

内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）と限界絞り値

内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値					調光範囲（m）
200	400	800	1600	3200	
1.4	2	2.8	4	5.6	1～8.5
2	2.8	4	5.6	8	0.7～6.1
2.8	4	5.6	8	11	0.6～4.2
4	5.6	8	11	16	0.6～3.0
5.6	8	11	16	22	0.6～2.1
8	11	16	22	32	0.6～1.5
11	16	22	32	–	0.6～1.1
16	22	32	–	–	0.6～0.8

※ 内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

- 露出モードがP（プログラムオート）の場合、内蔵フラッシュ使用時にカメラが自動で設定する限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）				
200	400	800	1600	3200
3.5	4	5	5.6	7.1

※ 感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D300

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
実撮影画角	レンズの焦点距離の約1.5倍に相当、ニコンDXフォーマット

有効画素数	
有効画素数	12.3 メガピクセル

撮像素子	
方式	23.6×15.8 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	13.1 メガピクセル
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（別売Capture NX必要）

記録形式	
記録画素数	• 4288×2848 ピクセル（サイズL） • 3216×2136 ピクセル（サイズM） • 2144×1424 ピクセル（サイズS）
画質モード	• RAW 12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮、非圧縮） • TIFF（RGB） • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）［サイズ優先］時、画質優先選択可能 • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード/ニュートラル/ビビッド/モノクロームから選択可能、それぞれ調整可能、カスタムピクチャーコントロール9種登録可能
記録媒体	コンパクトフラッシュカード（Type I/II、UDMA対応）、マイクロドライブ対応
対応規格	DCF 2.0（Design rule for Camera File system）、DPOF（Digital Print Order Format）、Exif 2.21（Exchangeable image file format for digital still cameras）、PictBridge

ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	上下左右とも約100%（対実画面）
倍率	約0.94倍（50mm f/1.4レンズ使用、∞、–1.0 m–1のとき）
アイポイント	19.5 mm（–1.0 m–1のとき）
視度調節範囲	–2～＋1 m–1
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンII （AFエリアフレーム付、構図用格子線表示可能）
ミラー	クイックリターン式
プレビュー	プレビューボタンによる絞り込み可能、露出モードA、Mでは設定絞り値まで絞り込み可能、P、Sでは制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ	
交換レンズ	• **DXレンズ**：フル機能使用可 • **GまたはDタイプレンズ**（IXニッコールを除く）：フル機能使用可（PCマイクロニッコールを除く） • **GまたはDタイプ以外のAFレンズ**（F3AF用を除く）：3D-RGBマルチパターン測光IIを除く機能使用可 • **Pタイプレンズ**：3D-RGBマルチパターン測光IIを除く機能使用可 • **非CPUレンズ**：露出モードA、Mで可、開放F値がF/5.6より明るい場合フォーカスエイド可、レンズ情報手動設定でRGBマルチパターン測光、絞り値表示など使用可（非AIレンズは使用不可）

シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	1/8000～30秒（1/3、1/2、1段ステップ）、Bulb、X250
フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/250秒、1/320秒以下の低速シャッタースピードで同調（1/250より1/320秒まではガイドナンバーが減少）

レリーズ機能	
レリーズモード	**S**（1コマ撮影）、**CL**（低速連続撮影）、**CH**（高速連続撮影）、Lv（ライブビュー撮影）、セルフタイマー（セルフタイマー撮影）、**MUP**（ミラーアップ撮影）

レリーズ機能	
連続撮影速度	**EN-EL3e使用時** CL：約1～6コマ/秒 CH：約6コマ/秒 **マルチパワーバッテリーパック MB-D10（EN-EL3e以外を使用時）またはACアダプター EH-5a/EH-5使用時** CL：約1～7コマ/秒 CH：約8コマ/秒
セルフタイマー	作動時間2、5、10、20秒に設定可能

露出制御	
測光方式	1005分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	• **マルチパターン測光**：3D-RGBマルチパターン測光II（GまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光II（その他のCPUレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光（非CPUレンズのレンズ情報手動設定時） • **中央部重点測光**：φ8 mm相当を測光（中央部重点度約75%）、φ6 mm、φ10 mm、φ13 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能 （非CPUレンズ使用時はφ8 mmに固定） • **スポット測光**：約φ3 mm相当（全画面の約2%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動（非CPUレンズ使用時は中央に固定）
測光範囲	• **マルチパターン測光、中央部重点測光**：0～20 EV • **スポット測光**：2～20 EV （ISO 100換算、 f /1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用
露出モード	P：プログラムオート（プログラムシフト可能）、S：シャッター優先オート、A：絞り優先オート、M：マニュアル
露出補正	範囲：±5段、補正ステップ：1/3、1/2、1段ステップ
オートブラケティング	• AE、フラッシュブラケティング時、撮影コマ数：2～9コマ、補正ステップ：1/3、1/2、2/3、1段ステップ • ホワイトバランスブラケティング時、撮影コマ数：2～9コマ、補正ステップ：1～3段ステップ
AEロック	AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式

露出制御	
ISO感度（推奨露光指数）	ISO 200～3200（1/3、1/2、1段ステップ）、ISO 200に対し約0.3、0.5、0.7、1段（ISO 100相当）の減感、ISO 3200に対し約0.3、0.5、0.7、1段（ISO 6400相当）の増感、感度自動制御が可能
アクティブD-ライティング	強め、標準、弱めから選択可能

オートフォーカス	
方式	• TTL 位相差検出方式：フォーカスポイント51点（うち、クロスタイプセンサー15点）、マルチCAM 3500DXオートフォーカスモジュールで検出、AF微調節可能、AF補助光（約0.5～3 m)付
検出範囲	–1～＋19 EV （ISO 100換算、常温（20℃））
レンズサーボ	• **オートフォーカス**：シングルAFサーボ（AF-S）またはコンティニュアスAFサーボ（AF-C)、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • **マニュアルフォーカス(M)**：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	• **AF51点設定時**：51点のフォーカスポイントから1点を選択 • **AF11点設定時**：11点のフォーカスポイントから1点を選択
AFエリアモード	シングルポイントAFモード、ダイナミックAFモード、オートエリアAFモード
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し

フラッシュ	
内蔵フラッシュ	押しボタン操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー： • 約17（マニュアルフル発光時約18）(ISO 200・m、20℃) • 約12（マニュアルフル発光時約13）（ISO 100相当・m、20℃）

フラッシュ	
調光方式	**1005分割RGBセンサーによる以下のTTL調光制御**：内蔵フラッシュ、SB-800、SB-600またはSB-400との組み合わせでi-TTL-BL調光、スタンダードi-TTL調光 **絞り連動外部自動調光（AA）**：SB-800とCPUレンズとの組み合わせ時 **外部自動調光（A）**：SB-800、SB-28、SB-27、SB-22Sなどとの組み合わせ時 **距離優先マニュアル発光(GN)**：SB-800との組み合わせ時
フラッシュモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ
調光補正	範囲：–3～+1段、補正ステップ：1/3、1/2、1段ステップ
レディーライト	内蔵フラッシュ、SB-800、SB-600、SB-400、SB-80DX、SB-28DX、SB-50DXなど使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリーシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	• SB-800、SB-600、SB-R200との組み合わせでアドバンストワイヤレスライティング（SB-600、SB-R200はリモートのみ）可能。コマンダーモード設定時は、内蔵フラッシュを主灯として制御可能 • オートFPハイスピードシンクロ、発光色温度情報伝達、モデリング発光、FVロックに対応（SB-400は発光色温度情報伝達、FVロックのみ対応）
シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO 519）装備（外れ防止ネジ付）

ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート（1005分割RGBセンサー、撮像素子併用によるホワイトバランス）、マニュアル7種（微調整可能）、色温度設定可能、ホワイトバランスブラケティング可能

ライブビュー機能	
撮影モード	手持ち撮影モード、三脚撮影モード
フォーカス	• **手持ち撮影モード**：TTL位相差検出方式、フォーカスポイント51点（うち、クロスタイプセンサー15点） • **三脚撮影モード**：コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能

液晶モニター	
液晶モニター	3型低温ポリシリコンTFT液晶、約92万ドット（VGA）、視野角170°、視野率100%、明るさ調整可能

再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル（4または9分割）、拡大再生、スライドショー、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影画像の縦位置自動回転、画像コメント入力可能（英数字36文字まで）

インターフェース	
USB	Hi-Speed USB
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能、ビデオ出力と液晶モニターの同時再生可能
HDMI出力	HDMIバージョン1.3a対応、HDMI出力端子（Type A）装備、HDMI出力と液晶モニターの同時再生不可
10ピンターミナル	• **リモートコントロール**：10ピンターミナルに接続 • **GPS**：10ピンターミナルに接続したGPS変換コードMC-35(別売）を介して、NMEA0183 Ver. 2.01およびVer. 3.01に準拠したGPS機器（D-sub 9ピンケーブル併用）に接続

表示言語	
表示言語	ドイツ語、英語、スペイン語、フィンランド語、フランス語、イタリア語、オランダ語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語、スウェーデン語、繁体中国語、簡体中国語、日本語、韓国語

電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e 1個使用
バッテリーパック	マルチパワーバッテリーパックMB-D10(別売)：Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL4a/EN-EL4(別売)※またはEN-EL3e 1個使用。単3形電池(アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池）8本使用 ※別売のバッテリー室カバー BL-3が必要です。
ACアダプター	ACアダプター EH-5a、EH-5（別売）

三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4 （ISO 1222）

大きさ・質量	
大きさ（W×H×D）	約147× 114× 74 mm
質量	約825 g（バッテリー本体、メモリーカード、ボディーキャップ、液晶モニターカバーを除く）

動作環境	
温度	0～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、全て常温（20 ℃）フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

クイックチャージャー MH-18a	
電源	AC 100 ～ 240 V（50/60 Hz）
充電出力	DC 8.4 V、900 mA
適応電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e
充電時間	約2時間15 分 ※残量のない状態からの充電時間
使用温度	0～40 ℃
寸法（W × H × D）	約90×35×58 mm
電源コード	長さ約1.8 m、日本国内専用AC 100V対応
質量	約80 g（電源コードを除く）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e	
形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.4 V、1500 mAh
寸法（W × H × D）	約39.5×56×21 mm
質量	約80 g（端子カバーを除く）

- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF（Digital Print Order Format）**：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.21**：（Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報をいかして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge**：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)** ：家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。
  1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。このカメラでは、Type Aのケーブルを使ってHDMI対応機器と接続します。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

カメラ単体または別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D10装着時の撮影可能コマ数（電池寿命）は、次の通りです。

- ［CIPA基準準拠※1］
  約1000コマ（カメラ本体でLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e使用時）
  約1000コマ（MB-D10を装着してEN-EL3e使用時）
  約2000コマ（MB-D10を装着してEN-EL4a使用時）
  約1000コマ（MB-D10を装着してアルカリ単3形電池使用時）
- ［当社試験条件※2］
  約3000コマ（カメラ本体でEN-EL3e使用時）
  約3000コマ（MB-D10を装着してEN-EL3e使用時）
  約5900コマ（MB-D10を装着してEN-EL4a使用時）
  約2500コマ（MB-D10を装着してアルカリ単3形電池使用時）

※1）初期設定条件で30 秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1 往復フォーカシング動作をさせて1 コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。レリーズ2 回につき1 回内蔵フラッシュを発光させる。装着レンズAF-S VR ED 24–120mm f/3.5–5.6G、温度23（± 2）℃。

※2）画質モードBASIC、画像サイズM、シャッタースピード1/250 秒、シャッターの半押しを3 秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6 回連続レリーズした後、液晶モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S VR ED 70–200mm f/2.8G、温度20℃。

※ 充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。また、単3形電池使用時は、銘柄や保管状態により撮影可能コマ数が減少することがあります。単3形電池は、銘柄によっては使用できないこともあります。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAW、TIFF（RGB）に設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- ワイヤレストランスミッター WT-4を使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3eの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにご使用ください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

索引

（［ ］内の項目はメニュー項目です）

英数・マーク

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

アフターサービスについて

■ この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、さらにご質問がございましたらニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■ 修理を依頼される場合は

この製品の修理を依頼される場合は、ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン　サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- カメラを修理に出される場合は、メモリーカードをカメラから取り出してください。

■ 補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店、またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■ インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社Webサイトでご覧いただくことができます。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:03-5977-7499

【お問い合わせ承り書】

太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：　　　年　月　日
お買い上げ日：　　　年　月　日
製品名：　　　シリアル番号：
フリガナ お名前：
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL: FAX:
ご使用のパソコンの機種名： メモリー容量：　　　ハードディスクの空き容量： OS のバージョン：　　　ご使用のインターフェースカード名： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）

※ このページはコピーしてお使いください。

※ 整理番号：

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

<ニコンカスタマーサポートセンター>

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

☎ **0570-02-8000**
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間:9:30〜18:00(年末年始、夏期休業等を除く毎日)
携帯電話、PHS、IP電話等をご使用の場合は、(03)5977-7033におかけください。
FAXでのご相談は、(03)5977-7499 におかけください。

修理サービスのご案内

修理サービスのご案内を下記URLにて行っております。
インターネットを利用して修理の申し込みができます。
「修理見積もり」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/service/repair/index.htm

<インターネットをご利用できない方の修理品送り先>

ニコンカメラ販売(株)修理センター 〒230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26 電話:(045)500-3050

営業時間:9:30〜17:30(土、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業など弊社定休日を除く毎日)

● 修理センターではご来所の方の窓口がございません。送付のみの対応となりますのでご了承ください。

株式会社ニコン・ニコンカメラ販売株式会社

Printed in Thailand
6MB00110-01